平成24年度

社会調査実習報告書

第　1　号

淑徳大学
コミュニティ政策学部

はしがき

本報告書は、コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科の「社会調査実習」を履修した学生の調査研究の成果である。

本学コミュニティ政策学科では、専門科目の分野別教育目標の１つとして、「社会事象や社会に関連する諸事実を明らかにするために、データの収集から分析にいたるまでの基礎的な事柄を理論と方法の両面から理解する」ことを掲げている。そして、コミュニティ研究の方法としての社会調査について、学生が体系を的に学習することを可能とするカリキュラムが編成されているところに大きな特徴がある。1年次前期に「社会調査論」、１年次後期「社会調査法」を履修し、２・３年次前期に「統計解析法」「社会統計学」、２・３年次後期に「量的解析法」を履修する。「社会調査論」「社会調査法」「統計解析法」「社会統計学」「量的解析法」の計５科目 10 単位を修得済みであることが、３・４年次前期の「社会調査実習」の履修の条件となる。「社会調査実習」は、社会調査法と統計解析について１～３年次で身につけてきた学習内容の集大成として、個別の研究テーマの設定から、テーマに関する仮説の検討、調査の方法的枠組みと分析方法の検討、調査対象の選定と調査票の作成、実査、データの集計、結果の解析、そして報告書による成果の公表にいたる一連の過程に、学生が主体となって取り組むものである。

平成 24 年度の担当教員は桝潟俊子、社会調査助手は佐藤麻衣であり、履修学生は４名であった。４名全員はすでに（社）社会調査協会の「社会調査士資格（見込み)」の認定を得ており、この「社会調査実習」の単位取得をもって、資格取得に必要な科目を履修済みとなる。

今年度の社会調査実習では、淑徳大学千葉キャンパスの周辺地域である千葉市中央区白旗台地区を対象とした。白旗台地区を選定した主な理由は、２つある。１つは、淑徳大学千葉キャンパスのまさにホーム・コミュニティであり、日頃から関わりが深い地域であること。もう１つは、白旗台地区は千葉市社会福祉協議会と連携し、早くから地区部会として地域福祉サービスの提供を活発に行ってきた地区であることによる。

また、今回の調査の実施にあたっては、長年、白旗台地区部会の部会長としてご尽力してこられた武井雅光氏はじめ役員の方々に一方ならぬご支援とご協力をいただきました。ここに記して、あらためてお礼申し上げる。

統計的調査は調査票を用いて郵送法と留置法を併用した方法で実施した。本調査では、白旗台地区部会の主な活動区域である９町丁に居住する 20 代から 70 代の男女（各世帯１名）1,409 名を、住宅地図を用いたエリア・サンプリングによってランダム（くじ引きのような方法）に抽出した。調査研究は調査対象となった方々のご協力によってはじめて成し遂げられる。調査にご協力いただいた白旗台地区の住民の方々に心より感謝申し上げる。なお、今回採用したエリア・ランダム・サンプリングの実際の手法・技法については、(株)ビデオリサーチの小柳雅司氏から豊富な経験にもとづいたご教示をいただいた。記して厚くお礼申し上げる。

これからの時代に求められる大学のあり方として、大学が立地する地域の社会問題を授業の一環として調査研究することも大学としての重要な地域貢献のあり方だと考える。地域コミュニティをよく知ることは、地域をよくする活動や仕事につながり、ひいては地域をよく生きることにつながる。短い期間ながら学生たちが懸命に取り組んだ本調査の成果が、地域福祉の向上とより良い地域づくりの一助となれば幸いである。

平成 25 年 3 月

コミュニティ政策学部教授　　桝潟 俊子

目　次

はしがき …… 桝潟俊子 …　i

第１章 問題意識と研究テーマ …… 榮木綾子・小島彩花・大橋沙織・宮本むつみ …　1
第２章 統計的調査の概要 …… 佐藤麻衣 …　3
第３章 調査対象地区の概要 ……　7
　３．１　白旗台地区の特性 …… 宮本むつみ・榮木綾子…　7
　３．２　白旗台地区部会の活動 …… 小島彩花 …　15
第４章 調査対象の特性 …… 大橋沙織 …　18
第５章 近隣付き合いと社会的ネットワーク …… 大橋沙織 …　22
第６章 社会関係の親密度と孤独感 …… 榮木綾子 …　36
第７章 居住意識とその規定要因 …… 小島彩花 …　51
第８章 幸福感の構造分析 …… 宮本むつみ …　64

あとがき …… 佐藤麻衣 …　73

付録
　単純集計結果 ……　75
　調査票 ……103

第１章　問題意識と研究テーマ

B0C005 榮木綾子　B0C044 小島彩花
B0C055 大橋沙織　B0C097 宮本むつみ

人は、生まれてから、家族を始め誰かに支えられ守られている。成長するにしたがって、活動の場は広がり、隣近所の人と遊び、地域の学校で友達と学び、社会人となってからは職場の人と共に仕事をするなど、様々な人と触れ合う。そして、高齢者になると、生活の中心が地域になり、地域で過ごす時間も増える。このように、人々とのつながりが育まれていくとともに、地域コミュニティが人々にとって重要なものとなる。

近年、家族、地域、職場などの社会関係の在り方は、それぞれ大きく変化している。その要因は、おもに雇用者や単身者世帯の増加や雇用形態の変容といった経済・社会環境の変化、生活の質や利便性の向上があげられる。また、従来は深く立ち入ったつながりを求める人が多かったが、最近は、適度に距離を置いたつながりを求めるといった人々の意識の変化も要因であると考えられる。

そうしたなかで、少子高齢化や価値観の多様化なども加わり、地域とのかかわりが希薄化し、地域コミュニティの弱体化が問題視されている。しかしながら、本調査の対象地域である白旗台地区では、千葉市社会福祉協議会と連携した地区部会が早くから結成され、地域福祉サービスの供給が活発に行われてきた。

以上のような問題意識から、私たちは高齢化しつつあるこの白旗台地域に住む人々の、地域生活について調査し、近隣付き合いと社会的ネットワーク、社会関係の親密度と孤独感、肯定的な居住意識の規定要因、幸福感の構造分析という４つのテーマを設定し、調査結果にもとづいて考察していく。

まず、白旗台地区に住む人々の近隣付き合いと社会的ネットワークに着目した。かつては日常生活において近隣との関係は深いものであった。しかし近年になって、従来の集団（家族や親せきなど）や地縁的組織よりも、ネットワークを通じた付き合いが増え、福祉や健康、経済活動など地域における課題解決にも影響をもたらしている。また、地域活動の参加にもネットワークが関わっているといわれている。そこで、近隣付き合いとネットワークの実態について調べ、その関係を明らかにするとともに、近隣付き合いの希薄化がこの地区でも起こっているのかについて考えたい（第５章）。

次に、経済の成熟や少子高齢化によって従来の社会関係が変容しつつあるなかで、人々はどの程度「孤独感」を抱いているのか興味をもった。まず、どのような人びとが孤独感をもっているのかを捉え、家族、親せき、職場、友人、地域の５つのレベルの社会関係における親密度との関係を分析する。なお、親密度は、５つのレベルの社会関係における交流の実態と社会的ネットワークの強弱を通して把握した。そして、この地域においてどのレベルの社会関係が親密であるのか、さらに社会関係の親密度と孤独感との関連を検証していく（第６章）。

さらに、地域に対する肯定的な意識であるといわれる住みやすさや愛着度、定住希望に着目し、白旗台地区に住んでいる人々はどのくらい肯定的な居住意識をもっているのかに

ついて調査した。また、白旗台地区の利便性や居住環境、地域サービスの評価、近隣付き合いの緊密度が、住みやすさや愛着度、定住希望という居住意識とどのように関係しているかについて分析し、居住意識と規定要因との関連について設定した仮説を検証していく（第７章）。

世界的にみると日本は豊かなわりに国民の幸福感が乏しいとの認識が広がっている。そこで、白旗台地区に住む人々はどの程度幸福感を感じているのかについて調べた。そして、幸福感を判断するときの基準として考えられる 12 項目を挙げ、幸福感を判断する基準としてどのくらい重視しているのか調べ、判断基準の重要度と幸福感の関連をみる。さらに、その判断基準の重要度と生活の実態はどのように関連しているのかについて分析し、人々の幸福感はどのように成り立っているのかを考える（第８章）。

以上のテーマの考察が、白旗台地区の住民の方々のより良い地域生活を送るうえでの一助となれば幸いである。

【参考文献】

内閣府国民生活局, 2007,『平成 19 年版　国民生活白書―つながりが築く豊かな国民生活』(http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/01_honpen/index.html).

第２章　統計的調査の概要

佐藤麻衣

２．１　調査の目的と調査票の概要

（１）調査の目的

この調査は、千葉市社会福祉協議会の地区部会のひとつである「白旗台地区」（詳細は第3 章を参照）に住む人々を対象とし、居住地域の利便性や地域の住みやすさ、愛着などの住意識、地域活動への参加状況、近隣関係や家族・友人関係のありよう、保有する社会的ネットワークなどを尋ねることで、地域コミュニティの実態に迫ることを目的としておこなった。

（２）調査票の概要

上記の目的をもとに、調査を行うにあたり、以下の質問項目を設定し、調査票を作成した（巻末「調査票」参照）。

居住地域の住みやすさを尋ねる項目（Ａ１）
自宅から駅までの距離を尋ねる項目（Ａ２）
ふだん利用するバスと電車の運行間隔を尋ねる項目（Ａ３）
ふだん利用するバスと電車の最終便の時間を尋ねる項目（Ａ４）
ふだん利用するバスと電車の代替路線の有無を尋ねる項目（Ａ５）
町内会・自治会への加入状況を尋ねる項目（Ａ６）
この１年間の地域活動への参加頻度を尋ねる項目（Ａ７）
地域サービスの認知状況と参加状況を尋ねる項目（Ａ８）
地域サービスの充実度に関する評価を尋ねる項目（Ａ９）
専門家・サービス機関への支援期待を尋ねる項目（Ａ１０）
近所づきあいのある人の数を尋ねる項目（Ｂ１）
この 10 年間での近所づきあいの変化を尋ねる項目（Ｂ２）
地域の人への支援期待を尋ねる項目（Ｂ３）
家族との会話頻度を尋ねる項目（Ｃ１）
家族との外出頻度を尋ねる項目（Ｃ２）
家族が自分を気にかけている程度を尋ねる項目（Ｃ３）
家族への支援期待を尋ねる項目（Ｃ４）
親戚との交流頻度を尋ねる項目（Ｄ１）
親戚への支援期待を尋ねる項目（Ｄ２）
職場の人との会話頻度を尋ねる項目（Ｅ１）
職場の人と共に余暇を過ごす頻度を尋ねる項目（Ｅ２）
職場での食事の状況を尋ねる項目（Ｅ３）
職場の人への支援期待を尋ねる項目（Ｅ４）

友人との会話頻度を尋ねる項目（Ｆ１）
友人と共に余暇を過ごす頻度を尋ねる項目（Ｆ２）
ほっとする友人の数を尋ねる項目（Ｆ３）
友人への支援期待を尋ねる項目（Ｆ４）
社会関係の重視度を尋ねる項目（Ｇ１）
幸福感を尋ねる項目（Ｈ１）
幸福感を判断するさいの基準の重要度を尋ねる項目（Ｈ２）
孤独感を尋ねる項目（Ｈ３）
この１週間内で他者と会話がなかった日の有無を尋ねる項目（Ｈ４）
性別を尋ねる項目（Ｊ１ａ）
年齢を尋ねる項目（Ｊ１ｂ）
配偶関係を尋ねる項目（Ｊ２）
同居家族を尋ねる項目（Ｊ３）
育児サポートが必要とされる年齢の子どもの有無を尋ねる項目（Ｊ４）
住居形態を尋ねる項目（Ｊ５）
職業を尋ねる項目（Ｋ１）
勤務形態を尋ねる項目（Ｋ２）
週あたりの仕事時間を尋ねる項目（Ｋ３）
平日１日あたりの自由時間を尋ねる項目（Ｋ４ａ）
休日１日あたりの自由時間を尋ねる項目（Ｋ４ｂ）
余暇の過ごし方を尋ねる項目（Ｋ５）
健康状態を尋ねる項目（Ｌ１）
収入を尋ねる項目（Ｌ２）
経済的な困窮度を尋ねる項目（Ｌ３）
居住年数を尋ねる項目（Ｍ１）
地域の住みやすさを尋ねる項目（Ｍ２）
地域への愛着を尋ねる項目（Ｍ３）
地域への定住希望を尋ねる項目（Ｍ４）

２．２　調査の名称と調査の主体

（１）調査の名称

「地域生活に関するアンケート」

（２）調査の主体

淑徳大学コミュニティ政策学部
2012 年度「社会調査実習」受講生
榮木　綾子　　小島　彩花　　大橋　沙織　　宮本　むつみ
調査責任者
淑徳大学教授　桝潟俊子　　社会調査助手　佐藤麻衣

２．３　調査対象

（１）母集団

千葉市社会福祉協議会の地区部会のひとつである白旗台地区部会の、活動対象区域に住む 20 代から 70 代の男女。

本調査では、白旗台地区部会の主な活動対象区域である 9 町丁――赤井町・今井町・鵜の森町・大森町・白旗・大巌寺町・花輪町・宮崎町・宮崎――を対象に、調査を行った。

白旗台地区を選定した理由は、白旗台地区は淑徳大学の周辺地域であるため日頃から関わりが深く、こうした調査をとおして地域の福祉向上の一助となれれば、と考えたためである。

20～70 代の男女を選定したのは、地域福祉がすべての世代にかかわってくる問題であるためである。

（２）対象者

調査対象区域 9 町丁にある 11,995 世帯中、1,500 世帯の抽出を目指した。

しかし、後述する手続き（「（３）選定方法」参照）を経た結果、実際に抽出された対象者は、1409 世帯に住む 20 代から 70 代の男女、各世帯 1 名、の 1409 名であった。

各世帯における対象者は、バースデー法（調査対象にあたる家族員のなかで、調査票の配布日以降、もっとも誕生日が早く来る人を対象者として選定する方法）によって、各世帯で選出してもらった。

（３）選定方法

①標本数の決定

標本数は、1500 人を抽出することを目指した。しかし、地図を用いたエリア・サンプリングでは、調査対象者に含まれない標本（調査対象年齢以外の年齢の人のみで構成されている世帯、および空き家や物置小屋など）も抽出してしまうことがあるため、等間隔に抽出すると 1500 人に満たない恐れがある。よって、抽出標本数は 1700 に決定した。

②抽出間隔の決定

白旗台地区の合計世帯数にもとづき、抽出間隔を 7 に決定した。

→　11995（合計世帯数）÷1700（抽出予定世帯数）＝7.06

各町丁のスタート地点は、1～7 の間で乱数を発生させ、決定した。

③地図上での抽出標本の決定

地図上における抽出標本の決定には、『ゼンリン住宅地図 A4 版 千葉市中央区』2012 年 2 月版を使用した。

調査対象にあたる 9 町丁の建物へ、各町丁ごとに番号を振っていき、②で算出したスタート地点および抽出間隔をもとに、抽出すべき標本を決定した。

なお、地図上の建物に番号を振るさいには、以下のようなルールを定めた。

- 二世帯入っている住宅には、原則的に、2 つ番号を振る。
- 物置小屋のように見える小さな建物にも、原則的に、すべて番号を振る。

・ 白旗台地区は、事業所・店舗が住居といっしょになっている場合も多いので、原則的に、すべての事業所・店舗に番号を振る（ただし、学校・病院・下水処理場などの公的施設は除く）。
・ その他、番号を振るべきかどうか迷った場合には、原則的に、すべて番号を振っておく。

また、集合住宅は以下のように対応することとした。

・ 『住宅地図』の巻末に、集合住宅内の戸数あるいは表札名が掲載されている場合には、各部屋に 1 つ番号を振る。
・ 巻末に戸数等が掲載されていない集合住宅は、原則的に、1 つ番号を振っておく。しかし、実際に調査地に出向いたさい、その建物が 20 戸以上のものであった場合には、集合住宅以前の抽出地点から数えて 7 番目の部屋に投函し、その後も、7 部屋間隔で 2 戸以上の世帯を抽出する。

※ ただし、集合住宅における標本の抽出が終了した後は、集合住宅における最後の抽出標本から 7 軒目の家を抽出し直すのではなく、調査地での混乱を避けるため、当初予定していた抽出地点に戻ることとした。

④補足：ポスティングの手続き

調査票をポスティングするさいには、以下のルールを定めた。

・ 事前に決めた建物が空き家や物置だった場合、隣の家などには配らずに、次の抽出地点へ行く。
・ ポストがない／見つからない場合には、投函しない／ドアに挟んでおく、などの方法が考えられるが、どうするかは住環境を見て、各チームの責任者が判断する。

二世帯住宅だった場合には、次のようなルールを定めた。

・ 事前に番号を 1 つしか振っていなかった建物の場合には、乱数表を用いて、偶数であれば、表札の上あるいは右に名前のある方の世帯へ、奇数であれば、表札の下あるいは左に名前のある方の世帯へ投函する（どちらの世帯に配られたものなのかがわかるように宛名を書いて投函する）。

２．４　統計的調査の方法

郵送法を併用した留置法

（抽出された世帯の郵便受けに調査票を配り、記入後、郵送してもらう方法）

調査時期　2012 年 6 月 29 日～7 月 5 日

回収結果　有効回収数（率）：381 票（27.0%）

第３章　調査対象地区の概要

今回の調査は、淑徳大学千葉キャンパスのホーム・コミュニティというべき「白旗台地区」で実施した。白旗台地区は、白旗、鵜の森町、今井町、大巌寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部で組織されているが、本調査はそのうちの９町丁――赤井町・今井町・鵜の森町・大森町・白旗・大巌寺町・花輪町・宮崎町・宮崎を対象地域として実施した。

白旗台地区は淑徳大学の近くの白旗にある千葉市立蘇我中学校の学区を構成する２地区のうちの北部にあたる地域である（南部は蘇我地区）。また、白旗台地区は高齢化がすすんでいるが、千葉市社会福祉協議会の「地区部会」として活発な活動が行われている地区である。

白旗台地区は下総台地の末端部に位置している。その周辺低地は宮崎１，２丁目であり、東方の台地に白旗町、鵜の森町、大森町がある。なお、かつてこの地区の南は樹脂状に入り込んだ水田地帯があり、その周辺の大巌寺町、花輪町、赤井町の地形は複雑である。水田は埋立て宅地化され、住宅開発がすすめられた。地域には数世代にわたって住み続けてきた人々、旧川崎製鉄関係者、そして 1992 年の京葉線開通以降に首都圏や県内から転居してきた人々が暮らしている。

本章では、「国勢調査」（平成 22 年）のデータを用いて白旗台地区の特性を把握するとともに、白旗台地区における千葉市社会福祉協議会の「地区部会」活動をみていく。

３．１　白旗台地区の特性

B0C097　宮本むつみ　（１）～（２）
B0C005　榮木綾子　（３）～（６）

ここでは、今回の調査対象地域である白旗台地区の特性を、総務省統計局「平成 22 年国勢調査」の小地域集計の千葉市中央区町丁別データを用いてみていく。

（１）総人口と高齢化率

表３－１によると、白旗台地区の総人口は 25,512 人と千葉市中央区の総人口の約１割を占めている。男性が 51.7%（13,197 人）、女性が 48.3%（12,315 人）と、やや男性のほうが多い地域である。

白旗台地区の高齢化率（総人口に占める 65 歳以上人口の割合）は 20.5%となっており、千葉市中央区計と千葉市計とほぼ同じである。白旗台地区のなかで一番高齢化率の高い町丁は白旗１丁目で、34.3%である。

次に、表３－２（１）から年齢別に人口構成をみると、60 歳代以上の高年齢層が 28.2%（60 歳代が 13.7%、70 歳代が 10.2%、80 歳以上が 4.3%）で３割近くを占めているのに対して、19 歳以下の若年齢層は 16.6%で２割弱であり、白旗台地区は高齢化傾向にあることがわかる。

表３－１　男女別総人口と高齢化率

	総人口		男性		女性		高齢化率(%)
	実数(人)	構成比（%）	実数(人)	構成比（%）	実数(人)	構成比（%）	
白旗台地区計	25,512	100.0	13,197	51.7	12,315	48.3	20.5
赤井町	1,419	100.0	696	49.0	723	51.0	27.0
今井町	832	100.0	439	52.8	393	47.2	28.4
鵜の森町	1,129	100.0	560	49.6	569	50.4	20.3
大森町	5,270	100.0	2,743	52.0	2,527	48.0	22.1
白旗１丁目	1,166	100.0	548	47.0	618	53.0	34.3
白旗２丁目	1,326	100.0	670	50.5	656	49.5	27.7
白旗３丁目	1,528	100.0	795	52.0	733	48.0	23.8
大巌寺町	2,034	100.0	1,073	52.8	961	47.2	28.6
花輪町	712	100.0	372	52.2	340	47.8	25.0
宮崎１丁目	996	100.0	580	58.2	416	41.8	15.1
宮崎２丁目	1,553	100.0	890	57.3	663	42.7	16.9
宮崎町	7,547	100.0	3,831	50.8	3,716	49.2	13.3
千葉市中央区計	199,364	100.0	100,697	50.5	98,667	49.5	20.5
千葉市計	961,749	100.0	480,194	49.9	481,555	50.1	20.7

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

表３－２（１）　年齢別総人口、総数

		総人口	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳
白旗台地区計	実数（人）	25,512	4,266	2,845	3,666	3,517	3,080	3,465	2,584	1,092	997
	構成比(%)	100.0	16.6	11.2	14.3	13.7	12.1	13.7	10.2	4.3	3.9
赤井町	実数（人）	1,419	273	97	216	155	157	163	158	145	55
	構成比(%)	100.0	19.2	6.8	15.2	10.9	11.1	11.5	11.1	10.2	3.9
今井町	実数（人）	832	93	90	94	98	113	161	114	39	30
	構成比(%)	100.0	11.2	10.8	11.3	11.8	13.6	19.4	13.7	4.7	3.6
鵜の森町	実数（人）	1,129	189	109	189	165	125	153	110	48	41
	構成比(%)	100.0	16.7	9.7	16.7	14.6	11.1	13.6	9.7	4.3	3.6
大森町	実数（人）	5,270	816	664	682	690	680	721	566	248	203
	構成比(%)	100.0	15.5	12.6	12.9	13.1	12.9	13.7	10.7	4.7	3.9
白旗１丁目	実数（人）	1,166	122	90	135	105	125	250	194	78	67
	構成比(%)	100.0	10.5	7.7	11.6	9	10.7	21.4	16.6	6.7	5.7
白旗２丁目	実数（人）	1,326	137	167	145	135	190	267	154	83	48
	構成比(%)	100.0	10.3	12.6	10.9	10.2	14.3	20.1	11.6	6.3	3.6
白旗３丁目	実数（人）	1,528	273	131	206	237	160	196	198	68	59
	構成比(%)	100.0	17.9	8.6	13.5	15.5	10.5	12.8	13	4.5	3.9
大巌寺町	実数（人）	2,034	252	266	237	263	209	344	306	87	70
	構成比(%)	100.0	12.4	13.1	11.7	12.9	10.3	16.9	15	4.3	3.4
花輪町	実数（人）	712	88	78	71	63	131	147	91	28	15
	構成比(%)	100.0	12.4	11	10	8.8	18.4	20.6	12.8	3.9	2.1
宮崎１丁目	実数（人）	996	125	220	160	128	129	91	72	36	35
	構成比(%)	100.0	12.6	22.1	16.1	12.9	13	9.1	7.2	3.6	3.5
宮崎２丁目	実数（人）	1,553	287	165	276	224	191	198	98	75	39
	構成比(%)	100.0	18.5	10.6	17.8	14.4	12.3	12.7	6.3	4.8	2.5
宮崎町	実数（人）	7,547	1,611	768	1,255	1,254	870	774	523	157	335
	構成比(%)	100.0	21.3	10.2	16.6	16.6	11.5	10.3	6.9	2.1	4.4
千葉市中央区計	実数（人）	199,364	31,335	23,880	30,947	27,575	22,481	26,177	18,582	9,948	8,439
	構成比(%)	100.0	15.7	12	15.5	13.8	11.3	13.1	9.3	5	4.2
千葉市計	実数（人）	961,749	166,562	98,835	142,881	135,697	111,553	142,534	90,980	40,276	32,431
	構成比(%)	100.0	17.3	10.3	14.9	14.1	11.6	14.8	9.5	4.2	3.4

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

さらに、表３－２（２）ならびに（３）から、年齢構成を性別でみると、19 歳以下の若年齢層が占める割合は男女ともほぼ同じだが、60 歳代以上の高年齢層が占める割合は男性が 26.1%、女性が 30.0%であり、女性のほうが高齢層の割合が高い。

表３－２（２）　年齢別総人口、男性

		総人口	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳
白旗台地区計	実数（人）	13,197	2,225	1,486	1,915	1,895	1,679	1,793	1,238	413	553
	構成比(%)	100.0	16.9	11.3	14.5	14.4	12.7	13.6	9.4	3.1	4.2
赤井町	実数（人）	696	144	51	96	91	82	82	70	52	28
	構成比(%)	100.0	20.7	7.3	13.8	13.1	11.8	11.8	10.1	7.5	4.0
今井町	実数（人）	439	50	53	54	58	55	85	47	20	17
	構成比(%)	100.0	11.4	12.1	12.3	13.2	12.5	19.4	10.7	4.6	3.9
鵜の森町	実数（人）	560	90	63	95	90	68	77	49	11	17
	構成比(%)	100.0	16.1	11.3	17.0	16.1	12.1	13.8	8.8	2.0	3.0
大森町	実数（人）	2,743	4347	330	373	369	369	387	266	103	112
	構成比(%)	100.0	15.8	12.0	13.6	13.5	13.5	14.1	9.7	3.8	4.1
白旗１丁目	実数（人）	548	56	38	71	58	63	116	85	21	4
	構成比(%)	100.0	10.2	6.9	13.0	10.6	11.5	21.2	15.5	3.8	7.3
白旗２丁目	実数（人）	670	73	74	82	68	91	143	85	32	22
	構成比(%)	100.0	10.9	11.0	12.2	10.1	13.6	21.3	12.7	4.8	3.3
白旗３丁目	実数（人）	796	140	69	110	128	93	98	94	27	36
	構成比(%)	100.0	17.6	8.7	13.8	16.1	11.7	12.3	11.8	3.4	4.5
大巌寺町	実数（人）	1,073	132	137	125	152	136	154	159	38	40
	構成比(%)	100.0	12.3	12.8	11.6	14.2	12.7	14.4	14.8	3.5	3.7
花輪町	実数（人）	372	54	39	43	31	64	80	43	11	7
	構成比(%)	100.0	14.5	10.5	11.6	8.3	17.2	21.5	11.6	3.0	1.9
宮崎１丁目	実数（人）	580	60	172	99	75	79	42	25	14	14
	構成比(%)	100.0	10.3	29.7	17.1	12.9	13.6	7.2	4.3	2.4	2.4
宮崎２丁目	実数（人）	890	162	85	139	132	123	137	65	22	25
	構成比(%)	100.0	18.2	9.6	15.6	14.8	13.8	15.4	7.3	2.5	2.8
宮崎町	実数（人）	3,831	830	375	628	643	456	392	250	62	195
	構成比(%)	100.0	21.7	9.8	16.4	16.8	11.9	10.2	6.5	1.6	5.1
千葉市中央区計	実数（人）	100,697	16,129	12,004	15,788	14,598	11,945	13,053	8,635	3,577	4,968
	構成比(%)	100.0	16.0	11.9	15.7	14.5	11.9	13.0	8.6	3.6	4.9
千葉市計	実数（人）	480,194	85,704	50,107	71,968	69,765	55,704	68,921	44,741	14,376	18,908
	構成比(%)	100.0	17.8	10.4	15.0	14.5	11.6	14.0	9.3	3.0	3.9

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

表３－２（３）　年齢別総人口、女性

		総人口	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	不詳
白旗台地区計	実数（人）	12,315	2,041	1,359	1,751	1,622	1,401	1,672	1,346	679	444
	構成比（%）	100.0	16.6	11	14.2	13.2	11.4	13.6	10.9	5.5	3.6
赤井町	実数（人）	723	129	46	120	64	75	81	88	93	27
	構成比（%）	100.0	17.8	6.4	16.6	8.9	10.4	11.2	12.2	12.9	3.7
今井町	実数（人）	393	43	37	40	40	58	76	67	19	13
	構成比（%）	100.0	10.9	9.4	10.2	10.2	14.8	19.3	17	4.8	3.3
鵜の森町	実数（人）	569	99	46	94	75	57	76	61	37	24
	構成比（%）	100.0	17.4	8.1	16.5	13.2	10	13.4	10.7	6.5	4.2
大森町	実数（人）	2,527	382	334	309	321	311	334	300	145	91
	構成比（%）	100.0	15.1	13.2	12.2	12.7	12.3	13.2	11.9	5.7	3.6
白旗１丁目	実数（人）	618	66	52	64	47	62	134	109	57	27
	構成比（%）	100.0	10.7	8.4	10.4	7.6	10	21.7	17.6	9.2	4.4
白旗２丁目	実数（人）	656	64	93	63	67	99	124	69	51	26
	構成比（%）	100.0	9.8	14.2	9.6	10.2	15.1	18.9	10.5	7.8	4
白旗３丁目	実数（人）	733	133	62	96	109	67	98	104	41	23
	構成比（%）	100.0	18.1	8.5	13.1	14.9	9.1	13.4	14.2	5.6	3.1
大巌寺町	実数（人）	961	120	129	112	111	73	190	147	49	30
	構成比（%）	100.0	12.5	13.4	11.7	11.6	7.6	19.8	15.3	5.1	3.1
花輪町	実数（人）	340	34	39	28	32	67	67	48	17	8
	構成比（%）	100.0	10	11.5	8.2	9.4	19.7	19.7	14.1	5	2.4
宮崎１丁目	実数（人）	416	65	48	61	53	50	49	47	22	21
	構成比（%）	100.0	15.6	11.5	14.7	12.7	12	11.8	11.3	5.3	5
宮崎２丁目	実数（人）	663	125	80	137	92	68	61	33	53	14
	構成比（%）	100.0	18.9	12.1	20.7	13.9	10.3	9.2	5	8	2.1
宮崎町	実数（人）	3,716	781	393	627	611	414	382	273	95	140
	構成比（%）	100.0	21	10.6	16.9	16.4	11.1	10.3	7.3	2.6	3.8
千葉市中央区計	実数（人）	98,667	15,206	11,876	15,159	12,977	10,536	13,124	9,947	6,371	3,471
	構成比（%）	100.0	15.4	12	15.4	13.2	10.7	13.3	10.1	6.5	3.5
千葉市計	実数（人）	481,555	80,858	48,728	70,913	65,932	55,849	73,613	46,239	25,900	13,523
	構成比（%）	100.0	16.8	10.1	14.7	13.7	11.6	15.3	9.6	5.4	2.8

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

（２）世帯構成と配偶関係

白旗台地区の世帯数は 11,231 世帯で、世帯構成は核家族世帯が 53.3%（5,988 世帯）、単独世帯が 38.7%（4,343 世帯）、３世代世帯が 3.8%（431 世帯）となっている。核家族世帯が一番多いのは花輪町（72.0%）、単独世帯が一番多いのは宮崎１丁目（63.4%）、３世代世帯が一番多いのは今井町（8.5%）であった（表３－３）。

表３ - ３　世帯数と世帯構成

	総数		核家族世帯		単独世帯		３世代世帯	
	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）
白旗台地区計	11,231	100.0	5,988	53.3	4,343	38.7	431	3.8
赤井町	461	100.0	314	68.1	70	15.2	39	8.5
今井町	409	100.0	202	49.4	179	43.8	16	3.9
鵜の森町	494	100.0	278	56.3	171	34.6	16	3.2
大森町	2,335	100.0	1,183	50.7	927	39.7	119	5.1
白旗１丁目	652	100.0	282	43.3	339	52.0	11	1.7
白旗２丁目	652	100.0	311	47.7	290	44.5	14	2.1
白旗３丁目	670	100.0	351	52.4	261	39.0	30	4.5
大巌寺町	1,048	100.0	430	41.0	545	52.0	44	4.2
花輪町	275	100.0	198	72.0	59	21.5	14	5.1
宮崎１丁目	566	100.0	167	29.5	359	63.4	15	2.7
宮崎２丁目	634	100.0	330	52.1	284	44.8	7	1.1
宮崎町	3,035	100.0	1,942	64.0	859	28.3	106	3.5
千葉市中央区計	93,427	100.0	44,820	48.0	41,479	44.4	3,081	3.3
千葉市計	405,602	100.0	243,038	59.9	131,700	32.5	13,805	3.4

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

配偶関係は、未婚が 29.0%（6,197 人）、有配偶が 56.3%（12,054 人）、離別・死別が 11.4%（2,446 人）であった。

表３ - ４　配偶関係

	総数		未婚		有配偶		離別・死別		不詳	
	実数(人)	構成比（%）	実数(人)	構成比（%）	実数(人)	構成比（%）	実数(人)	構成比（%）	実数(人)	構成比（%）
白旗台地区計	21,393	100.0	6,197	29.0	12,054	56.3	2,446	11.4	696	3.3
赤井町	1,128	100.0	208	18.4	711	63.0	164	14.5	45	4.0
今井町	751	100.0	244	32.5	372	49.5	96	12.8	39	5.2
鵜の森町	956	100.0	267	27.9	565	59.1	99	10.4	25	2.6
大森町	4,487	100.0	1,373	30.6	2,457	54.8	524	11.7	133	3.0
白旗１丁目	1,015	100.0	278	27.4	456	44.9	261	25.7	20	2.0
白旗２丁目	1,196	100.0	397	33.2	612	51.2	154	12.9	33	2.8
白旗３丁目	1,257	100.0	363	28.9	693	55.1	149	11.9	52	4.1
大巌寺町	1,811	100.0	621	34.3	887	49.0	226	12.5	77	4.3
花輪町	650	100.0	196	30.2	380	58.5	60	9.2	14	2.2
宮崎１丁目	869	100.0	378	43.5	401	46.1	68	7.8	22	2.5
宮崎２丁目	1,291	100.0	341	26.4	675	52.3	183	14.2	92	7.1
宮崎町	5,982	100.0	1,531	25.6	3,845	64.3	462	7.7	144	2.4
千葉市中央区計	167,727	100.0	51,416	30.7	90,336	53.9	20,083	12.0	5,892	3.5
千葉市計	805,346	100.0	220,416	27.4	479,616	59.6	87,085	10.8	18,229	2.3

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

（３）住居の建て方

白旗台地区の主世帯数は 10,673 世帯であり、その約半数（48.7%）が一戸建てである。町丁別に一戸建ての割合をみると、花輪町においては 92.3%を占めている一方で、白旗１丁目ではわずか 5.7%と、町丁のあいだで大きな差がみられる。共同住宅をみると、11 階建て以上に高層共同住宅のある地域は宮崎町のみである（表３－５）。

表３ - ５　住居の建て方（７区分）別住宅に住む主世帯数

区分	総数		一戸建		長屋建		共同住宅								その他	
							1・2階建		3～5階建		6～10階建		11階建以上			
	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）	実数（世帯）	構成比（%）
白旗台地区計	10,673	100.0	5,196	48.7	136	1.3	2,478	23.2	1,396	13.1	1,158	10.8	298	2.8	10	0.1
赤井町	449	100.0	413	92.0	4	0.9	31	6.9	0	－	0	－	0	－	1	0.2
今井町	409	100.0	264	64.5	9	2.2	135	33.0	1	0.2	0	－	0	－	0	－
鵜の森町	448	100.0	167	37.3	0	－	44	9.8	40	8.9	197	44.0	0	－	0	－
大森町	2,296	100.0	1,373	59.8	16	0.7	828	36.1	79	3.4	0	－	0	－	0	－
白旗１丁目	652	100.0	37	5.7	1	0.2	37	5.7	577	88.5	0	－	0	－	0	－
白旗２丁目	639	100.0	320	50.1	8	1.3	119	18.6	92	14.4	97	15.2	0	－	3	0.5
白旗３丁目	654	100.0	395	60.4	19	2.9	189	28.9	50	7.6	0	－	0	－	1	0.2
大巌寺町	1,030	100.0	526	51.1	34	3.3	406	39.4	63	6.1	0	－	0	－	1	0.1
花輪町	274	100.0	253	92.3	0	－	20	7.3	0	－	0	－	0	－	1	0.4
宮崎１丁目	340	100.0	140	41.2	5	1.5	89	26.2	79	23.2	27	7.9	0	－	0	－
宮崎２丁目	563	100.0	129	22.9	2	0.4	82	14.6	205	36.4	144	25.6	0	－	0	－
宮崎町	2,919	100.0	1,179	40.4	38	1.3	498	17.1	210	7.2	693	23.7	298	10.2	3	0.1
千葉市中央区計	89,900	100.0	36,261	40.3	890	1.0	16,507	18.4	13,833	15.4	11,898	13.2	10,351	11.5	142	0.2
千葉市計	394,012	100.0	157,203	39.9	5,746	1.5	52,673	13.4	92,749	23.5	37,579	9.5	47,556	12.1	457	0.1

（注）総数には「不詳」も含む。

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

（４）労働力状態

表３－６（１）～（３）から、白旗台地区における労働力状態をみると、労働力人口が全体の 57.9%、非労働力人口は 33.5%であり、前者のほうが多い。労働力人口の最も多い町丁は宮崎１丁目の 70.7%であり、反対に最も少ない地域は白旗１丁目の 49.7%である。また、男性（69.0%）のほうが女性（46.2%）よりも労働力率が高い。そして、女性の場合、12 の町丁のうち７つの地域で非労働力人口が労働力人口を上回っている。

表３ - ６（１）　労働力状態（２区分）、男女別 15 歳以上人口、総数

区分	総数		労働力人口		非労働力人口		不詳	
	実数（人）	構成比（%）	実数（人）	構成比（%）	実数（人）	構成比（%）	実数（人）	構成比（%）
白旗台地区計	21,393	100.0	12,392	57.9	7,175	33.5	1,826	8.5
赤井町	1,128	100.0	610	54.1	463	41.0	55	4.9
今井町	751	100.0	402	53.5	290	38.6	59	7.9
鵜の森町	956	100.0	569	59.5	289	30.2	98	10.3
大森町	4,487	100.0	2,617	58.3	1,426	31.8	444	9.9
白旗１丁目	1,015	100.0	504	49.7	382	37.6	129	12.7
白旗２丁目	1,196	100.0	675	56.4	423	35.4	98	8.2
白旗３丁目	1,257	100.0	667	53.1	426	33.9	164	13.0
大巌寺町	1,811	100.0	954	52.7	689	38.0	168	9.3
花輪町	650	100.0	350	53.8	263	40.5	37	5.7
宮崎１丁目	869	100.0	614	70.7	209	24.1	46	5.3
宮崎２丁目	1,291	100.0	762	59.0	484	37.5	45	3.5
宮崎町	5,982	100.0	3,668	61.3	1,831	30.6	483	8.1
千葉市中央区計	167,727	100.0	97,583	58.2	55,459	33.1	14,685	8.8
千葉市計	805,346	100.0	458,125	56.9	279,020	34.6	68,201	8.5

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

表３－６（２）　労働力状態（２区分）、男女別 15 歳以上人口、男性

区分	総数		労働力人口		非労働力人口		不詳	
	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)
白旗台地区計	11,027	100.0	7,604	69.0	2,444	22.2	979	8.9
赤井町	543	100.0	373	68.7	140	25.8	30	5.5
今井町	393	100.0	246	62.6	113	28.8	34	8.7
鵜の森町	485	100.0	350	72.2	84	17.3	51	10.5
大森町	2,335	100.0	1,597	68.4	501	21.5	237	10.1
白旗１丁目	467	100.0	285	61.0	125	26.8	57	12.2
白旗２丁目	596	100.0	389	65.3	160	26.8	47	7.9
白旗３丁目	651	100.0	418	64.2	143	22.0	90	13.8
大巌寺町	953	100.0	582	61.1	270	28.3	101	10.6
花輪町	335	100.0	212	63.3	99	29.6	24	7.2
宮崎１丁目	521	100.0	432	82.9	62	11.9	27	5.2
宮崎２丁目	743	100.0	502	67.6	215	28.9	26	3.5
宮崎町	3,005	100.0	2,218	73.8	532	17.7	255	8.5
千葉市中央区計	83,824	100.0	57,838	69.0	18,041	21.5	7,945	9.5
千葉市計	397,805	100.0	271,307	68.2	91,104	22.9	35,394	8.9

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

表３－６（３）　労働力状態（２区分）、男女別 15 歳以上人口、女性

区分	総数		労働力人口		非労働力人口		不詳	
	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)
白旗台地区計	10,366	100.0	4,788	46.2	4,731	45.6	847	8.2
赤井町	585	100.0	237	40.5	323	55.2	25	4.3
今井町	358	100.0	156	43.6	177	49.4	25	7.0
鵜の森町	471	100.0	219	46.5	205	43.5	47	10.0
大森町	2,152	100.0	1,020	47.4	925	43.0	207	9.6
白旗１丁目	548	100.0	219	40.0	257	46.9	72	13.1
白旗２丁目	600	100.0	286	47.7	263	43.8	51	8.5
白旗３丁目	606	100.0	249	41.1	283	46.7	74	12.2
大巌寺町	858	100.0	372	43.4	419	48.8	67	7.8
花輪町	315	100.0	138	43.8	164	52.1	13	4.1
宮崎１丁目	348	100.0	182	52.3	147	42.2	19	5.5
宮崎２丁目	548	100.0	260	47.4	269	49.1	19	3.5
宮崎町	2,977	100.0	1,450	48.7	1,299	43.6	228	7.7
千葉市中央区計	83,903	100.0	39,745	47.4	37,418	44.6	6,740	8.0
千葉市計	407,541	100.0	186,818	45.8	187,916	46.1	32,807	8.0

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

（５）就業上の地位

表３－７（１）～（３）から、白旗台地区における就業者の就業上の地位をみると、雇用者が 89.2%、自営業主が 5.2%、家族従業者が 1.2%であり、雇用者が大部分を占めている。性別のあいだで雇用者の割合に差はみられないが、自営業主では女性（4.1%）より男性(5.8%)、家族従業者では男性（0.3%）よりも女性（2.5%）のほうがやや高い。

表３－７（１）　就業上の地位（３区分）、男女別 15 歳以上就業者数、総数

区分	総数		雇用者（役員を含む）		自営業主（家庭内職者を含む）		家族従業者	
	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)
白旗台地区計	11,626	100.0	10,369	89.2	599	5.2	139	1.2
赤井町	572	100.0	497	86.9	40	7.0	13	2.3
今井町	375	100.0	335	89.3	15	4.0	6	1.6
鵜の森町	547	100.0	490	89.6	33	6.0	4	0.7
大森町	2,413	100.0	2,133	88.4	121	5.0	31	1.3
白旗１丁目	444	100.0	409	92.1	23	5.2	2	0.5
白旗２丁目	619	100.0	512	82.7	60	9.7	21	3.4
白旗３丁目	636	100.0	552	86.8	41	6.4	5	0.8
大巌寺町	878	100.0	753	85.8	52	5.9	14	1.6
花輪町	324	100.0	291	89.8	23	7.1	4	1.2
宮崎１丁目	592	100.0	539	91.0	24	4.1	9	1.5
宮崎２丁目	720	100.0	669	92.9	20	2.8	4	0.6
宮崎町	3,506	100.0	3,189	91.0	147	4.2	26	0.7
千葉市中央区計	91,829	100.0	80,078	87.2	5,810	6.3	1,590	1.7
千葉市計	430,838	100.0	379,333	88.0	25,560	5.9	6,853	1.6

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

表３－７（２）　就業上の地位（３区分）、男女別 15 歳以上就業者数、男性

区分	総数		雇用者（役員を含む）		自営業主（家庭内職者を含む）		家族従業者	
	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)
白旗台地区計	7,056	100.0	6,297	89.2	412	5.8	23	0.3
赤井町	349	100.0	305	87.4	33	9.5	1	0.3
今井町	221	100.0	195	88.2	12	5.4	1	0.5
鵜の森町	338	100.0	304	89.9	21	6.2	0	－
大森町	1,447	100.0	1,265	87.4	87	6.0	8	0.6
白旗１丁目	243	100.0	226	93.0	12	4.9	1	0.4
白旗２丁目	343	100.0	285	83.1	38	11.1	2	0.6
白旗３丁目	394	100.0	342	86.8	25	6.3	1	0.3
大巌寺町	531	100.0	446	84.0	43	8.1	2	0.4
花輪町	195	100.0	168	86.2	21	10.8	1	0.5
宮崎１丁目	420	100.0	395	94.0	12	2.9	2	0.5
宮崎２丁目	469	100.0	439	93.6	10	2.1	1	0.2
宮崎町	2,106	100.0	1,927	91.5	98	4.7	3	0.1
千葉市中央区計	53,952	100.0	46,964	87.0	3,943	7.3	303	0.6
千葉市計	253,015	100.0	222,004	87.7	18,573	7.3	1,267	0.5

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

表３－７（３）　就業上の地位（３区分）、男女別 15 歳以上就業者数、女性

区分	総数		雇用者（役員を含む）		自営業主（家庭内職者を含む）		家族従業者	
	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)
白旗台地区計	4,570	100.0	4,072	89.1	187	4.1	116	2.5
赤井町	223	100.0	192	86.1	7	3.1	12	5.4
今井町	154	100.0	140	90.9	3	1.9	5	3.2
鵜の森町	209	100.0	186	89.0	12	5.7	4	1.9
大森町	966	100.0	868	89.9	34	3.5	23	2.4
白旗１丁目	201	100.0	183	91.0	11	5.5	1	0.5
白旗２丁目	276	100.0	227	82.2	22	8.0	19	6.9
白旗３丁目	242	100.0	210	86.8	16	6.6	4	1.7
大巌寺町	347	100.0	307	88.5	9	2.6	12	3.5
花輪町	129	100.0	123	95.3	2	1.6	3	2.3
宮崎１丁目	172	100.0	144	83.7	12	7.0	7	4.1
宮崎２丁目	251	100.0	230	91.6	10	4.0	3	1.2
宮崎町	1,400	100.0	1,262	90.1	49	3.5	23	1.6
千葉市中央区計	37,877	100.0	33,114	87.4	1,667	4.4	1,287	3.4
千葉市計	177,823	100.0	157,329	88.5	6,987	3.9	5,586	3.1

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

（６）従事している産業

表３―８（１）～（３）から、白旗台地区における就業者が従事している産業をみると、卸売業・小売業が最も多く、全体の 16.8%を占めている。次いで製造業の 11.7%である。

性別にみると、男性においては製造業に従事している割合が最も高く、次いで卸売業・小売業が多い。女性においては卸売業・小売業が最も多く、次いで医療・福祉に従事している割合が高い。農業・林業は男女ともごく僅か（0.3～0.5%）であるが、農地が残っている赤井町、花輪町、大巌寺町では、他の町丁と比較して農業に従事している割合がやや高い。

表３－８（１）　産業（大分類）、男女別 15 歳以上就業者数、総数

単位（%）

区分	総数		農業，林業	うち農業	漁業	鉱業，採石業，砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業，郵便業	卸売業，小売業	金融業，保険業	不動産業，物品賃貸業	学術研究，専門・技術サービス業	宿泊業，飲食サービス業	生活関連サービス業，娯楽業	教育，学習支援業	医療，福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）	公務（他に分類されるものを除く）	分類不能の産業
白旗台地区計	11,626 人	100.0	0.4	0.4	－	－	7.7	11.7	1.4	4.5	7.2	16.8	2.9	2.0	3.5	6.3	4.1	4.0	9.6	0.3	7.2	3.1	6.9
赤井町	572 人	100.0	2.6	2.6	－	－	8.2	9.6	0.3	2.6	8.0	18.0	1.4	2.6	3.3	4.5	3.3	4.5	12.4	0.2	8.7	2.6	6.8
今井町	375 人	100.0	0.3	0.3	－	－	9.9	13.1	0.5	3.5	6.7	14.9	2.4	2.9	2.7	9.6	4.3	2.1	8.8	0.5	6.9	3.2	7.7
鵜の森町	547 人	100.0	0.4	0.4	－	0.2	5.5	11.3	7.3	5.1	7.3	16.1	3.3	1.1	4.4	5.9	4.9	4.2	9.1	0.9	6.0	1.6	5.3
大森町	2,413 人	100.0	0.3	0.3	－	－	9.5	9.2	1.2	3.4	7.0	18.7	2.7	1.3	2.8	6.6	4.3	3.9	11.0	0.2	7.4	2.8	7.5
白旗１丁目	444 人	100.0	－	－	－	－	7.2	7.4	0.2	2.7	12.2	20.0	1.6	2.0	2.0	9.0	6.5	2.7	8.3	－	11.0	1.4	5.6
白旗２丁目	619 人	100.0	0.2	0.2	－	－	7.1	7.1	0.5	4.0	6.6	23.9	1.9	1.9	4.7	6.9	7.4	5.5	6.9	0.3	7.3	1.8	5.8
白旗３丁目	636 人	100.0	0.2	0.2	－	－	8.2	10.5	1.1	6.3	4.9	19.3	4.7	1.4	2.7	4.9	5.0	3.3	7.5	0.2	8.8	2.4	8.6
大巌寺町	878 人	100.0	0.9	0.9	－	－	8.0	11.3	0.6	3.1	8.7	14.0	1.3	2.1	2.6	8.7	5.0	4.1	8.7	－	9.6	2.2	9.5
花輪町	324 人	100.0	1.5	1.5	－	－	6.2	8.0	－	4.9	8.0	18.8	3.1	2.8	4.3	3.7	1.5	8.3	14.5	1.2	7.4	2.2	3.4
宮崎１丁目	592 人	100.0	0.2	－	－	0.2	4.7	42.2	0.3	3.2	3.2	12.7	2.2	2.2	2.5	4.6	3.0	3.5	4.7	0.3	4.9	1.0	4.2
宮崎２丁目	720 人	100.0	－	－	－	0.1	12.2	6.8	0.7	5.6	13.1	13.1	3.6	3.1	3.3	4.3	3.1	3.2	8.8	0.7	6.1	6.9	5.4
宮崎町	3,506 人	100.0	0.2	0.2	－	－	6.3	11.6	1.9	6.0	6.3	15.6	3.7	2.2	4.6	6.2	3.4	4.1	10.2	0.2	6.3	4.1	7.2
千葉市中央区計	91,829 人	100.0	0.3	0.3	－	－	7.1	9.8	0.8	4.6	5.9	16.8	3.6	2.7	4.0	6.6	4.0	4.9	10.6	0.3	6.9	3.6	7.5
千葉市計	430,838 人	100.0	0.7	0.7	－	－	7.1	9.6	0.6	4.9	6.5	17.8	3.9	2.7	4.2	5.8	3.9	4.9	9.4	0.3	7.1	3.6	7.1

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

表３－８（２）　産業（大分類）、男女別 15 歳以上就業者数、男性

単位（%）

区分	総数		農業，林業	うち農業	漁業	鉱業，採石業，砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業，郵便業	卸売業，小売業	金融業，保険業	不動産業，物品賃貸業	学術研究，専門・技術サービス業	宿泊業，飲食サービス業	生活関連サービス業，娯楽業	教育，学習支援業	医療，福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）	公務（他に分類されるものを除く）	分類不能の産業
白旗台地区計	7,056 人	100.0	0.5	0.5	－	－	10.8	16.4	2.2	5.7	10.1	14.4	2.1	2.1	4.0	4.0	3.0	2.7	3.7	0.3	7.7	3.8	6.5
赤井町	349 人	100.0	3.2	3.2	－	－	12.0	12.9	0.6	3.4	11.7	14.3	1.1	2.3	4.6	2.9	2.6	3.4	4.3	－	11.7	3.7	5.2
今井町	221 人	100.0	0.5	0.5	－	－	12.2	16.7	0.9	3.6	10.0	12.7	1.4	3.6	2.3	5.9	3.2	1.8	3.6	0.5	8.6	4.5	8.1
鵜の森町	338 人	100.0	0.3	0.3	－	－	7.7	16.3	11.8	6.5	10.4	12.7	2.1	0.9	4.4	4.4	2.7	2.1	3.6	0.9	6.2	2.1	5.0
大森町	1,447 人	100.0	0.4	0.4	－	－	13.4	12.6	1.8	4.2	9.8	16.2	1.4	1.5	3.2	4.2	3.7	3.0	4.8	0.2	8.1	3.4	7.9
白旗１丁目	243 人	100.0	－	－	－	－	12.3	10.3	－	4.5	19.8	16.5	1.6	2.1	2.1	3.7	4.9	2.5	2.1	－	11.5	1.2	4.9
白旗２丁目	343 人	100.0	－	－	－	－	11.1	10.2	0.6	4.4	9.9	20.7	0.9	2.0	5.5	4.4	5.5	3.8	3.5	0.6	7.3	2.3	7.3
白旗３丁目	394 人	100.0	－	－	－	－	11.2	14.0	1.8	7.9	7.4	16.0	3.6	1.8	3.0	3.3	3.3	2.5	3.8	0.3	8.6	2.8	8.9
大巌寺町	531 人	100.0	0.8	0.8	－	－	10.7	15.4	0.9	3.0	12.2	13.4	0.9	2.1	2.6	5.5	3.2	3.2	3.4	－	9.4	2.6	10.5
花輪町	195 人	100.0	2.6	2.6	－	－	9.7	11.8	－	5.1	10.8	16.4	2.6	3.1	6.7	3.1	1.5	5.6	4.6	1.0	8.7	2.6	4.1
宮崎１丁目	420 人	100.0	0.2	－	－	0.2	5.2	55.7	0.5	3.6	3.8	8.1	1.7	1.9	3.1	1.7	1.7	1.9	1.2	0.5	5.0	1.0	3.1
宮崎２丁目	469 人	100.0	－	－	－	0.2	17.1	7.9	0.9	6.4	17.1	11.5	3.0	3.0	3.2	3.2	1.9	1.5	2.3	0.9	6.2	8.5	5.3
宮崎町	2,106 人	100.0	0.2	0.2	－	－	8.8	16.3	3.0	8.0	8.6	14.1	2.9	2.4	5.0	4.3	2.5	2.5	4.0	0.1	6.6	4.8	5.7
千葉市中央区計	53,952 人	100.0	0.3	0.3	－	－	10.1	13.3	1.1	5.9	8.3	15.1	2.9	2.9	4.7	4.7	2.8	3.7	5.3	0.2	7.4	4.2	7.2
千葉市計	253,015 人	100.0	0.7	0.7	－	－	10.3	12.5	0.8	6.4	8.8	15.8	3.2	2.9	4.9	4.0	2.7	3.7	4.2	0.2	7.6	4.6	6.7

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

表３－８（３）　　産業（大分類）、男女別 15 歳以上就業者数、女性

単位（%）

区分	総数		農業，林業	うち農業	漁業	鉱業，採石業，砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業，郵便業	卸売業，小売業	金融業，保険業	不動産業，物品賃貸業	学術研究，専門・技術サービス業	宿泊業，飲食サービス業	生活関連サービス業，娯楽業	教育，学習支援業	医療，福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）	公務（他に分類されるものを除く）	分類不能の産業
白旗台地区計	4,570 人	100.0	0.3	0.3	－	－	2.9	4.6	0.2	2.8	2.8	20.6	4.2	1.8	2.9	9.8	5.9	6.1	18.7	0.3	6.5	2.1	7.5
赤井町	223 人	100.0	1.8	1.8	－	－	2.2	4.5	－	1.3	2.2	23.8	1.8	3.1	1.3	7.2	4.5	6.3	25.1	0.4	4.0	0.9	9.4
今井町	154 人	100.0	－	－	－	－	6.5	7.8	－	3.2	1.9	18.2	3.9	1.9	3.2	14.9	5.8	2.6	16.2	0.6	4.5	1.3	7.1
鵜の森町	209 人	100.0	0.5	0.5	－	0.5	1.9	3.3	－	2.9	2.4	21.5	5.3	1.4	4.3	8.1	8.6	7.7	18.2	1.0	5.7	1.0	5.7
大森町	966 人	100.0	0.2	0.2	－	－	3.7	4.0	0.3	2.2	2.7	22.6	4.8	1.0	2.2	10.2	5.1	5.2	20.3	0.3	6.4	1.9	6.9
白旗１丁目	201 人	100.0	－	－	－	－	1.0	4.0	0.5	0.5	3.0	24.4	1.5	2.0	2.0	15.4	8.5	3.0	15.9	－	10.4	1.5	6.5
白旗２丁目	276 人	100.0	0.4	0.4	－	－	2.2	3.3	0.4	3.6	2.5	27.9	3.3	1.8	3.6	10.1	9.8	7.6	11.2	－	7.2	1.1	4.0
白旗３丁目	242 人	100.0	0.4	0.4	－	－	3.3	5.0	－	3.7	0.8	24.8	6.6	0.8	2.1	7.4	7.9	4.5	13.6	－	9.1	1.7	8.3
大巌寺町	347 人	100.0	1.2	1.2	－	－	3.7	4.9	－	3.2	3.2	15.0	1.7	2.0	2.6	13.5	7.8	5.5	16.7	－	9.8	1.4	7.8
花輪町	129 人	100.0	－	－	－	－	0.8	2.3	－	4.7	3.9	22.5	3.9	2.3	0.8	4.7	1.6	12.4	29.5	1.6	5.4	1.6	2.3
宮崎１丁目	172 人	100.0	－	－	－	－	3.5	9.3	－	2.3	1.7	23.8	3.5	2.9	1.2	11.6	6.4	7.6	13.4	－	4.7	1.2	7.0
宮崎２丁目	251 人	100.0	－	－	－	－	3.2	4.8	0.4	4.0	5.6	15.9	4.8	3.2	3.6	6.4	5.2	6.4	20.7	0.4	6.0	4.0	5.6
宮崎町	1,400 人	100.0	0.1	0.1	－	－	2.5	4.5	0.2	3.0	2.8	17.8	4.7	1.9	3.9	9.0	4.8	6.6	19.5	0.3	5.9	3.0	9.5
千葉市中央区計	37,877 人	100.0	0.2	0.2	－	－	2.7	4.7	0.3	2.7	2.5	19.2	4.6	2.4	3.1	9.5	5.8	6.6	18.3	0.3	6.2	2.8	7.9
千葉市計	177,823 人	100.0	0.7	0.7	－	－	2.7	5.6	0.2	2.7	3.2	20.7	4.9	2.3	3.2	8.3	5.5	6.7	16.7	0.3	6.4	2.2	7.7

資料：総務省統計局（2010）「国勢調査」

３．２　白旗台地区部会の活動

BOC044　小島彩花

白旗台地区部会は、今回の調査対象地域である白旗台地区において、千葉市社会福祉協議会や行政機関等と連携して、さまざまな地域サービス事業を実施している。そこで、ここでは、白旗台地区部会が白旗台地区で実施している事業内容、地域サービスの認知・利用状況についてみていく。

（１）白旗台地区部会と千葉市社会福祉協議会

社会福祉協議会は、社会福祉法で「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として位置づけられた社会福祉法人である。千葉市社会福祉協議会は事業として、とりわけ地区部会活動への支援に力を入れており、そのほかにもボランティア講座の企画・開催などのボランティア活動の推進、生活福祉資金や社会福祉事業振興資金の貸付、民間社会福祉施設・団体育成や歳末助け合い運動などの援護、成年後見人支援などを行っている。

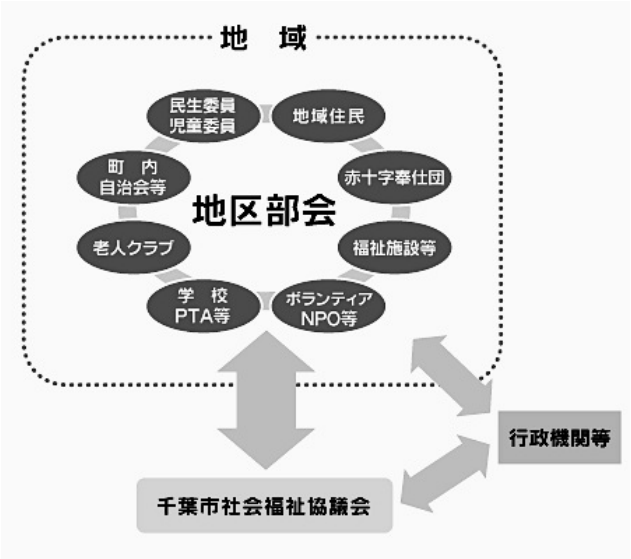

図３−１　地区部会と連携団体・機関等の構成

出典：千葉市社会福祉協議会ホームページ（http://www.chiba-shakyo.com/co3.html）

地区部会は、社会福祉協議会の趣旨に賛同し、その地域特有の福祉課題に対して、住民同士の助け合い・支え合いによるきめ細やかな活動を行うために、自発的に組織された団体である。以前は地区部会は社会福祉協議会の下部組織という見方をされていたが、現在では対等な立場で地域福祉を進めていくパートナーという見方をされている。

（２）白旗台地区部会が実施している事業

白旗台地区部会が実施している事業として、主に次のものがある。

a. **ふれあいいきいきサロン**：公共の施設や学校の余裕教室等を会場に、語らいの場やレクリエーションの機会を提供し、閉じこもりの防止や地域交流・仲間づくりを進める活動

b. **ふれあい子育てサロン**：公共の施設や学校の余裕教室等を会場に、子育て中の親子が気軽に参加し、自由に遊んだり、おしゃべりや、情報交換をして、子育てを楽しみながら仲間づくりを進める活動

c. **ふれあい食事サービス**：ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯を対象に会食会や食事の配達を通じて、温かな食事と心のふれあいを目的に実施している活動

d. **ふれあい散歩クラブ**：地域の高齢者と地域住民が散歩を中心としてふれあうことで自宅に閉じこもりの状況を防ぎ、心身の健康保持や介護予防・高齢者の仲間づくりを進める活動

e. **ボランティア講座の開講**：地区部会活動を行うにあたって、ボランティアの存在は、欠かせないため、講座を開催しボランティアを育成する講座の開講

以上の事業は千葉市社会福祉協議会との連携･支援のもとに実施されている。このほか、各中学校区に設けられている青少年育成委員会の依頼により実施している以下の事業がある。

f. **こども 110 番のいえ**：子どもが登下校時に「誘拐や暴力、痴漢」など何らかの被害にあった、または、あいそうになったと助けを求めてきたとき、その子どもを保護するとともに、警察、学校、家庭などへ連絡するなどして、地域ぐるみで子どもたちの安全を守るボランティア活動

（３）地域サービスの認知・利用状況

ここでは、白旗台地区に住む人びとへのアンケート調査の結果から、白旗台地区部会が実施している地域サービスの認知・利用状況をみていく。

今回の調査では、前項で挙げた白旗台地区部会が実施しているａ～ｆについて、「あなたがお住まいのところで行われている地域サービスのなかで知っているもの、実際に参加したり利用したりしたものはありますか」という質問を用いて、地域サービスの認知・利用状況を３件法で調べた。３件法の「参加または利用したことがある」「知っているが参加や利用はしたことがない」をカテゴリー統合し“知っている”とし、「知らない」を“知らない”とした。

表３－９は、白旗台地区住民の地域サービスの認知状況を示したものである。

表３－９　地域サービスの認知状況

単位:%

		知っている	知らない	計	
a	ふれあいいきいきサロン	39.7	60.3	100.0	365人
b	ふれあい子育てサロン	37.5	62.5	100.0	363人
c	ふれあい食事サービス	24.7	75.3	100.0	364人
d	ふれあい散歩クラブ	20.4	79.6	100.0	363人
e	ボランティア講座	30.3	69.7	100.0	366人
f	子ども110番の家	60.2	39.8	100.0	364人

ａ～ｆの事業のなかでもっとも認知度が高かったのは「子ども 110 番の家」（60.2%）であった。「子ども 110 番の家」は、地域ぐるみで青少年の健全育成活動を目指している青少年育成委員会が地域の個人・お店などに依頼して協力してもらっているボランティアである。白旗台地区では小学生を対象に駆け込み模擬訓練など、「110 番の家」の活用指導を積極的に行っているのが特徴である。そのため認知度が高かったのではないかと考える。その次に認知度が高かったのは、「ふれあいいきいきサロン」（39.7%）であった。

次に、表３－10 は地域サービスの利用状況を示したものである。

表３－10　地域サービスの利用状況

単位：%

	参加・利用あり	知っているが参加・利用なし	知らない	計	
a ふれあいいきいきサロン	4.9	34.8	60.3	100.0	365人
b ふれあい子育てサロン	5.8	31.7	62.5	100.0	363人
c ふれあい食事サービス	2.8	22.0	75.3	100.0	364人
d ふれあい散歩クラブ	2.2	18.2	79.6	100.0	363人
e ボランティア講座	4.1	26.2	69.7	100.0	366人
f 子ども110番の家	4.4	55.8	39.8	100.0	364人

ａ～ｆの事業のなかでもっとも利用されていたのは「ふれあい子育てサロン」（5.8%）であったが、５％程度にとどまっていた。ほかの項目をみると「ふれあいいきいきサロン」（4.9%）で５％弱、「子ども 110 番の家」（4.4%）、「ボランティア講座」（4.1%）は約４％、「ふれあい食事サービス」（2.8%）、ふれあい散歩クラブ（2.2%）は２％台と続いているが、利用されている割合はとても低いことがわかる。

「子ども 110 番の家」は、事業の性格上、実際に利用されるケースが多いことは逆に問題だが、千葉市社会福祉協議会と連携して行っているａ～ｅの事業について参加・利用したことがある割合が低くとどまったのは、地区で提供されているさまざまな地域サービスに参加・利用していても、事業の名称とむすびついていないケースがあるからではないかと推測される。

第４章　調査対象の特性

B0C055　大橋沙織

本章においては、今回の調査対象の特性についてみていく。調査対象の特徴を把握するために、一般的なデータと比較できる項目に関しては、総務省統計局「平成 22 年度国勢調査」における小地域集計の千葉市中央区町丁別のデータを用いて「白旗台地区計」とし、調査対象者と比較した。

４．１　対象者の性別について

表４－１　性別　　単位：％

	男性	女性	計	
対象者	34.0	66.0	100.0	374人
白旗台地区計	51.7	48.3	100.0	25512人

今回の調査では、男性が 34.0%（127 人）、女性が 66.0%（374 人）で、女性のほうが多かった。国勢調査では男性がやや多かったのに対し、調査対象者は女性が多かった。

４．２　対象者の年齢について

表４－２　年齢　　単位：％

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計	
対象者	4.9	12.1	18.9	15.1	29.4	19.7	100.0	371人
白旗台地区計	14.7	19.0	18.2	16.7	17.9	13.4	99.9	19307人

今回の調査では、20 歳代が 4.9%（18 人）、30 歳代が 12.1%（45 人）、40 歳代が 18.9%（70 人）、50 歳代が 15.1%（56 人）、60 歳代が 29.4%（109 人）、70 歳代が 19.7%（73 人）となり、60 歳代が最も多かった。国勢調査の割合と比べ、調査対象者は 20 歳代と 30 歳代が少なく、60 歳代と 70 歳代が多い傾向にあった。

４．３　対象者の配偶関係について

表４－３　配偶関係　　単位：％

	未婚	有配偶	離別・死別	計	
対象者	11.0	76.7	12.3	100.0	373人
白旗台地区計	29.9	58.2	11.8	99.9	20697人

今回の調査では、未婚が 11.0%（41 人）、有配偶が 76.7%（286 人）、離別・死別が 12.3%（46 人）となり、有配偶が最も多かった。国勢調査においても有配偶の割合が最も多いが、調査対象者はそれよりも有配偶の割合が多く、未婚者の回答が少なかった。

４．４　対象者の家族構成について

単位：%

	単身世帯	夫婦のみ世帯	二世代世帯	三世代世帯	その他	計	
対象者	13.4	32.4	41.8	4.3	8.0	100.0	373世帯
白旗台地区計	38.7	17.7	35.6	3.8	4.2	100.0	11231世帯

今回の調査では、単身世帯が 13.4%（50 人）、夫婦のみ世帯が 32.4%（121 人）、二世代世帯が 41.8%（156 人）、三世代世帯が 4.3%（16 人）、その他が 8.0%（30 人）という結果になり、二世代世帯が最も多い傾向にあった。国勢調査では単身世帯が最も多かったが、今回の調査では単身世帯が少なく、夫婦のみ世帯と二世代世帯が多かった。

４．５　対象者の住居形態について

表４－５　住居形態

単位：%

	一戸建て	集合住宅	計	
対象者	69.9	30.1	100.0	365世帯
白旗台地区計	44.4	55.5	100.0	12283世帯

今回の調査では、一戸建てが 66.9%（255 人）、集合住宅が 30.1%（110 人）となった。国勢調査は集合住宅のほうが多かったのに対し、今回の調査では一戸建ての人の割合が多かった。

４．６　居住者の仕事の有無について

表４－６　仕事の有無

単位：%

	している	していない	計	
対象者	51.1	48.9	100.0	356人
白旗台地区計	63.3	36.7	100.0	19567人

今回の調査では、仕事をしている人が 51.1%（182 人）、していない人が 48.9%（147 人）となり、している人のほうがやや多かった。国勢調査のデータと比べると、している人の割合がやや低かった。

４．７　対象者の職業について

表４－７　職業

単位：%

	農林水産業	自営の商工業	専門、自由業	管理職	事務系の勤め人	作業系の勤め人	販売、サービス	その他	主婦（主夫）	学生	無職	計	
対象者	0.6	4.5	9.3	4.8	16.0	7.3	5.1	3.7	32.6	1.1	15.2	100.0	356人

農林水産業が 0.6%（2 人）、自営の商工業が 4.5%（16 人）、専門・自由業が 9.3%（33 に）、管理職が 4.8%（17 人）、事務系の勤め人が 16.0%（57 人）、作業系の勤め人が 7.3%（26 人）、販売・サービスが 5.1%（18 人）、その他が 3.7%（13 人）、主婦（主夫）が 32.6%（116 人）、学生が 1.1%（4 人）、無職が 15.2%（54 人）となり、主婦（主夫）が最も多かった。

４．８　対象者の勤務形態について

表４－８　勤務形態

単位：％

	正社員	自営業	派遣・契約社員	パート・アルバイト	計	
対象者	49.2	11.6	9.9	29.3	100.0	181人

正社員が 49.2%（89 人）、自営業が 11.6%（21 人）、派遣・契約社員が 9.9%（18 人）、パート・アルバイトが 29.3%（53 人）となり、正社員が最も多かった。

４．９　対象者の一週間の労働時間について

表４－９　一週間の労働時間

単位：％

	10時間未満	10時間以上20時間未満	20時間以上30時間未満	30時間以上40時間未満	40時間以上50時間未満	50時間以上60時間未満	60時間以上70時間未満	70時間以上	計	
対象者	7.3	9.0	14.0	13.5	32.0	14.6	8.4	1.1	100.0	178人

10 時間未満が 7.3%（13 人）、10 時間以上 20 時間未満が 9.0%（16 人）、20 時間以上 30 時間未満が 14.0%（25 人）、30 時間以上 40 時間未満が 13.5%（24 人）、40 時間以上 50 時間未満が 32.0%（57 人）、50 時間以上 60 時間未満が 14.6%（26 人）、60 時間以上 70 時間未満が 8.4%（15 人）、70 時間以上が 1.1%（2 人）となり、40 時間以上 50 時間未満が最も多かった。

４．10　対象者の収入について

表４－10　収入

単位：％

	平均よりかなり多い	平均より多い	どちらかといえば平均	どちらかといえば平均より少ない	平均より少ない	平均よりかなり少ない	計	
対象者	1.7	21.3	40.1	19.6	12.7	4.7	100.0	362人

「平均よりかなり多い」が 1.7%（6 人）、「平均より多い」が 21.3%（77 人）、「どちらかといえば平均」が 40.1%（145 人）、「どちらかといえば平均より少ない」が 19.6%（71

人)、「平均より少ない」が 12.7%（46 人)、「平均よりかなり少ない」が 4.7%（17 人）となり、「どちらかといえば平均」が最も多かった。

４．11　対象者の経済状況について

表４－11　経済状況　　単位：%

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない	計	
対象者	5.0	27.7	38.3	29.0	100.0	379人

「困っている」が 5.0%（19 人)、「少し困っている」が 27.7%（105 人)、「あまり困っていない」が 38.3%（145 人)、「困っていない」が 29.0%（110 人）となり、「あまり困っていない」が最も多かった。

４．12　対象者の居住年数について

表４－12　居住年数　　単位：%

	10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上40年未満	40年以上50年未満	50年以上60年未満	60年以上70年未満	70年以上	計	
対象者	35.8	16.3	13.7	9.7	15.5	4.7	3.4	0.8	100.0	380人

この地域における居住年数が、10 年未満が 35.8%（136 人)、10 年以上 20 年未満が 16.3%（62 人)、20 年以上 30 年未満が 16.3%（52 人)、30 年以上 40 年未満が 16.3%（37 人)、40 年以上 50 年未満が 16.3%（59 人)、50 年以上 60 年未満が 16.3%（18 人)、60 年以上 70 年未満が 16.3%（13 人)、70 年以上が 0.8%（3 人）となり、10 年未満が最も多かった。

【参考 URL】

総務省統計局，2010,「平成 22 年国勢調査」
平成 22 年国勢調査 ＞ 小地域集計 ＞ 12 千葉県
(http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001036647&cycode=0).

第５章　近隣付き合いと社会的ネットワーク

B0C055　大橋沙織

５．１　問題意識

筆者は、白旗台地区に住んでいる人々の近隣付き合いと社会的ネットワークに興味をもった。かつては、冠婚葬祭の手伝いや急病人が出た時の世話などの緊急時だけではなく、日用品の貸し借りやお裾分けなどといった日常生活においても近所との関係はとても深い結びつきがあった。しかし、経済・社会環境が変化したことにより、単身者世帯が増加し、家族の行動が個別化するなどの傾向がみられるようになった。従来は深く立ち入ったつながりが多かったが、最近は適度に距離をおいたつながりが求められるようになるなど、人々のつながりの意識に変化があり、それに伴って地域のつながりも希薄化してきたといわれている（内閣府国民生活局 2007:62）。そうした中で、近年になって従来の集団や地縁的組織よりもネットワークを通じた付き合いが増え、国民の福祉や健康、経済活動、地域課題への解決等に大きな影響をもたらしている。そうしたこともあり、1970 年代から 80 年代を通じて、おもに親族・近隣・友人関係といったパーソナルネットワークに焦点を置いた都市社会学的研究が進められた。

『平成 19 年版国民生活白書』によると、「地域」と「職場」における望ましい付き合い方は、「地域」「職場」共に、何かにつけて相談するような「全面的」な付き合いを望む人の割合が低下する一方で、必要があれば気軽に話し合うような「部分的」な付き合いや、必要最低限の「形式的」な付き合いを望む人の割合が高まる傾向にある（内閣府国民生活局 2007:6）。これは、「地域」「職場」においては、全面的な深いつながりを求める意識が総じて弱まり、その一方で適度に距離を置いた緩やかなつながりを求める意識が強まったと考えられる。

また、豊島慎一郎（2000）によると、地域活動の参加者は非参加者に比べてネットワーク保有数が多いことや、ネットワーク保有数が活動参加の規定要因として強い影響をもつことが示された。

そこで、白旗台地区に住んでいる人々の近隣との付き合いとネットワークの実態を調べるとともに、近隣との付き合いが深い人とそうでない人は、ネットワークの強さに違いはあるのか、ネットワークの強さが地域活動の参加に影響があるのかを調べたいと思う。また、あわせて、白旗台地区では近隣関係の希薄化は起きているのかについても考えたいと思う。

５．２　仮説

Ⅰ　地域が生活の場となっている人のほうが、そうでない人よりも近隣との付き合いが緊密である。

Ⅱ　近隣との付き合いが緊密な人は、社会的ネットワークも強い。

Ⅲ　社会的ネットワークが強い人は、地域活動の参加も多い。

５．３　仮説Ｉの検証

本節では、仮説Ｉ「地域が生活の場となっている人のほうが、そうでない人よりも近隣との付き合いが緊密である」を検証する。仮説検証の手続きとして、６つの場面ごとの近隣付き合いの程度をみた変数を合成して、近隣付き合いの緊密度を示す尺度をつくった。その尺度の規定要因の分析を通して、近隣付き合いの緊密度が高い人の住民像を析出し、仮説検証を行う。

（１）場面別にみた近隣付き合いの程度と 10 年間の変化

①場面別にみた近隣付き合いの程度

表５－１は、日常生活における、a～f のそれぞれの場面での近隣との付き合いの程度について調べた結果である。

表５－１　場面別にみた近隣付き合いの程度

単位：%

		たくさんいる	数人いる	一人二人いる	まったくいない	計		χ^2値	p値
a 挨拶をする人	全体	38.8	46.5	10.9	3.7	100.0	376人	20.6279	0.0001 ***
	男性	24.0	54.4	15.2	6.4	100.0	125人		
	女性	46.9	42.0	8.6	2.5	100.0	245人		
b 立ち話をする人	全体	9.7	42.2	28.0	20.2	100.0	372人	18.7289	0.0003 ***
	男性	5.7	30.7	34.7	29.0	100.0	124人		
	女性	12.0	47.5	24.4	16.1	100.0	242人		
c 家を訪問する人	全体	3.2	18.8	33.2	44.8	100.0	373人	15.0100	0.0018 **
	男性	2.4	8.9	32.5	56.1	100.0	123人		
	女性	3.7	23.4	34.0	38.9	100.0	244人		
d おすそ分けをする人	全体	6.4	24.2	34.3	35.1	100.0	376人	16.1469	0.0011 **
	男性	4.9	14.6	35.5	48.0	100.0	123人		
	女性	7.3	29.2	34.4	29.2	100.0	247人		
e 家族ぐるみの付き合いのある人	全体	2.4	11.8	30.8	55.0	100.0	373人	1.2900	0.7315
	男性	1.6	9.8	31.7	56.9	100.0	123人		
	女性	2.9	12.7	30.3	54.1	100.0	244人		
f 一緒に外出する人	全体	3.0	15.3	22.5	59.3	100.0	374人	9.0025	0.0293 *
	男性	1.6	8.9	21.0	68.6	100.0	124人		
	女性	3.7	18.5	23.1	54.7	100.0	243人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

まず、全体でみると、「挨拶をする」ような関係にある人が「たくさんいる」と答えた人は 38.8%となっており、そのほかの場面と比べると最も高いことから、「挨拶をする」ような関係にある人は多いといえる。次に多かったのは、「立ち話をする」ような関係（9.7%）、そして、「おすそ分けをする」ような関係（6.4%）、「家を訪問する」ような関係（3.2%）、「一緒に外出する」ような関係（3.0%）、「家族ぐるみの付き合いのある」ような関係（2.4%）という順であった。「家族ぐるみの付き合いのある」ような関係と「一緒に外出する」ような関係は、どちらも「まったくいない」人が全体の半数を超える結果となった。以上のことから、「挨拶をする」関係のような形式的な付き合いをすることは多いが、「家族ぐるみの付き合いのある」ような関係や「一緒に外出する」ような関係といった、比較的深い付き合いをすることは少ないということがいえる。

性別でみると、どの場面においても、「たくさんいる」と答えた人の割合は、男性より

も女性のほうが多く、女性のほうが近隣との付き合いが深いことがわかった。とくに、「立ち話をする」ような関係では、「たくさんいる」と答えた人は、女性は男性の倍以上であった。また、「挨拶をする」ような関係で「まったくいない」と答えた人が、男性が女性の倍以上となり、性別で大きな差があった。χ^2検定の結果、「家族ぐるみの付き合いのある人」以外の各場面で、統計的な有意差がみられた。

②近隣付き合いに関する意識の変化

仮説検証と直接関わるものではないが、この地区に住んでいる人々の、近隣との付き合いに関する意識の変化について調べた（表５－２）。

近隣との付き合いが、10年前と現在でどのように変化したのかついて、「親密になった」「やや親密になった」「変わらない」「やや疎遠になった」「疎遠になった」「10年前はここに住んでいなかった」の５件法で回答を得た。クロス集計のさいに、「親密になった」と「やや親密になった」を合わせて“親密になった”、「やや疎遠になった」と「疎遠になった」を“疎遠になった”とし、カテゴリー統合を行った。

表５－２　近隣付き合いの変化

単位：％

		親密になった	変わらない	疎遠になった	計		χ^2値	p値
全体		19.6	61.5	18.9	100.0	378人		
性別	男	23.1	59.3	17.6	100.0	126人	0.9370	0.6259
	女	18.1	62.7	19.3	100.0	246人		
年齢	20～39歳	29.4	58.8	11.8	100.0	17人	13.9055	0.0307 *
	40～59歳	15.2	53.2	31.7	100.0	79人		
	60～69歳	19.1	66.3	14.6	100.0	89人		
	70～79歳	24.3	64.3	11.4	100.0	70人		
居住年数	30年未満	20.9	59.0	20.2	100.0	134人	0.7880	0.6771
	30年以上	18.3	64.3	17.5	100.0	126人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

（注）「10年前はここに住んでいなかった」は、欠損値として処理をした。

全体では、「変わらない」と答えた人が６割を超え、最も多かった。「親密になった」(19.6%)と「疎遠になった」（18.9%）と答えた人の割合はそれぞれ約２割で、ほぼ同等であった。

性別にみると、「親密になった」と回答した人は、男性が女性よりもやや多かったが、統計的な有意差はみられなかった。男性は「疎遠になった」よりも「親密になった」と答えている人のほうが多いが、女性では「疎遠になった」と答えている人のほうが多い傾向にある。

年齢別では、「親密になった」と答えた人の割合が最も多かったのは 20～39 歳の人で、次に多いのが 70～79 歳であった。40～59 歳の人は、「親密になった」と答えた人の割合が他の年代に比べて最も低く、「疎遠になった」と答えた人が３割を超え、特徴的であった。20～39 歳、60～69 歳、70～79 歳の人は、「疎遠になった」と答えた人よりも「親密になった」と答えた人が多かった。それに対し、40～59 歳の人は「疎遠になった」と答えた人のほうが多かった。χ^2検定の結果、５％水準で有意な差がみられた。

そして、この地域における居住年数別でみると、30 年未満の人も 30 年以上の人も、「親密になった」と「疎遠になった」と答えた人の割合はほぼ同等であり、居住年数における差は特にみられなかった。

以上の結果から、この地区の人々は、近隣との付き合いは 10 年前と比較して、あまり変わらないという意識を持っている人が多いことがわかった。

（２）仮説Ｉの検証

これまで近隣付き合いを場面別にみてきたが、ここでは場面別の近隣付き合いを合成して近隣付き合いの緊密度を示す尺度をつくり、近隣付き合いの緊密度にはどのような要因が関連しているのかをみていきたい。

そこでまず、隣近所の人と「挨拶程度の付き合い」「庭先や道端でよく立ち話をする」「家をよく訪問する」「よくおすそ分けをし合う」「家族ぐるみの付き合いをする」「よく一緒に外出する」というようなそれぞれの場面ごとに、付き合いのある人が「たくさんいる」という回答に３点、「数人いる」に２点、「一人二人いる」に１点、「まったくいない」に０点を与え、６つの場面ごとのスコアを加算して合成変数「近隣付き合いの緊密度」とした。クロンバックα係数を算出したところ、0.90 であった。合成変数のレンジは 0～18 であり、平均値は 6.62 となった。そこで、７以上を緊密度が“高い”、７未満を緊密度が“低い”とした。

表５－３は、近隣付き合いの緊密度の規定要因をみるため、その規定要因とみられる変数とのクロス集計を行い、統計的な有意な差がみられたものについてまとめたものである。χ^2検定の結果、年齢別では１％水準で有意差がみられ、そのほかの項目では 0.1%水準で有意差がみられた。

表５－３　近隣付き合いの緊密度とその規定要因　　単位：％

		高い	低い	計		χ^2値	p値
全体		46.1	54.0	100.0	367人		
性別	男性	33.1	66.9	100.0	121人	12.2419	0.0005 ***
	女性	52.5	47.5	100.0	240人		
年齢	20歳代	22.2	77.8	100.0	18人	16.6624	0.0052 **
	30歳代	37.8	62.2	100.0	45人		
	40歳代	37.7	62.3	100.0	69人		
	50歳代	41.1	58.9	100.0	56人		
	60歳代	51.4	48.6	100.0	105人		
	70歳代	63.1	36.9	100.0	65人		
配偶関係	有配偶	50.7	49.3	100.0	278人	14.5898	0.0007 ***
	未婚	19.5	80.5	100.0	41人		
	離死別	40.5	59.5	100.0	42人		
住居形態	持ち家	51.1	49.0	100.0	286人	16.7627	<.0001 ***
	賃貸	23.5	76.5	100.0	68人		
居住年数	10年未満	25.2	74.8	100.0	135人	56.0760	<.0001 ***
	10年以上30年未満	43.4	56.6	100.0	113人		
	30年以上	72.0	28.0	100.0	118人		
居住形態	一人暮らし	21.3	78.7	100.0	47人	13.2794	0.0003 ***
	一人暮らし以外	49.7	50.3	100.0	314人		
仕事の有無	あり	36.1	63.9	100.0	180人	14.6345	0.0001 ***
	なし	56.6	43.4	100.0	166人		
町内会・自治会の加入	加入	50.5	49.5	100.0	297人	15.5454	<.0001 ***
	未加入	23.4	76.6	100.0	64人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

（注）仕事の有無の「なし」には、無職のほかに、主婦・学生を含む。

全体でみると、近隣との緊密度が高い人は 46.1%、低い人は 54.0%となり、低い人のほうがやや多かった。

性別では、男性よりも女性のほうが緊密度の高い人が多く、表５－１からもわかるように、女性のほうが近隣との関係が深いことがわかった。女性では緊密度が低い人よりも高い人のほうが多かったのに対し、男性では低い人のほうが多かった。

年齢別でみると、20 歳代では緊密度の高い人は 22.2%、低い人は 77.8%となり、かなりの差がみられた。20 歳代・30 歳代・40 歳代・50 歳代は、いずれも緊密度が低い人のほうが多かった。60 歳代では、緊密度が高い人と低い人の割合はほぼ同じであったが、70 歳代になると緊密度が高い人のほうが多かった。20 歳代と 70 歳代の人を比べると、緊密度が高い人の割合は、70 歳代の人は 20 歳代の人よりも３倍近く多く、年齢による大きな差がみられた。30 歳代と 40 歳代ではあまり差がなかったものの、そのほかは年齢が上がるにつれて近隣との付き合いも深くなっていることがいえる。

配偶関係でみると、緊密度が高い人は有配偶者に最も多く、50.7%と過半数を超えた。それに対し、未婚者は 19.5%と２割程度になっており、未婚者より有配偶者のほうが近隣との付き合いが深いという結果が得られた。離婚もしくは死別の人は、緊密度が高い人の割合は有配偶者よりは１割程度少なかったものの、未婚者よりは２割ほど多かった。

住居形態については、クロス集計をするさいに、「一戸建て（持ち家）」と「集合住宅（持ち家）」を“持ち家”、「一戸建て（賃貸）」と「集合住宅（賃貸）」を“賃貸”としてカテゴリー統合を行った。また、「その他」は欠損値として処理した。結果をみると、持ち家の人で近隣付き合いの緊密度が高い人は 51.1%となり半数を超えた。一方、賃貸の人で緊密度が高い人は 23.5%となり、持ち家の人と比べると緊密度の高い人の割合は少なく、持ち家の人は賃貸の人よりも近隣付き合いの緊密度が高いという結果になった。

居住年数別みると、緊密度が高い人の割合は 10 年未満の人は 25.2%であったが、10 年以上 30 年未満の人になると 43.4%と半数近くにまでなり、そして 30 年以上の人では 72.0%と７割以上になった。このことから、居住年数が長い人ほど、近隣との緊密度が高いという結果が得られた。

居住形態では、一人暮らしの人よりも、一人暮らし以外の人のほうが緊密度の高い人が多く、居住形態も近隣付き合いの緊密度に関わっていることがわかった。

仕事の有無では、仕事をしている人よりもしていない人のほうが、緊密度が高い人が多いという結果になった。

また、家庭で町内会もしくは自治会加入している人ほうが、加入していない人よりも緊密度が高い人が多く、町内会・自治会の加入の有無も、近隣付き合いの緊密度に関係があることがわかった。

以上のことから、仮説Ｉの「地域が生活の場となっている人のほうが、そうでない人よりも近隣との付き合いが緊密である」に関しては、住居形態では持ち家の人、居住年数については年数が長い人のほうが近隣付き合いの緊密度が高く、また、仕事をしていない人や、町内会・自治会に加入している人が緊密度が高いということがわかったが、「地域が生活の場となっている人」であると断定するには、今回のこれらの分析結果だけでは十分とは言えず、仮説は完全には検証することができなかった。

５．４　仮説Ⅱの検証

本節では、仮説Ⅱ「近隣との付き合いが緊密な人は、社会的ネットワークも強い」を検証する。

（１）社会的ネットワーク

家族、親戚・親類、近所・地域、友人、職場、専門家・サービス機関という６つの社会関係のレベルごとに、各状況において、どの程度頼りにしているかについて調べた。これは、６つの社会関係のレベルごとのネットワークの強さを表している。

表５－４は、家族、親戚・親類、近所・地域、友人、職場、専門家・サービス機関の６つの社会関係のレベルにおいて、「問題を抱えて落ち込んだり、混乱したとき」「急いでお金を借りなければならないとき」「病気や事故で人手が必要なとき」「育児や介護で助けが必要なとき」の４つの状況別に、それぞれどの程度頼りにしているかを調べたものである。

表５－４　社会的ネットワーク

単位：％

		とても頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにしない	まったく頼りにしない	頼りにする	頼りにしない	計	
家族	a 落ち込んだり混乱した時	41.8	39.3	12.5	6.4	81.1	18.9	100.0	359人
	b お金が必要	34.3	29.5	19.8	16.4	63.8	36.2	100.0	359人
	c 病気や事故で人手が必要	52.5	32.7	9.9	5.0	85.2	14.8	100.0	364人
	d 育児や介護の助けが必要	47.3	33.6	12.3	6.7	81.0	19.0	100.0	357人
親戚・親類	a 落ち込んだり混乱した時	11.3	31.0	34.3	23.4	42.3	57.7	100.0	364人
	b お金が必要	6.6	18.5	31.5	43.4	25.1	74.9	100.0	362人
	c 病気や事故で人手が必要	14.8	31.5	29.0	24.7	46.3	53.7	100.0	365人
	d 育児や介護の助けが必要	12.7	28.2	32.9	26.2	40.9	59.1	100.0	362人
近所・地域	a 落ち込んだり混乱した時	3.0	16.2	34.1	46.8	19.2	80.8	100.0	370人
	b お金が必要	0.5	2.2	20.1	77.2	2.7	97.3	100.0	369人
	c 病気や事故で人手が必要	6.2	27.4	33.8	32.7	33.5	66.5	100.0	373人
	d 育児や介護の助けが必要	2.5	24.5	34.1	39.0	27.0	73.0	100.0	367人
友人	a 落ち込んだり混乱した時	13.4	41.4	24.8	20.4	54.8	45.2	100.0	367人
	b お金が必要	1.1	7.5	27.1	64.4	8.6	91.4	100.0	362人
	c 病気や事故で人手が必要	7.1	26.1	36.1	30.7	33.2	66.9	100.0	368人
	d 育児や介護の助けが必要	3.9	22.0	39.0	35.1	25.9	74.1	100.0	359人
職場	a 落ち込んだり混乱した時	5.2	36.2	29.9	28.7	41.4	58.6	100.0	174人
	b お金が必要	0.6	7.5	19.0	73.0	8.0	92.0	100.0	174人
	c 病気や事故で人手が必要	3.5	20.7	29.3	46.6	24.1	75.9	100.0	174人
	d 育児や介護の助けが必要	1.2	12.1	29.9	56.9	13.2	86.8	100.0	174人
専門家・サービス機関	a 落ち込んだり混乱した時	2.7	20.4	38.2	38.7	23.2	76.8	100.0	367人
	b お金が必要	2.5	12.9	30.7	54.0	15.4	84.7	100.0	365人
	c 病気や事故で人手が必要	9.5	42.1	26.4	22.0	51.6	48.4	100.0	368人
	d 育児や介護の助けが必要	11.0	40.6	26.9	21.6	51.5	48.5	100.0	365人

（注）「サービス機関」は、行政や金融機関、ヘルパーなど

回答は、「とても頼りにする」「ある程度頼りにする」「あまり頼りにしない」「まったく頼りにしない」の４件法で得たが、「とても頼りにする」と「ある程度頼りにする」を“頼り

にする”、「あまり頼りにしない」と「まったく頼りにしない」を“頼りにしない”として２つにカテゴリー統合した数値も、表の右側に示した。

まず、近所・地域レベルのネットワークを中心にみていく。近所や地域の人を「とても頼りにする」と答えた人は、a～d のどの状況においても１割以下であり、頼りにしている人は少ないことがわかる。とくに、「急いでお金を借りなければならないとき」では 0.5%と極めて低い。カテゴリー統合した「頼りにする」でみても 2.7%で、「頼りにしない」が 97.3%となり、ほとんどの人が頼りにしないようである。だが、「病気や事故で人手が必要なとき」には、カテゴリー統合した「頼りにする」人の割合は 33.5%になり、職場の 24.1%を上回る結果となった。また、「育児や介護で助けが必要なとき」では、カテゴリー統合した数値では「頼りにする」人が 27.0%と３割程度いることがわかった。以上のことから、近所・地域の人には、金銭面では頼らない人がほとんどであるが、病気や事故で人手が必要なときや、育児や介護で助けが必要なときにおいては、やや頼る傾向にあるといえる。

次に、a～d のそれぞれの状況別に、カテゴリー統合した数値でみていく。「問題を抱えて落ち込んだり、混乱したとき」においては、家族を頼りにしている人が最も多い。次いで、友人、親戚・親類、職場となっており、落ち込んだり混乱したときに頼りにしているのは、家族や親戚・親類、友人、職場といった身近な人であることがわかる。「急いでお金を借りなければならないとき」では、やはり家族や親戚・親類に頼ることが多いが、その次に多いのが専門家・サービス機関である。近所・地域の人、友人、職場はきわめて少ないことから、金銭面では、家族や親戚・親類以外の他人にはほとんど頼らず、専門家やサービス機関といったものを頼りにする人が多いということがいえる。「病気や事故で人手が必要なとき」においては、家族を頼りにしている人は８割を超えた。次に多かったのが専門家・サービス機関の 51.6%で、親戚・親類の 46.3%を上回る結果となった。そして、「育児や介護で助けが必要なとき」においても、やはり頼りにするのは家族が 81.0%と最も多いが、次いで専門家・サービス機関に頼る人が 51.5%となり、過半数を超える結果となった。病気や事故においてや育児や介護といった専門的なことは、やはり家族に頼るのが一番ではあるが、家族以外では専門家やサービス機関に任せる人が多いという特徴がみられた。

そして、全体でみてみると、６つのレベルのネットワークの中で最も強い結びつきがあったのは、家族レベルのネットワークであり、どの場面においても、頼りにする人の割合は総じて高い傾向にある。その次に強い結びつきがあったのは親戚や親類レベルのネットワークとなっており、白旗台地区では、血縁的なネットワークの強い人が多いことが特徴であるといえる。

（２）レベルごとの社会的ネットワークの強さ

次に、これらの家族、親戚・親類、近所・地域、友人、職場、専門家・サービス機関の６つのレベルの社会関係ごとのネットワークの強さを量的変数に変換するために、（１）でみた４つの場面のネットワークの強さを、６つのレベルごとにスコア化して合成変数を作成した。

６つのレベルのそれぞれについて、「問題を抱えて落ち込んだり、混乱したとき」「急いでお金を借りなければならないとき」「病気や事故で人手が必要なとき」「育児や介護で助

けが必要なとき」の４つの場面ごとに、「とても頼りにする」という回答に３点、「ある程度頼りにする」に２点、「あまり頼りにしない」に１点、「まったく頼りにしない」に０点を与え、スコアを加算して、「家族ネットワーク」「親戚・親類ネットワーク」「近所・地域ネットワーク」「友人ネットワーク」「職場ネットワーク」「専門家・サービス機関ネットワーク」の６つのレベルごとのネットワークの強さを表す合成変数を作成した。それぞれクロンバックのα係数を算出したところ、上記の順に、0.89、0.91、0.85、0.81、0.78、0.80となり、すべて 0.7 を上回った。合成後のレンジは、0～12 であり、平均値は上記の順に、8.54、4.81、2.95、3.94、2.92、4.29 となった。そして、６以上を“強い”、６未満を“弱い”とした。

表５－５は、各ネットワークの強さの程度を示したものである。

表５－５　各ネットワークの強さ　　単位：%

	強い	弱い	計	
家族	82.3	17.7	100.0	356人
親戚・親類	42.2	57.8	100.0	358人
近所・地域	19.4	80.6	100.0	366人
友人	27.5	72.6	100.0	357人
職場	17.8	82.2	100.0	174人
専門家・サービス機関	34.2	65.8	100.0	363人

家族レベルのネットワークが「強い」人は 82.3%と８割を超え、６つの中で最も多かった。次に多いのが親戚・親類レベルのネットワークの 42.2%、専門家・サービス機関レベルのネットワークの 34.2%、そして友人レベルの 27.5%の順であった。一方で近所・地域レベルのネットワークと職場レベルのネットワークでは、「弱い」人がどちらも８割を超えた。やはり、この白旗台地区では、血縁的なネットワークが強く、近所・地域レベルや職場レベルのネットワークは弱い傾向にある。そして、専門家・サービス機関レベルのネットワークが友人レベルよりも強いということも特徴的であった。

さらに、この６つのレベルごとのネットワークの強さを、性別、年齢別にみていくことにする（表５－６、表５－７）。

表５－６　性別とネットワークの強さ　　単位：%

		強い	弱い	計		χ^2値	p値
家族	男性	72.9	27.1	100.0	118人	11.0512	0.0009 ***
	女性	87.2	12.8	100.0	234人		
親戚・親類	男性	32.8	67.2	100.0	119人	6.3845	0.0115 *
	女性	46.8	53.2	100.0	235人		
近所・地域	男性	9.0	91.0	100.0	122人	12.8115	0.0003 ***
	女性	24.8	75.2	100.0	238人		
友人	男性	25.2	74.8	100.0	119人	0.3856	0.5346
	女性	28.3	71.7	100.0	233人		
職場	男性	16.9	83.1	100.0	71人	0.0848	0.7709
	女性	18.6	81.4	100.0	102人		
専門家・サービス機関	男性	27.3	73.7	100.0	121人	3.9584	0.0466 *
	女性	37.8	62.2	100.0	238人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

まず、性別にみると、家族レベルのネットワークは、「強い」人の割合が男性よりも女性のほうが 10%以上高く、性別で差があった。χ^2検定の結果、0.1%水準で統計的な有意差がみられた。親戚・親類レベルのネットワークも、男性よりも女性のほうが「強い」人が多い結果となった。χ^2 検定の結果、５%水準で統計的な有意差がみられた。近所・地域レベルのネットワークが「強い」人は、男性が 9.0%であるのに対して、女性は 24.8%となっており、女性が男性の約 2.5 倍となっていた。また、男性は９割以上の人が「弱い」という結果であった。χ^2検定の結果、0.1%水準で統計的な有意差がみられた。友人レベルのネットワークと職場レベルのネットワークは、男性よりも女性のほうが「強い」人がわずかに多かったが、統計的な有意差はみられなかった。専門家・サービス機関レベルのネットワークは、「強い」人は女性のほうが多く、χ^2検定の結果、５%水準で統計的な有意差がみられた。そして、どのネットワークも男性よりも女性のほうが「強い」人の割合が高かった。

表５－７　年齢とネットワークの強さ

単位：%

		強い	弱い	計		χ^2値	p値
家族	20～39歳	93.7	6.4	100.0	63人	10.3846	0.0056 **
	40～59歳	84.7	15.3	100.0	124人		
	60～79歳	76.1	23.9	100.0	163人		
親戚・親類	20～39歳	46.0	54.0	100.0	63人	1.6089	0.4479
	40～59歳	45.2	54.8	100.0	124人		
	60～79歳	38.8	61.2	100.0	165人		
近所・地域	20～39歳	20.6	79.4	100.0	63人	2.6477	0.2661
	40～59歳	15.1	84.9	100.0	126人		
	60～79歳	22.6	77.4	100.0	168人		
友人	20～39歳	37.1	62.9	100.0	62人	3.7058	0.1568
	40～59歳	24.0	76.0	100.0	125人		
	60～79歳	26.5	73.5	100.0	162人		
職場	20～39歳	18.2	81.8	100.0	44人	1.0612	0.5882
	40～59歳	20.5	79.6	100.0	88人		
	60～79歳	12.8	87.2	100.0	39人		
専門家・サービス機関	20～39歳	23.8	76.2	100.0	63人	5.4920	0.0642
	40～59歳	40.8	59.2	100.0	125人		
	60～79歳	33.3	66.7	100.0	168人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

次に、年齢別でみると、家族レベルのネットワークは、「強い」人が 20～39 歳では９割を超える高い数値となった。家族はどの年代も「強い」人の割合は「弱い」人よりも多い結果となったが、20 代・30 代は 93.7%、40 代・50 代は 84.7%、60 代・70 代は 76.1%となっており、年代が上がるにつれて「強い」人の割合は減っている。χ^2 検定の結果、１%水準で統計的な有意差がみられた。そのほかの各ネットワークでは、どの年代も「強い」人よりも「弱い」人のほうが多い結果となったが、統計的な有意差はみられなかった。

（３）仮説Ⅱの検証

最後に、近隣付き合いの緊密度とネットワークの強さとの関連についてみてみる。

表５－８は、近隣付き合いの緊密度が高い人と低い人別に、６つのレベルのネットワークごとの強さをみたものである。

表５－８　近隣付き合いの緊密度とネットワークの強さ　　単位:％

		強い	弱い	計		χ^2値	p値	
家族	高い	86.4	13.6	100.0	162人	2.7703	0.0960	
	低い	79.7	20.3	100.0	187人			
親戚・親類	高い	47.0	53.1	100.0	164人	2.2360	0.1348	
	低い	39.0	61.0	100.0	187人			
近所・地域	高い	33.1	66.9	100.0	166人	36.8471	<.0001	***
	低い	7.8	92.3	100.0	194人			
友人	高い	33.5	66.5	100.0	161人	5.4557	0.0195	*
	低い	22.3	77.7	100.0	188人			
職場	高い	23.0	77.1	100.0	61人	1.5534	0.2126	
	低い	15.3	84.7	100.0	111人			
専門家・サービス機関	高い	39.4	60.6	100.0	165人	3.8682	0.0492	*
	低い	29.5	70.5	100.0	190人			

*p<.05　**p<.01　***p<.001

６つのすべてのネットワークにおいて、近隣付き合いの緊密度が「高い」人は、「低い」人よりもネットワークの強さが「強い」ということがうかがえる。とくに差が目立ったのは、近所・地域レベルのネットワークで、近隣付き合いの緊密度が「高い」人は、「低い」人よりも近所・地域レベルのネットワークが「強い」。緊密度が「低い」人は、９割以上の人がネットワークの強さを「弱い」と回答しており、緊密度とネットワークの強さとの関連が強いといえる。

家族レベルのネットワークについては、近隣付き合いの緊密度が高い人も低い人も、ネットワークの強さは「強い」人が「弱い」人を上回る結果となった。一方で、家族以外の、親戚・親類レベル、近所・地域レベル、友人レベル、職場レベル、専門家・サービス機関レベルにおいては、近隣付き合いの緊密度が高い人も低い人も、ネットワークが「弱い」と回答した人のほうが多かった。χ^2 検定の結果、近所・地域レベルのネットワークでは0.1％水準で、友人レベルと専門家・サービス機関レベルのネットワークでは５％水準で統計的な有意差がみられた。

以上の結果から、仮説Ⅱの「近隣との付き合いが緊密な人は、社会的ネットワークも強い」に関しては、６つの社会関係レベルごとのネットワークのうち、とくに近所・地域レベルのネットワークにおいては、緊密度が高い人ほどネットワークが強く、緊密度が低い人ほどネットワークが弱いということが有意に示されたため、仮説は検証されたといえよう。

５．５　仮説Ⅲの検証

本節では、仮説Ⅲ「社会的ネットワークが強い人は地域活動の参加も多い」を検証する。

（１）地域活動への参加の有無

地域活動については、この１年間で「婦人会・老人会・子ども会活動」「防災・防犯・交通安全活動」「趣味・娯楽・スポーツ活動」「生涯学習活動」「高齢者・子ども・障害者福祉活動」のそれぞれの活動にどの程度参加したかについて、「半月に１回程度」「１か月に１回程度」「２～３か月に１回程度」「半年に１回程度」「１年に１回程度」「参加しなかった」の６件法で回答を得たが、「半月に１回程度」「１か月に１回程度」「２～３か月に１回程度」「半年に１回程度」「１年に１回程度」を“参加”、「参加しなかった」を“不参加”としてカテゴリー統合を行った（表５－９）。

表５－９　地域活動への参加の有無　　単位：％

	参加	不参加	計	
a　婦人会・老人会・子ども会	15.7	84.3	100.0	356人
b　防犯・防災・交通安全	24.2	75.8	100.0	360人
c　趣味・娯楽・スポーツ	30.8	69.3	100.0	361人
d　生涯学習	8.2	91.8	100.0	354人
e　高齢者・子ども・障害者福祉	11.6	88.4	100.0	354人

a～e すべての活動において、この１年間で「参加」した人よりも「不参加」であった人のほうが多い結果となった。「趣味・娯楽・スポーツ」活動では３割程度の人が参加しており、他の活動比べるとやや多かった。「生涯学習」活動については、９割以上の人が「不参加」であることがわかった。

次に、性別と年齢別で地域活動への参加に差があるのかをみた（表５－10、表５－11）。

表５－10　性別と地域活動への参加　　単位：％

		参加	不参加	計		χ^2値	p値
a　婦人会・老人会・子ども会	男	12.6	87.4	100.0	119人	1.1741	0.2786
	女	17.0	83.0	100.0	235人		
b　防犯・防災・交通安全	男	25.4	74.6	100.0	122人	0.2401	0.6241
	女	23.1	76.9	100.0	234人		
c　趣味・娯楽・スポーツ	男	32.0	68.0	100.0	122人	0.1160	0.7335
	女	30.2	69.8	100.0	235人		
d　生涯学習	男	5.0	95.0	100.0	120人	2.5600	0.1096
	女	10.0	90.0	100.0	231人		
e　高齢者・子ども・障害者福祉	男	10.8	89.2	100.0	120人	0.1270	0.7216
	女	12.1	87.9	100.0	231人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

表５－11　年齢と地域活動への参加　　単位：％

		参加	不参加	計		χ^2値	p値
a　婦人会・老人会・子ども会	20歳代	－	100.0	100.0	18人	17.8030	0.0032 **
	30歳代	13.3	86.7	100.0	45人		
	40歳代	15.7	84.3	100.0	70人		
	50歳代	3.6	96.4	100.0	55人		
	60歳代	5.4	81.7	100.0	104人		
	70歳代	28.8	71.2	100.0	59人		
b　防犯・防災・交通安全	20歳代	5.6	94.4	100.0	18人	22.4012	0.0004 ***
	30歳代	11.1	88.9	100.0	45人		
	40歳代	17.1	82.9	100.0	70人		
	50歳代	21.8	78.2	100.0	55人		
	60歳代	27.6	72.4	100.0	105人		
	70歳代	43.3	56.7	100.0	60人		
c　趣味・娯楽・スポーツ	20歳代	－	100.0	100.0	18人	29.8065	<.0001 ***
	30歳代	24.4	75.6	100.0	45人		
	40歳代	21.4	78.6	100.0	70人		
	50歳代	20.0	80.0	100.0	55人		
	60歳代	40.4	59.6	100.0	104人		
	70歳代	50.0	50.0	100.0	62人		
d　生涯学習	20歳代	－	100.0	100.0	18人	not valid	
	30歳代	－	100.0	100.0	45人		
	40歳代	4.3	95.7	100.0	70人		
	50歳代	1.8	98.2	100.0	55人		
	60歳代	12.5	87.5	100.0	104人		
	70歳代	21.4	78.6	100.0	56人		
e　高齢者・子ども・障害者福祉	20歳代	5.6	94.4	100.0	18人	24.5395	0.0002 ***
	30歳代	2.3	97.7	100.0	44人		
	40歳代	8.6	91.4	100.0	70人		
	50歳代	1.8	98.2	100.0	55人		
	60歳代	16.2	83.8	100.0	105人		
	70歳代	26.8	73.2	100.0	56人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

性別では、いずれもχ^2検定の結果、統計的な有意差はみられなかったものの、「婦人会・老人会・子ども会活動」「生涯学習活動」「高齢者・子ども・障害者福祉活動」においては、女性のほうが参加した人の割合が男性よりもやや高い傾向がみられた。反対に、「防災・防犯・交通安全活動」「趣味・娯楽・スポーツ活動」は、男性のほうが高い傾向にあった。

年齢別では、どの活動においても 70 歳代の人の参加が多いようである。これは、退職をした人が地域の活動に参加しているものと思われる。「婦人会・老人会・子ども会活動」は 70 歳代の人の参加が多く、高齢者の参加が多いと思われる。「防災・防犯・交通安全活動」は、50 歳代・60 歳代、そしてとくに 70 歳代の人の参加が多い傾向あり、仕事を終えた世代が中心となっているようである。「趣味・娯楽・スポーツ活動」は、20 歳代では参加がなかったものの、30 歳代・40 歳代・50 歳代では２割程度の人が参加している。そして 60 歳代・70 歳代ではさらに参加の割合が多く、70 歳代はちょうど半数の人が参加している。「生涯学習活動」では、60 歳代・70 歳代を除いた各世代では、ほとんど参加がみられず、活動に参加している人は少ない傾向にある。「高齢者・子ども・障害者福祉活動」は、他の世代に比べると 60 歳代と 70 歳代の人の参加が多く、また 40 歳代でもやや参加が多い結果となった。χ^2検定の結果、「防災・防犯・交通安全活動」「趣味・娯楽・スポーツ活動」「高齢者・子ども・障害者福祉活動」は 0.1%水準で、「婦人会・老人会・子ども会活動」では１％水準で、統計的な有意差がみられた。

（２）仮説Ⅲの検証

そして、ネットワークの強さの違いが、地域活動への参加に関係があるのかをみるために、各ネットワークの強さ別に、地域活動への参加度の平均の差の検定を行った（表５－12）。

表５－12　ネットワークと地域活動への参加度

		n	平均値	t	p値
家族	強い	225	2.5	2.20	0.0826
	弱い	57	1.5		
親戚・親類	強い	137	2.9	1.82	0.0701
	弱い	197	2.2		
近所・地域	強い	63	4.0	2.82	0.0061 **
	弱い	279	2.0		
友人	強い	90	3.4	2.39	0.0182 *
	弱い	245	2.0		
職場	強い	30	1.6	0.83	0.4063
	弱い	139	1.2		
専門家・サービス機関	強い	115	2.7	0.98	0.3293
	弱い	229	2.2		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

平均の差の検定をするにあたって、地域活動の参加度を示す尺度として、この１年間で「婦人会・老人会・子ども会活動」「防災・防犯・交通安全活動」「趣味・娯楽・スポーツ活動」「生涯学習活動」「高齢者・子ども・障害者福祉活動」のそれぞれの活動にどの程度参加したかの質問で、「半月に１回程度」という回答に５点、「１か月に１回程度」に４点、「２～３か月に１回程度」に３点、「半年に１回程度」に２点、「１年に１回程度」に１点、「参加しなかった」に０点与え、スコアを加算して合成変数「地域活動の参加度」を作成した。クロンバックα係数を算出したところ、0.71 であった。合成変数のレンジは 0～25

であり、平均値は 2.38 となった。

すべてのレベルのネットワークにおいて、ネットワークの強さが「強い」人は「弱い」人よりも地域の活動に参加しているという結果が得られた。とくに近所・地域レベルのネットワークでは、「強い」人と「弱い」人とで地域活動の参加度の平均値が２倍の差があり、大きな違いがみられた。近所・地域レベルのネットワークでは１％水準で、友人レベルのネットワークでは５％水準で統計的な有意差がみられた。このことから、地域活動の参加には、とくに近所・地域の人とのネットワークと友人とのネットワークの強さが関係しており、近所・地域の人とのネットワークが強い人は地域の活動にも参加していることが多いということがいえる。

このことから、仮説Ⅲの「社会的ネットワークが強い人は、地域活動の参加も多い」に関しては、６つの社会関係レベルごとのネットワークの中でも、近所・地域レベルのネットワークと友人レベルのネットワークに限り、仮説が検証された。

５．６　考察

白旗台地区の人々の近隣との付き合い方は、挨拶をするといった、表面的な付き合いをすることは多いが、家族ぐるみの付き合いや一緒に外出するような付き合いなどの全面的な付き合いをしている人はあまりいないという結果となった。ネットワークについてみると、近所・地域の人とのネットワークは他のネットワークと比べてあまり強くないが、一方で家族や親戚・親類とのネットワークが強いことから、白旗台地区の人々は血縁的なつながりが強いといえる。また、近所・地域の人や友人、職場の人よりも、専門家・サービス機関とのネットワークが強いということも特徴的であった。

地域活動については、大半の人が参加していないという結果となった。また、どの地域活動においても、60 歳代と 70 歳代の人の参加が多いということから、退職してからの時間の活用を地域の活動に充てている人が多いと思われる。一方、20 歳代の若者は地域活動にあまり参加していないという結果となった。

そして、近年、社会問題ともなっている近隣関係の希薄化については、現状として白旗台地区の人々は、近隣との付き合いはあいさつ程度の付き合いのような形式的な付き合いが多いが、白旗台地区の人々の意識としては 10 年前とあまり付き合い方は変化していないようである。

【参考文献】

草野篤子・森山千賀子・瀧口眞央・瀧口優，2008,「地域ネットワークに関する調査研究：小平のソーシャル・キャピタルを考える」，白梅学園大学『研究年報』13：46-60.

室崎千重・重村力・山崎義人，2008,「一人暮らし高齢者の居住継続を支える近隣環境に関する研究 ：京都市都心部の旧富有小学校区を事例として」，日本建築学会『日本建築学会計画系論文集』73(631)：1907-1914.

内閣府国民生活局，2003,「平成 14 年度内閣府委託調査　ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」(https://www.npo-homepage.go.jp/data/report9_1.html).

内閣府国民生活局, 2007,『平成 19 年版　国民生活白書　つながりが築く豊かな国民生活』.

豊島慎一郎，2000,「現代日本における社会参加と社会階層――1997 年『社会的公正感の研究』全国調査による分析――」，大分大学『大分大学経済論集』52(3)：117-145.

豊島慎一郎，2011-07,「地方都市における社会的ネットワークと社会参加―大分県臼杵市データを用いて―」，大分大学経済学会『大分大学経済論集』63(1・2)：95-116.

山下祐介，2003,「社会的ネットワークと地域活性化」，弘前大学『人文社会論叢．人文科学篇．９』171-184.

第６章　社会関係の親密度と孤独感

B0C005　榮木綾子

６．１　問題意識

戦後における経済成長のなかでも、とりわけ 1955～1973 年の高度経済成長期においては、完全雇用の達成や、資本主義諸国のうち国内総生産が第２位になるなど、経済の大きな躍進を遂げた。生活面においても、いわゆる「三種の神器」が普及し、生活水準の上昇をもたらした。

そうした経済成長の要因には、設備投資や技術革新が挙げられるが、それらに加えて、若年労働力の確保がある。若い世代を中心とした多くの人々が、農村から都市へ移動してきたのである。広井良典によれば、「そうした中で、都市に移ってきた日本人は、いうならば都市の中に『カイシャ』と『家族』というムラ社会を作ってきた」という。そして、「そこではカイシャや家族といったものが“閉じた集団”（＝閉鎖的なコミュニティ）となり、それを超えたつながりがきわめて希薄になっていった」と述べている（広井 2010：12)。そのような実態は、2005 年に公表された OECD の報告からも明らかである（本川 2011 より重引)。日本は家族以外の人と社交のために全く、またはめったに付き合わない人の比率が 15.4％であり、20 カ国の先進諸国の中で最も高いのである。

しかしながら、経済が成熟した今、カイシャや家族という存在そのものも変貌している。前者については、2004 年の労働者派遣法の改正によって非正規社員の採用が拡大し、2012 年現在において今や雇用者の 35.6％を占めている（統計局 2012)。後者においては、核家族化の進展が特徴的である。また、高齢者の単独世帯も増加している。2010 年の国勢調査によれば、単独世帯の約３割が高齢層であり、今後も高齢化によってさらに増加すると推測されている。このように、現代の日本は従来の社会関係が変容しつつあるようにみえる。

筆者は、そのような社会関係の変遷に着目し、その親密度はどの程度のものなのか関心を抱いた。さらに、その親密度の度合いによって孤独感の程度は変わるのか興味を持った。孤独感の定義は、多くの社会学者によって成されているため必ずしも一致しないが、Peplau＆Perlman(1982)がそれらに共通する点を３つ挙げている。第１に、孤独感は人の社会的関係の不足から生じるものであり、第２に主観的な経験である。そして第３に、孤独の経験は、不快で苦悩を与えるものであるとしている（広沢 2011：146 より重引)。

本章では、家族、親せき、職場、友人、地域という５つレベルの社会関係の親密度と孤独感の関係をみていく。なお、親密度は、５つのレベルの社会関係における交流の実態と社会的ネットワークの強弱をとおして捉えたいと考える。

６．２　仮説

仮説 Ⅰ　社会関係の交流の実態が親密でない人は、親密な人よりも、孤独感が強い

仮説 Ⅱ　社会的ネットワークが弱い人は、強い人よりも、孤独感が強い

６．３　孤独感の規定要因

本節では、２つの仮説の従属変数としている「孤独感」を、人々はどの程度感じているのか、そして、基本属性によって孤独感の強弱に差があるのかどうかを探る。

まず、孤独感の程度を「あなたは、日ごろ、孤独感を感じることがありますか」という質問と、それに対する「よく感じる」「ときどき感じる」「あまり感じない」「まったく感じない」という４つの選択肢により把握した。選択肢への回答は、それぞれ 5.7%、34.1%、41.9%、18.4%（n＝370）であり、「あまり感じない」と答えた人が最も多かった。「よく感じる」と「ときどき感じる」をカテゴリー統合し、孤独感が“強い”とし、「あまり感じない」と「まったく感じない」を孤独感が“弱い”にすると、孤独感が「強い」が 39.7%、「弱い」が 60.3%となった。このことから、白旗台地区においては、孤独感が「弱い」人のほうが多いことがわかった。

次に、基本属性と孤独感との間でクロス集計を行い、その結果をまとめたものが表６-１である。

表６－１　孤独感の規定要因　　単位（%）

		強い	弱い	計		χ^2値	p 値
全体		39.7	60.3	100.0	370人		
性別	男性	41.3	58.7	100.0	126人	0.1893	0.6635
	女性	38.9	61.1	100.0	244人		
年齢	20代	50.0	50.0	100.0	18人	4.2749	0.5105
	30代	40.0	60.0	100.0	45人		
	40代	47.8	52.2	100.0	69人		
	50代	33.9	66.1	100.0	56人		
	60代	37.6	62.4	100.0	109人		
	70代	35.2	64.8	100.0	71人		
配偶関係	有配偶	33.9	66.1	100.0	283人	19.8625	<.0001 ***
	未婚	51.2	48.8	100.0	41人		
	離別・死別	66.7	33.3	100.0	45人		
居住形態	家族と同居	35.1	64.9	100.0	319人	21.9546	<.0001 ***
	単独世帯	70.0	30.0	100.0	50人		
住居形態	一戸建て	35.3	64.7	100.0	249人	8.0322	0.0046 **
	集合住宅	51.4	48.6	100.0	107人		
勤務形態	正社員	42.1	58.0	100.0	88人	9.6524	0.0218 *
	自営業	23.8	76.2	100.0	21人		
	派遣・契約社員	70.6	29.4	100.0	17人		
	パート・アルバイト	34.6	65.4	100.0	52人		
経済状態	豊か	33.2	66.8	100.0	250人	12.5608	0.0004 ***
	貧しい	52.5	47.5	100.0	118人		
健康状態	良い	36.9	63.1	100.0	279人	6.1312	0.0133 *
	悪い	52.6	47.4	100.0	76人		
一週間に４日以上会話しない日の有無	あり	60.9	39.1	100.0	23人	4.6554	0.0310 *
	なし	38.2	61.9	100.0	346人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

（注１）居住形態の「家族と同居」とは、「１人暮らし」をしていると回答した人以外のすべての居住形態を含む。
（注２）住居形態は、「一戸建て（持ち家）」と「一戸建て（賃貸）」を“一戸建て”、「集合住宅（持ち家）」と「集合住宅（賃貸）」を“集合住宅”とカテゴリー統合し、「その他」は欠損値として処理した。
（注３）経済状態は、「あまり困っていない」と「困っていない」を“豊か”、「困っている」と「少し困っている」を“貧しい”にカテゴリー統合した。
（注４）健康状態は、「とても良い」と「まあまあ良い」を“良い”、「あまり良くない」と「良くない」を“悪い”にカテゴリー統合した。

χ^2検定の結果、性別と年齢別では統計的に有意な差はみられなかったが、配偶関係、居住形態、経済状態において 0.1%水準、住居形態にて１%水準で有意差がみられた。そして、勤務形態、健康状態、健康状態、一週間に４日以上会話のない日の有無においては５%水準で有意差がみられた。

性別にみると、女性よりも男性のほうが孤独感を強く感じている人の割合がやや高い。年齢別では、20 代は孤独感の「強い」人と「弱い」人がちょうど半々であり、全体的にみると､20～40 代より 50～70 代の人の方が相対的に孤独感の強い人は少ないように見える。配偶関係別では、離別・死別（66.7%）、未婚（51.2%）、有配偶（33.9%）の順に孤独感を強く感じている。居住形態別では、家族と同居している人（35.1%）よりも、単独世帯（70.0%）のほうが孤独感を強く感じる傾向にある。住居形態別では、集合住宅に住んでいる人の約半数が孤独感が「強い」と回答しており、一戸建てに住んでいる人と比べて割合が高い。勤務形態別にみると、孤独感が「強い」と答えた人の比率が最も高かったのは派遣・契約社員（70.6%）であり、次いで、正社員（42.1%）、パート・アルバイト（34.6%）と続き、最も低かったのは自営業（23.8%）であった。非正規社員として括ることもできるパート・アルバイトと派遣・契約社員であるが、双方の孤独感には大きな差がみられ、後者の方が孤独感を強く感じている。経済状態別では､豊かな人よりも貧しい人のほうが、健康状態別では良好な人よりも悪い人のほうが孤独感を強く感じている。最後に、一週間に４日以上会話をしない日があった人は、ない人と比べて孤独感が「強い」と答えた人の割合が 22.7 ポイント高かった。

以上のことから、孤独感が強い傾向のある人の特徴として、家族関係の凝集性が低いという点が浮かび上がってきた。有配偶と未婚、離別・死別のあいだでは孤独感の強弱に大きな差があり、配偶者の存在は、孤独感を緩和する効果があると考えられる。居住形態においても同様に、家族と同居している人のほうが孤独感が弱く、家族は人々にとって大きな存在であることがうかがえる。また、経済状態も孤独感の程度に少なからず影響を与えている。

６．４　各社会関係の交流の実態からみた親密度

続いて本節では､第１に､仮説Ｉの独立変数としている５つのレベルの社会関係（家族、親せき、職場、友人、地域）を人々がどれだけ重視しているかを把握し、第２にそれらの社会関係を人々がどのように維持しているのかを交流の実態から探る。

交流の実態においては、基本属性とのクロス集計を行い、その結果からそれぞれの社会関係における親密度の高い人と低い人の特徴を捉えたいと考える。なお、基本属性はすべての社会関係において「性別」「年齢」「配偶関係」「居住形態」を用いた。また、地域における社会関係の実態については第５章において詳細に分析されているため、本章では省略することとする。

まず、５つのレベルの社会関係のそれぞれの重視度をまとめたものが表６－２である。

５つのレベルの社会関係をそれぞれどの程度重視しているかを「とても大切にしている」「ある程度大切にしている」「あまり大切にしていない」「まったく大切にしていない」の４件法により回答を求め､「とても大切にしている」と「ある程度大切にしている」を“重視する”､「あまり大切にしていない」と「まったく大切にしていない」を“重視しない”

にカテゴリー統合し単純集計した。

表６－２　５つの社会関係における重視度　単位（%）

	重視する	重視しない	計	
a 家族	97.8	2.2	100.0	363人
b 親せきや親類	88.5	11.5	100.0	366人
c 友人や知人	90.7	9.3	100.0	365人
d 職場の仲間	71.5	28.5	100.0	267人
e 地域の人	60.1	40.0	100.0	363人

「重視する」と答えた人の割合が高い社会関係から順に挙げていくと、家族（97.8%）、友人（90.7%）、親せき（88.5%）、職場（71.5%）、地域（60.1%）となった。大部分の人が家族を大切にしており､次いで友人や知人も約９割の人が大切にしていることがわかる。また、最も「重視する」と答えた人が少なかったのは地域関係であり、その割合は最も割合の高かった家族関係と比べて 30 ポイント以上の差があった。

次に、家族、親せき、職場、友人の４つの社会関係の交流の実態をみていく。

（１）家族関係

家族関係の交流の実態を、会話、外出、気づかいといった３つの側面から捉えていく。

①家族との会話

家族との会話の頻度は､「あなたは、この１年間に、家族と『話らしい話』をどれくらいしましたか」という質問と､「ほぼ毎日」（55.7%）「週に４～５回」（10.7%）「週に２～３回」（10.4%）「週に１回」（6.1%）「月に１～２回」（9.1%）「年に数回」（3.7%）「年に１回程度」（0.8%）「この１年間では「話らしい話」をしていない」（0.5%）「家族に当たるような人はいない」(2.9%）の９つの選択肢によって調べた。そして､「週に４～５回」「週に２～３回」「週に１回」をカテゴリー統合して“週１回以上”とし､「年に数回」「年に１回程度」「この１年間では『話らしい話』をしていない」を“年に数回以下”に､「家族に当たるような人はいない」は欠損値として処理をした（表６-３）。

表６－３　家族との会話　単位（%）

		ほぼ毎日	週に一回以上	月に一～二回	年に数回以下	計		χ^2値	p 値
全体		57.4	28.0	9.3	5.2	100.0	364人		
性別	男性	47.0	29.9	16.2	6.8	100.0	117人	12.9382	0.0048 **
	女性	62.8	26.5	6.2	4.6	100.0	242人		
年齢	30代以下	58.1	27.4	11.3	3.2	100.0	62人	28.5994	0.0045 **
	40代	77.9	16.2	2.9	2.9	100.0	68人		
	50代	64.2	20.8	11.3	3.8	100.0	53人		
	60代	55.9	27.5	8.8	7.8	100.0	102人		
	70代	36.6	42.3	14.1	7.0	100.0	71人		
配偶関係	有配偶	63.5	26.6	6.0	3.9	100.0	282人	33.5760	<.0001 ***
	未婚	31.4	28.6	28.6	11.4	100.0	35人		
	離別・死別	39.0	34.2	17.1	9.8	100.0	41人		
居住形態	家族と同居	63.5	25.8	6.9	3.8	100.0	318人	53.8231	<.0001 ***
	単独世帯	10.0	42.5	30.0	17.5	100.0	40人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

基本属性とのクロス集計を行いχ²検定したところ、配偶関係と居住形態は 0.1%水準、性別と年齢は１％水準で有意な差がみられた。性別では、男性よりも女性のほうが会話をする頻度が高く、年齢別では、40 代の約８割が家族と「ほぼ毎日」会話をしており、他の年代と比べて割合が高い。40 代を境に年齢が高くなるとその頻度は低下し、70 代になると「ほぼ毎日」は５割を下回る。配偶関係別では、有配偶は未婚、離別・死別よりも家族と会話をする頻度が高い。居住形態別では、家族と同居している人の約６割が「ほぼ毎日」会話しているのに対して単独世帯の人は１割であり、その差は大きい。

②家族との外出

外出の頻度は、「あなたは、ふだん、家族とどれくらいいっしょに出かけることがありますか」という質問と、「ほぼ毎日」(8.3%)「週に４～５回」(4.8%)「週に２～３回」(23.3%)「週に１回」(20.4%)「月に２～３回」(16.1%)「月に１回」(9.1%)「年に数回」(10.5%)「年に１回程度」(2.1%)「数年に１回程度」(0.5%)「いっしょに出かけることはない」(1.9%)「家族に当たるような人はいない」(2.9%) の 11 の選択肢によって調べた。そして、「ほぼ毎日」「週に４～５回」「週に２～３回」をカテゴリー統合して“週に２回以上”とし、「月に２～３回」「月に１回」を“月に数回”、「年に数回」「年に１回程度」「数年に１回程度」「いっしょに出かけることはない」を“年に数回以下”にした。「家族に当たるような人はいない」は欠損値として処理した（表６-４）。

表６ - ４　家族との外出　　単位（%）

		週に二回以上	週に一回	月に数回	年に数回以下	計		χ²値	p 値
全体		37.6	21.0	26.0	15.5	100.0	362人		
性別	男性	29.8	17.5	32.5	20.2	100.0	114人	9.2170	0.0265 *
	女性	41.2	23.1	23.1	12.8	100.0	243人		
年齢	30代以下	47.6	23.8	15.9	12.7	100.0	63人	35.9632	0.0003 ***
	40代	42.0	31.9	18.8	7.3	100.0	69人		
	50代	26.4	26.4	37.7	9.4	100.0	53人		
	60代	42.4	16.2	21.2	20.2	100.0	99人		
	70代	25.7	12.9	41.4	20.0	100.0	70人		
配偶関係	有配偶	42.0	24.9	22.8	10.3	100.0	281人	46.8307	<.0001 ***
	未婚	20.0	11.4	28.6	40.0	100.0	35人		
	離別・死別	20.0	5.0	47.5	27.5	100.0	40人		
居住形態	家族と同居	41.1	22.9	24.8	11.3	100.0	319人	47.3584	<.0001 ***
	単独世帯	5.4	8.1	37.8	48.7	100.0	37人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

基本属性とのクロス集計を行いχ²検定したところ、年齢と配偶関係、居住形態において 0.1%水準、性別にて５％水準で有意な差がみられた。性別では、男性に比べて女性のほうが家族と外出する頻度が高い。年齢別に「週に２回以上」の割合をみると、30 代以下が最も高く、40 代と 60 代がそれよりやや低い。そして 50 代と 70 代はさらにそれらよりも比率が下がっている。配偶関係別にみると、有配偶が未婚、離別・死別よりも頻度が高い。居住形態では、単独世帯よりも家族と同居している人のほうが「週２回以上」外出す

る比率が極めて高いという結果が得られた。また、単独世帯の約半数が家族との外出は「年に数回以下」の頻度であることが読みとれる。

③家族のあいだの気づかい

家族のあいだの気づかいは、「あなたは、家族が自分のことを気にかけてくれていると感じますか」という質問と、「とてもそう思う」(47.3%)「まあまあそう思う」(43.1%)「あまりそう思わない」(5.9%)「まったくそう思わない」(0.8%)「家族に当たるような人はいない」(2.9%) という５つの選択肢から把握した。そして「とてもそう思う」と「まあまあそう思う」をカテゴリー統合して気づかいが“ある”とし、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を気づかいが“ない”とし、「家族に当たるような人はいない」は欠損値として処理した（表６-５)。

表６ - ５　家族のあいだの気づかい　　単位（%）

		ある	ない	計		χ^2値	p 値
全体		93.2	6.9	100.0	365人		
性別	男性	92.2	7.8	100.0	116人	0.1756	0.6752
	女性	93.4	6.6	100.0	244人		
年齢	20～30代	93.7	6.4	100.0	63人	0.6824	0.7109
	40～50代	94.3	5.7	100.0	122人		
	60～70代	91.9	8.1	100.0	172人		
配偶関係	有配偶	93.7	6.3	100.0	285人	not valid	
	未婚	88.6	11.4	100.0	35人		
	離別・死別	92.3	7.7	100.0	39人		
居住形態	家族と同居	93.8	5.6	100.0	322人	not valid	
	単独世帯	86.5	13.5	100.0	37人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

気づかいが「ある」に回答が偏っていたため、χ^2検定の結果４つのクロス集計すべてにおいて統計的な有意差はみられなかった。しかし、配偶関係別では未婚、居住形態別では単独世帯において、気づかいが「ない」と答えている人の割合がやや高かった。

（２）親せき関係

次に、親せき関係の実態は、「交流」といった幅広い視点から探る。「あなたは、ふだん、親せきや親類とどれくらい交流をしていますか」という質問を用意し、「月１回以上」(38.1%)「年に数回」(43.0%)「年に１回程度」(10.0%)「数年に１回程度」(4.9%)「まったく交流がない」(3.0%)「親せきや親類はいない」(1.1%) の６つから回答を求めた。そして、「数年に１回程度」と「まったく交流がない」を“数年に１回以下”にカテゴリー統合し、「親せきや親類はいない」は欠損値として処理をした（表６-６)。

基本属性とのクロス集計を行いχ^2検定した結果、性別において 0.1%水準、居住形態において１%水準で統計的に有意な差がみられた。全体をみると、「月に１回以上」交流する人の比率が 38.5%、「年に数回」の人が 43.4%であり、後者の頻度のほうがやや多い。性別では、「月に１回以上」交流していると答えた女性の割合が男性の約２倍であり、女性のほうが頻繁に交流している。年齢別では、「月に１回以上」と「年に数回」の割合とを足し合わせると、高齢であるほど交流が盛んであることがうかがえる（30 代以下：74.6%、40 代：77.6%、50 代：77.8%、60 代：86.7%、70 代：90.0%)。配偶関係別では、有配偶と

離別・死別は「月に１回以上」がそれぞれ約４割と同程度であるのに対し、未婚は 18.4％と双方よりもかなり低い。居住形態別では、単独世帯よりも家族と同居している人のほうが親せきとの交流が多いことがわかった。

表６－６　親せきとの交流　　単位（％）

		月に一回以上	年に数回	年に一回	数年に一回以下	計		χ^2値	p 値
全体		38.5	43.4	10.1	7.9	100.0	366人		
性別	男性	23.3	50.8	15.8	10.0	100.0	120人	20.1113	0.0002 ***
	女性	46.5	39.4	7.5	6.6	100.0	241人		
年齢	30代以下	30.2	44.4	11.1	14.3	100.0	63人	15.1432	0.2337
	40代	41.8	35.8	10.5	11.9	100.0	67人		
	50代	31.5	46.3	14.8	7.4	100.0	54人		
	60代	43.8	42.9	9.5	3.8	100.0	105人		
	70代	41.4	48.6	5.7	4.3	100.0	70人		
配偶関係	有配偶	41.2	42.3	9.3	7.2	100.0	279人	8.5832	0.1984
	未婚	18.4	52.6	15.8	13.2	100.0	38人		
	離別・死別	41.9	39.5	11.6	7.0	100.0	43人		
居住形態	家族と同居	41.3	43.2	8.9	6.7	100.0	315人	12.4115	0.0061 **
	単独世帯	22.2	42.2	20.0	15.6	100.0	45人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

（３）職場関係

続いて、職場関係の実態は、会話と余暇の２つの側面からみていく。

①職場の人との会話

会話の頻度は、「あなたは、この１週間に、職場の人と雑談程度の会話をしましたか」という質問と、「頻繁にした」(70.7％)「ときどきした」(27.6％)「ほとんどしなかった」(1.7％)「まったくしなかった」(0.0％）という４つの選択肢によって調べた。「まったくしなかった」と回答した人はおらず、「ほとんどしなかった」と答えた人も少数であったため、「ほとんどしなかった」と「ときどきした」をカテゴリー統合して“ときどきした”とした（表６-７）。

表６－７　職場の人との会話　　単位（％）

		頻繁にした	ときどきした	計		χ^2値	p 値
全体		70.7	29.3	100.0	174人		
性別	男性	55.6	44.4	100.0	72人	14.4987	0.0001 ***
	女性	82.2	17.8	100.0	101人		
年齢	30代以下	73.3	26.7	100.0	45人	2.5326	0.4694
	40代	78.7	21.3	100.0	47人		
	50代	68.3	31.7	100.0	41人		
	60～70代	64.1	35.9	100.0	39人		
配偶関係	有配偶	70.9	29.1	100.0	127人	1.6381	0.4409
	未婚	78.6	21.4	100.0	28人		
	離別・死別	61.1	38.9	100.0	18人		
居住形態	家族と同居	71.7	28.3	100.0	145人	0.1708	0.6794
	単独世帯	67.9	32.1	100.0	28人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

基本属性とのクロス集計を行いχ²検定した結果、性別において 0.1%水準で統計的な有意差がみられ、その他では有意差はみられなかった。全体を見ると、職場の人と会話を「頻繁にした」比率が 70.7%であり、多くの人が活発にコミュニケーションをとっていることがわかる。性別にみると、男性よりも女性のほうが職場の人と会話を頻繁にしている。年齢別では、40 代における会話の頻度が最も高く、それを境に減少している。配偶関係別では、未婚が有配偶と比べて「頻繁にした」の比率が高く、離別・死別は双方よりも下回っている。居住形態別では、単独世帯よりも家族と同居している人のほうが会話の頻度がやや高い。

②職場の人との余暇

職場の人との余暇は「あなたはふだん、職場の人と仕事以外で時間を共有することはありますか」という質問と、「週１回以上」(14.9%)「月に２～３回」(14.9%)「月に１回」(16.1%)「年に数回」(26.4%)「年に１回程度」(10.3%)「数年に１回程度」(0.6%)「仕事以外で時間を共有することはない」(16.7%)の７つの選択肢によって調べた。そして「月に２～３回」「月に１回」を“月に１回”、「年に数回」「年に１回程度」を“年に数回”、「数年に１回程度」「仕事以外で時間を共有することはない」を“数年に１回以下”にカテゴリー統合した（表６-８）。

表６－８　職場の人との余暇　　単位（%）

		週に一回以上	月に数回	年に数回	数年に一回以下	計		χ²値	p 値
全体		14.9	31.0	36.8	17.2	100.0	174人		
性別	男性	15.3	36.1	29.2	19.4	100.0	72人	3.5242	0.3176
	女性	14.9	27.7	42.6	14.9	100.0	101人		
年齢	30代以下	13.3	40.0	35.6	11.1	100.0	45人	15.7512	0.0723
	40代	17.0	17.0	44.7	21.3	100.0	47人		
	50代	12.2	29.3	48.8	9.8	100.0	41人		
	60～70代	18.0	41.0	18.0	23.1	100.0	39人		
配偶関係	有配偶	10.2	33.1	40.2	16.5	100.0	127人	not valid	
	未婚	35.7	32.1	17.9	14.3	100.0	28人		
	離別・死別	16.7	16.7	44.4	22.2	100.0	18人		
居住形態	家族と同居	12.4	31.7	41.4	14.5	100.0	145人	11.5870	0.0089 **
	単独世帯	28.6	28.6	14.3	28.6	100.0	28人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

基本属性とのクロス集計をし、χ²検定を行ったところ、居住形態で１%水準の有意差がみられ、その他では統計的な有意差はみられなかった。全体をみると、「月に数回」の頻度で職場の人と余暇を過ごす人が 31.0%、「年に数回」の人が 36.8%であり、「年に数回」の比率のほうがやや高い。性別では、「週に１回以上」の割合では大きな差はみられないが、「月に数回」と足し合わせると男性が 51.4%、女性が 42.6%となり、男性のほうが職場の人と余暇に時間を共有することが多い。年齢別において「週に１回以上」と「月に数回」を足し合わせた割合をみると、60～70 代の人が最も多く、次いで 30 代以下、50 代と続き、40 代が最も低かった(60～70 代:59.0%、30 代以下:53.3%、50 代:41.5%、40 代:34.0%)。

配偶関係別では、有配偶、離別・死別よりも未婚のほうが職場の人と余暇を過ごすことが多い。居住形態別では、家族と同居している人よりも単独世帯のほうが余暇に時間を共有する人の割合が高いが、一方で「数年に１回以下」の割合も高い点が特徴的である。

（３）友人関係

最後に、友人関係の実態は、外出と友人数の側面から捉えていく。また、友人数は「たわいのない話」をする友人と、一緒にいるとほっとする友人の２つのタイプに分けてそれぞれたずねた。

①友人との外出

友人との外出の頻度は「あなたは、ふだん、友人や知人と、どれくらいいっしょに出かけることがありますか」という質問と、「週に１回以上」(11.7%)「月に２～３回」(18.8%)「月に１回」(18.5%)「年に数回」(28.3%)「年に１回程度」(7.1%)「数年に１回程度」(2.7%)「いっしょに出かけることはない」(12.8%) の６つの選択肢によって調べた。そして、「月に２～３回」「月に１回」を“月に数回”、「年に数回」「年に１回程度」を“年に数回”、「数年に１回程度」「いっしょに出かけることはない」を“数年に１回以下”にカテゴリー統合した（表６-９）。

表６－９　友人との外出　　単位（%）

		週に一回以上	月に数回	年に数回	数年に一回以下	計		χ^2値	p値
全体		11.7	37.3	35.4	15.5	100.0	367人		
性別	男性	5.0	31.7	40.8	22.5	100.0	120人	15.3402	0.0015 **
	女性	15.0	40.0	32.9	12.1	100.0	240人		
年齢	30代以下	16.1	45.2	33.9	4.8	100.0	62人	17.2927	0.1389
	40代	8.7	30.4	46.4	14.5	100.0	69人		
	50代	7.4	35.2	35.2	22.2	100.0	54人		
	60代	10.5	42.9	29.5	17.1	100.0	105人		
	70代	16.2	30.9	35.3	17.7	100.0	68人		
配偶関係	有配偶	10.5	36.2	38.4	14.9	100.0	276人	6.6026	0.3592
	未婚	20.0	37.5	25.0	17.5	100.0	40人		
	離別・死別	9.3	44.2	27.9	18.6	100.0	43人		
居住形態	家族と同居	10.9	36.4	38.7	14.1	100.0	313人	11.1022	0.0112 *
	単独世帯	15.2	43.5	15.2	26.1	100.0	46人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

基本属性とのクロス集計を行いχ^2検定したところ、性別において１%水準、居住形態において５%水準の有意差がみられた。全体では、友人と「月に数回」外出する人が 37.3%、「年に数回」外出する人が 35.4%であり、「月に数回」のほうがやや多い。性別では、女性のほうが男性よりも友人と外出することが多い。「週に１回以上」の割合を年齢別にみると、30 代以下（16.1%）と 70 代（16.2%）が他の年代と比べて高い。配偶関係別では、未婚が他と比べて友人と外出する頻度が高く、居住形態別では、家族と同居している人よりも単身世帯のほうが、友人と外出する頻度が高いという結果を得た。

②「たわいのない話」をする友人の数

「たわいのない話」をする友人の数は「あなたには、『たわいのない話』をする友人や知人がどれくらいいますか」という質問と、「たくさんいる」(17.3%)「まあまあいる」(66.5%)「ほとんどいない」(12.2%)「まったくいない」(4.1%) という４つの選択肢により調べた。そして、「たくさんいる」と「まあまあいる」をカテゴリー統合して友人数が“多い”とし、「ほとんどいない」と「まったくいない」を友人数が“少ない”にした（表６-10)。

表６ - 10　「たわいのない話」をする友人の数　　単位（%）

		多い	少ない	計		χ^2値	p 値
全体		83.8	16.2	100.0	370人		
性別	男性	76.0	24.0	100.0	121人	7.9335	0.0049 **
	女性	87.6	12.4	100.0	242人		
年齢	30代以下	93.6	6.5	100.0	62人	6.8797	0.1424
	40代	80.0	20.0	100.0	70人		
	50代	79.6	20.4	100.0	54人		
	60代	81.1	18.9	100.0	106人		
	70代	87.0	13.0	100.0	69人		
配偶関係	有配偶	83.5	16.6	100.0	278人	0.2835	0.8679
	未婚	82.5	17.5	100.0	40人		
	離別・死別	86.4	13.6	100.0	44人		
居住形態	家族と同居	83.5	16.5	100.0	315人	0.0781	0.7799
	単独世帯	85.1	14.9	100.0	47人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

基本属性とクロス集計をし、χ^2検定を行った結果、性別において１%水準の有意差がみられた。全体の 83.8%が友人数の「多い」人で構成されており、性別では男性よりも女性のほうが「多い」と答えた人の割合が高い。年齢別では、30 代以下に次いで 70 代に友人が多く、40 代、50 代、60 代のあいだには大きな差はみられなかった。配偶関係別にみると、離婚・死別が他と比べて友人の数が「多い」と答えた比率が高い。居住形態別では、家族と同居している人よりも単独世帯のほうが「多い」と答えた人の比率がやや高いという結果を得た。

③一緒にいるとほっとする友人の数

一緒にいるとほっとする友人数は、「あなたには、一緒にいるとほっとする友人や知人が何人くらいいますか」という質問で調べた。そして、全体を「０人」「１～３人」「それ以上」の３つの階級に区切った（表６-11)。

基本属性とのクロス集計を行いχ^2検定したところ、性別にて１%水準、年齢において５%水準で統計的な有意差がみられた。全体をみると、「０人」が 14.9%、「１～３人」が 43.8%、「それ以上」と答えた人が 41.4%であり、多くの人にほっとする友人がいることを確認できる。性別では、男性よりも女性のほうが友人数が多い。また、男性の 23.8%が「０人」と回答しており、その割合は女性と比べて高い。年齢別では、30 代以下において「０人」の割合が 3.2%と低かったのに対し、70 代では 20.0%を占めており、年齢が高くなるにしたがってその割合は上昇していることがわかる。配偶関係のあいだには大きな差はみられなかった。居住形態別では、家族と同居している人よりも単独世帯のほうが「０人」と回答した人が多かった。

表６ - 11　一緒にいるとほっとする友人の数

単位（%）

		0人	1～3人	それ以上	計		χ^2値	p 値
全体		14.8	43.7	41.5	100.0	371人		
性別	男性	23.6	40.7	35.8	100.0	123人	10.7584	0.0046 **
	女性	10.8	44.0	45.2	100.0	241人		
年齢	30代以下	3.2	41.9	54.8	100.0	62人	18.1971	0.0198 *
	40代	12.9	57.1	30.0	100.0	70人		
	50代	17.0	43.4	39.6	100.0	53人		
	60代	19.8	37.7	42.5	100.0	106人		
	70代	20.0	37.1	42.9	100.0	70人		
配偶関係	有配偶	15.4	43.6	41.1	100.0	280人	0.7050	0.9507
	未婚	15.4	43.6	41.0	100.0	39人		
	離別・死別	13.6	38.6	47.7	100.0	44人		
居住形態	家族と同居	14.5	43.9	41.6	100.0	317人	1.1537	0.5617
	単独世帯	19.6	37.0	43.5	100.0	46人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

（４）５つのレベル社会関係の親密度

これまで、４つのレベルの社会関係における交流の実態を基本属性とのクロス集計からみてきた。そして第５章では近隣付き合いの緊密度に関する分析が行われた（表５-３参照）。これら５つのレベルの社会関係の実態分析を通して、それぞれの社会関係ごとに交流の頻度の高い人（あるいは人数が多い人）と頻度の低い人（あるいは人数の少ない人）の特徴が浮かび上がってきた。以下の分析では、交流の頻度が高い、あるいは交流する人数が多いほど“親密度が高い”、交流の頻度が低い、あるいは交流する人数が少ないほど“親密度が低い”とみなすこととする。

親密度の高い人の属性を挙げると、職場の人との余暇を除く全ての場面において、男性よりも女性のほうが親密度が高い。家族、親せき、地域の３つの社会関係においては、配偶関係別では有配偶、居住形態では家族と同居している人と、親密度の高い人の属性が共通していた。また、職場関係と友人との外出では、未婚の人の親密度が高かった。２つのタイプの友人数では、どちらも 30 代以下の親密度が高かった。

一方で親密度の低い人の特徴を挙げれば、性別では女性よりも男性のほうが親密度が低かった。家族関係においては、70 代がほかの年代と比べて親密度が低い。家族と親せき関係の双方では、親密度の低い属性として、未婚であることと単独世帯であることが共通していた。職場関係では離別・死別の親密度が低かった。友人関係では、ほっとする友人数を除けば、40 代と 50 代が他の年代と比べて親密度が低かった。

６．５　仮説 I の検証

ここでは、仮説 I「社会関係が親密でない人は、親密な人よりも、孤独感が強い」を検証する。独立変数には家族、親せき、職場、友人、地域の５つのレベルの社会関係における場面ごとにみた交流の実態を用い、孤独感との関係をみていく。そして、そのクロス集計結果が表６-12 である。

全体を通して、社会関係の親密度が低いほど、孤独感を強く感じている傾向にある。

表６－12　社会関係の親密度と孤独感　　単位（%）

		強い	弱い	計		χ^2値	p値
家族との会話	ほぼ毎日	32.2	67.8	100.0	205人	11.0162	0.0116 *
	週に１回以上	51.6	48.5	100.0	97人		
	月に１～２回	41.2	58.8	100.0	34人		
	年に数回以下	47.4	52.6	100.0	19人		
家族との外出	週に２回以上	30.1	69.9	100.0	133人	10.2308	0.0167 *
	週に１回	39.5	60.5	100.0	76人		
	月に数回	41.9	58.1	100.0	93人		
	年に数回以下	54.9	45.1	100.0	51人		
家族のあいだの気づかい	ある	37.8	62.2	100.0	331人	1.0287	0.3105
	ない	48.0	52.0	100.0	25人		
親せきとの交流	月に１回以上	33.1	66.9	100.0	139人	9.8476	0.0199 *
	年に数回	39.0	61.0	100.0	154人		
	年に１回	59.5	40.5	100.0	37人		
	数年に１回以下	50.0	50.0	100.0	28人		
職場の人との会話	頻繁にした	36.1	63.9	100.0	122人	3.7311	0.0534
	ときどきした	52.0	48.0	100.0	50人		
職場の人との余暇	週に１回以上	42.3	57.7	100.0	26人	4.1618	0.2445
	月に数回	29.6	70.4	100.0	54人		
	年に数回	46.9	53.1	100.0	64人		
	数年に１回以下	46.4	53.6	100.0	28人		
友人との外出	週に１回以上	29.3	70.7	100.0	41人	8.8806	0.0309 *
	月に数回	35.1	64.9	100.0	134人		
	年に数回	40.9	59.1	100.0	127人		
	数年に１回以下	55.4	44.6	100.0	56人		
「たわいのない話」をする友人の数	多い	36.1	63.9	100.0	302人	11.1075	0.0009 ***
	少ない	59.3	40.7	100.0	59人		
一緒にいるとほっとする友人の数	０人	52.7	47.3	100.0	55人	13.3217	0.0013 **
	１～３人	45.8	54.2	100.0	155人		
	それ以上	29.1	70.9	100.0	151人		
近隣付き合いの緊密度	高い	27.9	72.1	100.0	165人	17.3262	<.0001 ***
	低い	49.5	50.5	100.0	192人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

社会関係ごとにみていくと、まず、家族関係では、家族との会話を「週に１回以上」する人の 51.6%が強く孤独感を感じているものの、外出や気づかいでは、親密度が低くなるにしたがって孤独感を強く感じる傾向にある。χ^2検定の結果、会話と外出にて５％水準で統計的な有意差がみられた。

親せき関係では、「年に１回」交流する人の 59.5%が孤独感を強く感じており、他と比べて最も比率が高い。しかし、全体的にみると親密度が低くなるにしたがって孤独感を強く感じる傾向にある。χ^2検定の結果、５％水準で有意差がみられた。

職場関係では、会話を「頻繁にした」人よりも「ときどきした」人のほうが孤独感を強く感じる割合が高い。一方で、余暇に職場の人と「週に１回以上」過ごす人と「数年に１回以下」の人とのあいだの孤独感の程度に大きな差はなく、後者のほうが強く感じると答えた人の比率がやや高かった。χ^2検定の結果、２つの側面とも統計的に有意な差はみられなかった。

続いて友人関係では、３つすべての側面において親密度が低いほど孤独感を強く感じていることがわかる。χ^2検定の結果、「たわいのない話」をする友人数にて 0.1%水準、一緒にいるとほっとする友人数にて１％水準､外出において５％水準で有意な差がみられた。

最後に、地域関係においては、近隣付き合いの緊密度の高い人よりも低い人のほうが孤独感を強く感じていることが読み取れる。

以上のことより、家族、親せき、友人、地域の４つの社会関係では、親密度が低いほど孤独感が強いことがわかり､総じて見ると､仮説 Ⅰ は検証されたと言えるだろう｡しかし、職場関係は親密度が高くてもそれは孤独感を和らげるものではなく、職場関係については仮説 Ⅰ は検証されなかった。

６．６　仮説 Ⅱ の検証

次に、社会関係の親密度を社会的ネットワークの強弱から捉え、仮説 Ⅱ「社会的ネットワークが弱い人は、強い人よりも、孤独感が強い」を検証する。

独立変数には、家族、親戚・親類、近所・地域、職場、友人、専門家・サービス機関の６つのレベルの社会的ネットワークを用いる。社会的ネットワークについては第５章で詳細に分析されており､表５-５によれば６つのうち最も強い人が多かったのは家族レベルのネットワークであった。またその次に多かったのは親戚・親類レベルのネットワークであり、白旗台地区においては血縁的なネットワークの強いことがうかがえる。

表６ - 13　社会的ネットワークと孤独感

単位（%）

			孤独感 強い	孤独感 弱い	計		χ^2値	p 値
社会的ネットワーク	家族	強い	37.9	62.2	100.0	288人	6.6618	0.0099 **
		弱い	55.7	44.3	100.0	61人		
	親戚・親類	強い	32.0	68.0	100.0	147人	9.0962	0.0026 **
		弱い	48.0	52.0	100.0	204人		
	職場	強い	54.8	45.2	100.0	31人	3.3020	0.0692
		弱い	37.1	62.9	100.0	140人		
	友人	強い	35.4	64.6	100.0	96人	1.3037	0.2535
		弱い	42.1	57.9	100.0	254人		
	近所・地域	強い	27.5	72.5	100.0	69人	5.6829	0.0171 *
		弱い	43.2	56.8	100.0	287人		
	専門家・サービス機関	強い	39.3	60.7	100.0	122人	0.0109	0.9170
		弱い	39.9	60.1	100.0	233人		

***p＜0.001　　**p＜0.01　　*p＜0.05

表６-13 は、６つのレベルの社会的ネットワークと孤独感のクロス集計結果をまとめたものである。家族、親戚・親類、友人、近所・地域の４つのレベルにおいて、社会的ネットワークが弱いほど孤独感を強く感じていることがわかる。そのなかでも、家族のレベルのネットワークが「弱い」人で孤独感が強い人は 55.7%おり、その割合は４つのレベルにおいて最も高い。このことより、家族レベルのネットワークは孤独感の程度に深く関わっていると考えられる。次いで高かったのは親戚・親類レベル（48.0%）であり、血縁的なネットワークは人びとの孤独感を和らげていることが推察できる。一方で、職場レベルをみると、ネットワークが強いほど孤独感を強く感じている。すなわち、職場の人とのネットワークが強くても、人々の心情面に安定的な効果を働きかけないことが考えられる。また、専門家・サービス機関レベルでは、ネットワークの強弱と孤独感の程度に差はみられなかった。χ^2検定の結果、家族レベルと親戚・親類レベルにて１%水準、近所・地域レベルにおいて５%水準で統計的な有意差がみられ、家族、親戚・親類、近所・地域の３つのレベルにおいて仮説は検証された。なお、友人のレベルにおいては統計的な有意差はみられなかったが、ネットワークが強いほど孤独感を弱める傾向のあることが推測できる。

６．７　考察

これまで、家族、親せき、職場、友人、地域の５つのレベルの社会関係を中心に、交流の実態と社会的ネットワークの強弱から親密度を捉え、孤独感との関係をみてきたが、どちらにおいても共通した知見がえられた。すなわち、家族、親せき、友人、地域の４つの社会関係における親密度が高いほど孤独感は低くなるが、一方で、職場関係が親密であっても孤独感を和らげる方向には作用していなかった。

白旗台地区の社会関係においては、家族関係を筆頭に、血縁関係における親密度が高く、それは孤独感を緩和する効果のあることがわかった。それを裏付けるように、居住形態別でみると、単独世帯の親密度が家族と同居している人に比べてかなり低く、孤独感を極めて強く感じる傾向にあることが特徴的であった。

また、友人関係も全体的に親密度が高く、多世代において交流の活発なことが捉えられた。

一方で、職場関係が親密であっても孤独感を強く感じている人が多かった。これは、昔と比べて職場では形式的な付き合いが多くなり、親密な関係を築くことが少なくなったことが原因なのではないかと推測する。したがって、戦後の経済成長と並行して形成されていった「カイシャ」が、現在変容しつつあることを映しだしているのではないだろうか。

【参考文献】

本川裕，2011,「社会事情データ図録」内「社会的孤立の状況（OECD 諸国の比較)」
(http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/9502.html，2013 年２月 24 日).

広井良典，2010,「コミュニティとは何か」小林正弥編『コミュニティ』勁草書房，11-32.

広沢俊宗，2011,「孤独感に関する心理学的研究（１）―課題と展望―」『関西国際大学研究紀要』，145-152.

河合克義，2009,『大都市のひとり暮らし高齢者と社会的孤立』法律文化社.

厚生労働省「「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書」(http://www1.mhlw.go.jp/shingi/s0012/s1208-2_16.html，2013 年２月 25 日).

内閣府,「第１章　高齢化の状況　第３節　地域における高齢者の「出番」と「活躍」～社会的孤立を超えて地域の支え手に～」『平成 23 年版高齢社会白書』
(http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/html/s1-3-1.html，2013 年２月 25 日).

内閣府,「第３章　職場のつながり　第１節　職場のつながりの変化と現状（1-3)」『平成 19 年版国民生活白書』
(http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/01_honpen/html/07sh030101.html，2013 年２月 25 日).

内閣府国民生活局総務課調査室，2007,「平成 18 年度国民生活モニター調査結果（概要）家族のつながりに関する調査」
(http://www.caa.go.jp/seikatsu/monitor/kazokutsunagaricyousa070824.pdf，2013 年２月 24 日).

佐藤清文,「戦後日本の経済成長」
(http://eritokyo.jp/independent/sato-col0116.html，2013 年１月 22 日).

士堤内昭雄，2010,「中高年男性の社会的孤立について」
(http://www.nli-research.co.jp/report/gerontology_journal/2010/gero10_011.pdf，2012 月５月 31 日).

総務省，統計局「労働力調査（詳細集計）　平成 24 年 10～12 月期平均（速報）結果　第 1-1 表　雇用形態別役員を除く雇用者数」
(http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/4hanki/dt/index.htm，2013 年３月 23 日).

湯川順子，2012,「社会的孤立への視点：高齢者を中心に」『龍谷大学大学院研究紀要』，57-71.

第７章　居住意識とその規定要因

B0C044　小島彩花

７．１　問題意識

住みやすさや愛着度、定住希望といった地域に対する肯定的な意識の形成はどのようなことと関係しているのだろうか。筆者は、白旗台地区に住んでいる人々は日ごろ自分自身が住んでいる地区についてどのように感じているのか、また住みやすいと感じている人は何をもって住みやすいと感じているのかに興味を持った。また、地域に対してどの程度愛着を持っているのかという愛着度や、今後もこの地域に住み続けたいかという定住希望についてもどのような要因で規定されているのか分析したいと考えた。

渡邊勉（2006）によると、愛着度は地域への好感度であり、地域に対する感情的・感覚的意識としての側面が強く、また住みやすさは評価的意識としての側面が強いが感情的意識の要素もあり、地域に対する肯定観は愛着度、住みやすさ、地域イメージが基礎的な条件とされている。このことから、愛着度と住みやすさがどのような要因と関連しているのかについて分析するとともに、地域に対する肯定的な意識である定住希望についてもどのような要因と関連しているか分析したい。

また、国土交通省は、住みやすさを規定する条件として「就業機会」「交通の利便性」「住環境」「街のにぎわい」「教育・文化環境」「福祉・医療体制」「自然環境」「災害に対する備え」「情報」を挙げている（国土交通省 1995：15）。本調査では、そのうち、生活する上でなくてはならない基礎的な条件であり、白旗台地区においても重要な条件と考える「交通の利便性」「住環境」「福祉・医療体制」「情報」を選定して調査した。

本章では白旗台地区の交通や買い物の利便性、居住環境、地域サービスの評価、近隣付き合いの緊密度が、「住みやすさ」「愛着度」「定住希望」という居住意識とどのように関係しているかについて、次節で掲げた３つの仮説をたて検証していく。

７．２　仮説

仮説Ⅰ　利便性と居住環境に対する評価が高いと肯定的な居住意識を高める

仮説Ⅱ　地域サービスの評価は肯定的な居住意識と関連がある

仮説Ⅲ　近隣づきあいの緊密度が高いと肯定的な居住意識を高める

７．３　居住意識

仮説検証に入る前に本節では、３つの仮説において従属変数として共通に用いられる居住意識の特徴と基本属性との関連をみておこう。

なお、本章においては、「居住意識」とは、住みやすさ・愛着・定着希望の３つからなるものとする。

（１）住みやすさ

住みやすさについては、「あなたがお住まいの地域は、どの程度住みやすいと思います

か」という質問を用いて４件法で調べた。選択肢の「とても住みやすい」「まあまあ住みやすい」をカテゴリー統合して“住みやすい”とし、「あまり住みやすくない」「住みにくい」を“住みにくい”とした。表７－１によると、この地区に住んでいる人々の８割以上が「住みやすい」と感じていた。

表７－１　住みやすさ

単位：％

		住みやすい	住みにくい	計		χ^2値	p値
全体		86.8	13.2	100.0	379人		
性別	男	82.5	17.5	100.0	126人	3.064	0.0801
	女	89.0	11.0	100.0	246人		
年令	20代	77.8	22.2	100.0	18人	2.306	0.8054
	30代	91.1	8.9	100.0	45人		
	40代	88.6	11.4	100.0	70人		
	50代	85.7	14.3	100.0	56人		
	60代	87.0	13.0	100.0	108人		
	70代	87.7	12.3	100.0	73人		
住居形態	一戸建て（持ち家）	87.9	12.2	100.0	247人	1.749	0.6262
	一戸建て（賃貸）	75.0	25.0	100.0	8人		
	集合住宅（持ち家）	83.7	16.3	100.0	49人		
	集合住宅（賃貸）	85.0	15.0	100.0	60人		
居住年数	10年未満	90.4	9.6	100.0	136人	9.218	0.0559
	10-19年	75.4	24.6	100.0	61人		
	20-39年	87.6	12.4	100.0	89人		
	40-59年	87.0	13.0	100.0	77人		
	60年以上	93.8	6.3	100.0	16人		

$^{*}p<.05$　$^{**}p<.01$　$^{***}p<.001$

性、年齢、住居形態、居住年数との関連をみるために「住みやすさ」とクロス集計し、χ^2検定したところ、統計的有意差はみられなかった。だが、性別でみると、男性より女性のほうが6.5ポイント高く、女性のほうが「住みやすい」と感じる傾向がみられた。

住居形態については、一戸建て（持ち家）、集合住宅（持ち家）、集合住宅（賃貸）の３項目は８割を超える人が「住みやすい」と感じていた。

年齢では、20代で「住みやすい」と感じる人の割合が８割弱で他の年代と比べてもっとも低い。

居住年数については、10年未満では「住みやすい」が９割を占めていた。これに対して、10年以上では、10～19年が「住みやすい」は75.4％でもっとも低く、その他の居住年数の項目は８割強から９割と高い割合であった。

（２）愛着度

地域への愛着度については、「あなたは、今お住まいの地域に、どのくらい愛着がありますか」という質問を用いて４件法で調べた。選択肢の「とても愛着がある」「まあまあ愛着がある」をカテゴリー統合して“愛着がある”とし、「あまり愛着がない」「愛着がない」を“愛着がない”とした。表７－２によると、この地区に住んでいる人々で「愛着がある」と感じている人は全体の76.6％であった。

性、年齢、住居形態、居住年数別にクロス集計しχ^2検定したところ、居住年数以外は、統計的有意差はみられなかった。

居住年数は、0.1％水準で統計的に有意差があり、20年未満と20年以上で比較すると

20 年未満は「愛着がある」と感じる割合が６～７割なのに対し、20 年以上は８～９割が「愛着がある」と感じていた。

また、男性（74.0%）より女性（77.2%）のほうが愛着度が高い人がやや多い。

年齢でみると、他の年代と比べて 20 代（61.1%）の愛着度がもっとも低い。これに対して、60 代以上では「愛着がある」人が８割をこえている。

住居形態については、集合住宅（賃貸）居住者（65.0%）の愛着度が低いのが目立つ。

表７－２　愛着度　　単位：%

		愛着がある	愛着がない	計		χ^2値	p値
全体		76.6	23.4	100.0	380人		
性別	男	74.0	26.0	100.0	127人	0.478	0.4893
	女	77.2	22.8	100.0	246人		
年令	20代	61.1	38.9	100.0	18人	10.755	0.0565
	30代	68.9	31.1	100.0	45人		
	40代	74.3	25.7	100.0	70人		
	50代	67.9	32.1	100.0	56人		
	60代	81.7	18.4	100.0	109人		
	70代	84.9	15.1	100.0	73人		
住居形態	一戸建て（持ち家）	79.4	20.7	100.0	247人	5.924	0.1154
	一戸建て（賃貸）	75.0	25.0	100.0	8人		
	集合住宅（持ち家）	72.0	28.0	100.0	50人		
	集合住宅（賃貸）	65.0	35.0	100.0	60人		
居住年数	10年未満	70.6	29.4	100.0	136人	19.197	0.0007 ***
	10-19年	62.9	37.1	100.0	62人		
	20-39年	82.0	18.0	100.0	89人		
	40-59年	88.3	11.7	100.0	77人		
	60年以上	93.8	6.3	100.0	16人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

（３）定住希望

定住希望については、「あなたは今後もこの地域に住み続けたいと思いますか」という質問を用いて４件法で調べた。選択肢の「住み続けたい」「まあまあ住み続けたい」をカテゴリー統合して“住み続けたい”とし、「あまり住み続けたくない」「住み続けたくない」を“住み続けたくない”とした。表７－３によると、この地区の住民の 81.6%が、「住み続けたい」という定住希望をもっている。

定住希望について、性、年齢、住居形態、居住年数別にクロス集計し、χ^2検定したところ、年齢では 0.1%水準で、居住年数では１%水準で統計的な有意差がみられた。

年齢別にみると、年齢が高くなるに従って「住み続けたい」と思っている割合が高くなっており、70 代では９割もの人が「住み続けたい」と感じていた。

居住年数について 20 年未満と 20 年以上で比較すると、20 年未満は「住み続けたい」と感じる割合が７割前後なのに対し、20 年以上は８～９割と高い割合で「住み続けたい」と感じていた。

住居形態別では、一戸建て（持ち家）居住者の定住希望が 84.6%で高いのが目立つ。

性別については、とくに顕著な関連はみられなかった。

表７－３　定住希望

単位：％

		住み続けたい	住み続けたくない	計		χ^2値	p値
全体		81.6	18.4	100.0	380人		
性別	男	83.5	16.5	100.0	127人	0.371	0.5424
	女	80.9	19.1	100.0	246人		
年令	20代	55.6	44.4	100.0	18人	21.204	0.0007 ***
	30代	71.1	28.9	100.0	45人		
	40代	78.6	21.4	100.0	70人		
	50代	78.6	21.4	100.0	56人		
	60代	87.2	12.8	100.0	109人		
	70代	93.2	6.9	100.0	73人		
住居形態	一戸建て（持ち家）	84.6	15.4	100.0	247人	6.516	0.089
	一戸建て（賃貸）	75.0	25.0	100.0	8人		
	集合住宅（持ち家）	76.0	24.0	100.0	50人		
	集合住宅（賃貸）	71.7	28.3	100.0	60人		
居住年数	10年未満	77.9	22.1	100.0	136人	15.454	0.0038 **
	10-19年	69.4	30.7	100.0	62人		
	20-39年	84.3	15.7	100.0	89人		
	40-59年	93.5	6.5	100.0	77人		
	60年以上	87.5	12.5	100.0	16人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

（４）３つの肯定的居住意識の関係

ここでは評価的な意識である住みやすさが感情的な意識である愛着度や定住希望にどのような影響を与えているかみておこう。

表７－４は住みやすさを独立変数とし、愛着度、定住希望との関係をみたものである。これをχ^2検定したところ、愛着度、定住希望の両方に統計的な有意差があった。

表７－４　３つの居住意識の関係

単位：％

		愛着度						定住希望					
		愛着がある	愛着がない	計		χ^2値	p値	住み続けたい	住み続けたくない	計		χ^2値	p値
住みやすさ	住みやすい	83.9	16.1	100.0	329人	75.456	<.0001***	88.5	11.6	100.0	329人	79.293	<.0001***
	住みにくい	28.0	72.0	100.0	50人			36.0	64.0	100.0	50人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

住みやすいと答えた人で愛着があると感じている人は83.9%、住み続けたいと感じている人は88.5%とどちらも８割を超える高い割合であり、住みやすいと思っている人のほうが愛着があると感じており、また住み続けたいと感じていることがわかった。

この結果から、評価的な意識である住みやすさが感情的な意識である愛着度と定住希望に影響を与えていると考えられる。

７．４　利便性・居住環境の評価と居住意識：仮説Ｉの検証

ここでは、仮説Ｉ「利便性と居住環境に対する評価が高いと肯定的な居住意識を高める」を検証するために、利便性と居住環境に対する評価が居住意識とどう関係しているかみていこう。

（１）利便性と居住環境に対する評価（独立変数）

まず、仮説Ｉの独立変数にあたる利便性と居住環境に対する評価をみていく。表７－５のａ～ｉについて、「あなたは、あなたのお住まいの地域（歩いて15分くらいの距離）について、どのように感じていますか」という質問を用いて、交通の利便性（電車・バス）、買い物の利便性（食料品・日用品）、ならびに、道路環境の整備状況（街灯・歩道）、生活環境の整備状況（治安・医療機関・避難場所）についての評価をきいた。ａ～ｉの項目の評価については４件法で回答を得たが、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」をカテゴリー統合して“あてはまる”とし、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」を“あてはまらない”として、単純集計した結果が表７－５である。

表７－５　利便性と居住環境に対する評価

単位：％

	あてはまる	あてはまらない	計	
ａ 電車を利用するのに便利	72.4	27.6	100.0	366人
ｂ バスを利用するのに便利	82.5	17.5	100.0	366人
ｃ 食料品を買うのに便利	71.6	28.4	100.0	366人
ｄ 日用品を買うのに便利	67.9	32.1	100.0	364人
ｅ 普段使う道路は街灯が整備されている	79.2	20.8	100.0	365人
ｆ 普段使う歩道は車道と分かれている	46.0	54.0	100.0	363人
ｇ 治安がいい	66.8	33.2	100.0	364人
ｈ 近くにかかりつけの医療機関がある	69.5	30.5	100.0	364人
ｉ 災害が起きた時の避難場所が近くにある	83.1	16.9	100.0	367人

①交通機関の利便性

まず、交通の利便性（ａ,ｂ）についてみると、バス（82.5％）のほうが電車（72.4％）に比べて 10 ポイント近くも便利と評価する割合が高い。なぜこの地域では電車よりバスのほうが便利と評価する人が多いのか。交通の利便性と何がかかわっているのかを分析するために、電車とバスの利便性に対する評価と電車・バスの運行間隔や最寄りの駅までの時間、最終便の時間、代替路線の有無とをクロス集計し、χ^2 検定を行った。その結果、電車とバスの利便性と統計的有意差がみられたのは運行間隔であった（表７－６）。

表７－６　交通機関の運行間隔と利便性

単位：％

		便利	不便	計		χ^2値	p値
バス	1～10分	100.0	0.0	100.0	18人	13.174	0.0105 *
	11～15分	86.4	13.6	100.0	44人		
	16～30分	91.7	8.3	100.0	96人		
	30分以上	78.3	21.7	100.0	60人		
	ふだんバスは利用しない	77.6	22.4	100.0	134人		
電車	1～10分	85.7	14.3	100.0	98人	25.626	<.0001 ***
	11～15分	68.9	31.1	100.0	74人		
	16～30分	79.5	20.5	100.0	83人		
	30分以上	44.4	55.6	100.0	9人		
	ふだん電車は利用しない	57.3	42.7	100.0	96人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

交通機関の運行間隔については、「あなたがふだんよく利用しているバスや電車はどれくらいの間隔で運行していますか」という質問を用いた。

表７－６によると、バス・電車とも運行間隔が短いほど「便利」と感じる割合が高くなる傾向がみられるが、バスでは 30 分以上運行間隔が開いても 78.3%が「便利」と感じている。このことから、バスの利便性は、運行間隔によって評価されているとは考えられず、停留所と自宅の近さなど、それ以外の要因によって評価されているのではないかと推測される。

②買い物の利便性と居住環境の評価

買い物の利便性（ｃ,ｄ）については、日用品（67.9%）よりも食料品（71.6%）を買うほうが便利と感じる人がやや多かった。

道路の整備状況（ｅ,ｆ）については、街灯が整備されていると感じている人の割合は約８割(79.2%)であったが、歩道が整備されているについては５割を下回っていた(46.0%)。このことから、街灯の整備は高い割合で整備されていると評価されているが、歩道の整備については未整備だと感じられるところも多いようである。

生活環境の整備状況（ｇ,ｈ,ｉ）については、避難場所が近くにあると感じている人の割合が８割強(83.1%)と高い評価であり、医療機関が近くにあると感じている人は 69.5%と、避難場所や医療機関の整備状況を高く評価している。

治安は 66.8%がいいと評価していた。

（２）利便性・居住環境の評価と居住意識

①利便性・居住環境の評価と住みやすさ

ここでは、前項で分析した利便性・居住環境の評価が住みやすさとどうかかわっているか、みていこう。

表７－７は、利便性・居住環境の評価と住みやすさとをクロス集計し、χ^2検定を行った結果である。

表７－７　利便性・居住環境の評価と住みやすさ

単位：%

		住みやすい	住みにくい	計		χ^2値	p値	
a 電車	便利	92.4	7.6	100.0	263人	21.750	<.0001	***
	不便	74.3	25.7	100.0	101人			
b バス	便利	88.7	11.3	100.0	300人	3.782	0.0518	
	不便	79.7	20.3	100.0	64人			
c 食料品	便利	90.4	9.6	100.0	260人	10.139	0.0015	**
	不便	77.9	22.1	100.0	104人			
d 日用品	便利	90.2	9.8	100.0	245人	6.817	0.009	**
	不便	80.3	19.7	100.0	117人			
e 街灯	整備されている	90.6	9.4	100.0	288人	17.989	<.0001	***
	整備されていない	72.0	28.0	100.0	75人			
f 歩道	分かれている	91.5	8.5	100.0	165人	6.708	0.0096	**
	分かれていない	82.1	17.4	100.0	196人			
g 治安	良い	91.3	8.7	100.0	241人	12.955	0.0003	***
	悪い	77.7	22.3	100.0	121人			
h 医療機関	ある	90.1	9.9	100.0	252人	6.886	0.0087	**
	ない	80.0	20.0	100.0	110人			
i 避難場所	ある	86.8	13.2	100.0	303人	0.077	0.782	
	ない	85.5	14.5	100.0	62人			

*p<.05　**p<.01　***p<.001

「バスを利用するのに便利」「災害が起きた時の避難場所が近くにある」以外の項目で、住みやすさとの間に 0.1%水準もしくは１%水準で統計的有意差があり、いずれの項目においても利便性や居住環境に対する評価が高いと、住みやすさも高まっている。

「バスを利用するのに便利」においても有意傾向ではあるものの、バスの利便性が高い人のほうが住みやすいと感じているようだ。

統計的な有意差がなかったもう一方の「避難場所が近くにある」は、割合だけを見ても、住みやすさとの間に大きな差は見られなかった。

よって、「災害が起きた時の避難場所が近くにある」を除いたａ～ｈでは、利便性や居住環境の評価が高いと、肯定的な居住意識の一つである住みやすさも高くなっており、仮説Ｉが検証された。

②利便性・居住環境の評価と愛着度

次に、利便性・居住環境の評価が愛着度とどうかかわっているのかみていこう。

表７－８　利便性・居住環境の評価と愛着度　　単位：%

		愛着がある	愛着がない	計		χ^2値	p値
a 電車	便利	78.8	21.2	100.0	264人	2.301	0.1293
	不便	71.3	28.7	100.0	101人		
b バス	便利	78.4	21.6	100.0	301人	2.754	0.097
	不便	68.8	31.3	100.0	64人		
c 食料品	便利	78.5	21.5	100.0	261人	2.857	0.091
	不便	70.2	29.8	100.0	104人		
d 日用品	便利	78.9	21.1	100.0	246人	2.752	0.0971
	不便	70.9	29.1	100.0	117人		
e 街灯	整備されている	80.6	19.4	100.0	288人	13.369	0.0003 ***
	整備されていない	60.5	39.5	100.0	76人		
f 歩道	分かれている	77.7	22.3	100.0	166人	0.680	0.4096
	分かれていない	74.0	26.0	100.0	196人		
g 治安	良い	78.1	21.9	100.0	242人	1.701	0.1922
	悪い	71.9	28.1	100.0	121人		
h 医療機関	ある	80.6	19.4	100.0	252人	7.249	0.0071 **
	ない	67.6	32.4	100.0	111人		
i 避難場所	ある	77.3	22.7	100.0	304人	1.781	0.182
	ない	69.4	30.7	100.0	62人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

表７－８は、利便性・居住環境の評価と愛着度とをクロス集計し、χ^2検定を行った結果である。「普段使う道路は街灯が整備されている」という道路の整備状況の評価では0.1%水準で、また「近くにかかりつけの医療機関がある」という生活環境の評価では１%水準で愛着度との間に統計的有意差があり、どちらも居住環境への評価が高いと愛着度もまた高かった。

そのほかの項目では統計的有意差がみられなかったものの、利便性や居住環境の評価が高いと、地域への好感度であるとともに肯定的居住意識でもある愛着度もまた高まる傾向にあった。よって、愛着度についても仮説Ｉが検証された。

③利便性・居住環境の評価と定住希望

さらに、利便性・居住環境の評価が定住希望とどうかかわっているのかみていこう。

表７－９は、利便性・居住環境の評価と定住希望とをクロス集計しχ^2検定を行った結果である。

表７－９　利便性・居住環境の評価と定住希望

単位：％

		住み続けたい	住み続けたくない	計		χ^2値	p値
a 電車	便利	86.0	14.0	100.0	264人	13.404	0.0003 ***
	不便	69.3	30.7	100.0	101人		
b バス	便利	81.7	18.3	100.0	301人	0.447	0.5039
	不便	78.1	21.9	100.0	64人		
c 食料品	便利	84.3	15.7	100.0	261人	5.157	0.0232 *
	不便	74.0	26.0	100.0	104人		
d 日用品	便利	85.4	14.6	100.0	246人	8.422	0.0037 **
	不便	72.7	27.4	100.0	117人		
e 街灯	整備されている	86.5	13.5	100.0	288人	23.986	<.0001 ***
	整備されていない	61.8	38.2	100.0	76人		
f 歩道	分かれている	84.3	15.7	100.0	166人	2.295	0.1298
	分かれていない	78.1	21.9	100.0	196人		
g 治安	良い	84.3	15.7	100.0	242人	4.379	0.0364 *
	悪い	75.2	24.8	100.0	121人		
h 医療機関	ある	85.7	14.3	100.0	252人	10.706	0.0011 **
	ない	71.2	28.8	100.0	111人		
i 避難場所	ある	81.9	18.1	100.0	304人	0.678	0.4102
	ない	77.4	22.6	100.0	62人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

「電車を利用するのに便利」と「普段使う道路は街灯が整備されている」は 0.1％水準で、「日用品を買うのに便利」と「近くにかかりつけの医療機関がある」は１％水準で、「食料品を買うのに便利」と「治安がいい」は５％水準で、それぞれ定住希望との間に統計的有意差があり、利便性や居住環境への評価が高いと定住希望もまた高かった。

そのほかの「バスを利用するのに便利」と「歩道と車道とに分かれている」、「避難場所が近くにある」は、統計的有意差がみられなかったものの、利便性や居住環境の評価が高いと、肯定的居住意識である定住希望もまた高まる傾向にあった。よって、愛着度についても仮説Ｉが検証された。

以上のことから、「避難場所が近い」は、いずれの居住意識との間にも統計的に有意な結果は見られなかったが、それ以外の項目では総じて、利便性や居住環境の評価が高いほど、住みやすさ、地域への愛着度、定住希望もまた高まる傾向にあるといえる。したがって、仮説Ｉの「利便性と居住環境に対する評価が高いと肯定的な居住意識を高める」は検証された。

７．５　地域サービスの評価と居住意識：仮説Ⅱの検証

本節では、仮説Ⅱ「地域サービスの評価は肯定的な居住意識と関連がある」を検証するために、地域サービスの評価が居住意識とどう関係しているのかみていこう。

（１）地域サービスの評価（独立変数）

まず、仮説Ⅱの独立変数にあたる地域サービスの評価をみていく。白旗台地区の人々の地域サービスに対する評価を知るために、「あなたがお住まいの地域では、以下のようなサービスがどの程度充実していると思いますか」という質問を用いて、地域住民への福祉サービス、子育てサービス、ボランティア、イベント情報、相談、地域見守りに対する評価を調べた。

表７－10のａ～ｉの項目の評価については４件法で回答を得た。「充実している」「まあ充実している」を“充実している”、「あまり充実していない」「充実していない」を“充実していない”にカテゴリー統合し、単純集計した。

表７－10　地域サービスの評価　　単位：％

	充実している	充実していない	計		わからない	
a 高齢者サポート	44.4	55.6	100.0	144人	59.3	226人
b 高齢者相談	30.2	69.8	100.0	139人	60.4	230人
c 高齢者交流	34.7	65.3	100.0	144人	59.1	225人
d 子育て相談	23.3	76.7	100.0	116人	63.5	242人
e ボランティア利用	20.5	79.5	100.0	117人	64.6	246人
f ボランティア活動	25.5	74.6	100.0	110人	64.6	246人
g イベント情報	40.1	59.9	100.0	182人	46.5	177人
h 相談	16.0	84.0	100.0	131人	61.7	235人
i 地域見守り	38.4	61.6	100.0	164人	50.7	193人

（注）「充実している」「充実していない」の比率は、「わからない」を欠損値として処理して単純集計を行ったもの。なお、表の右側の「わからない」は、「充実している」「充実していない」「わからない」を足した全体で「わからない」が占める比率と人数を示した。

表７－10によると、もっとも充実度が高いと評価されているのは、「高齢者サポート（＝高齢者の日常をサポートするサービス）」（44.4％）であった。しかし、ａ～ｉのすべての項目において「充実している」という評価よりも「充実していない」という評価のほうが多く、また「わからない」と答える割合も高いことから、地域サービスに対する地区住民の認知度は低いことがうかがえる。

（２）地域サービスの評価と居住意識

①地域サービスの評価と住みやすさ

ここでは、前項でみた地域サービスの評価と住みやすさがどのように関わっているのか、みていこう。

表７－11は、地域サービスの評価と住みやすさをクロス集計し、フィッシャーの正確検定を行った結果である。

表７－11　地域サービスの評価と住みやすさ　　単位：％

		住みやすい	住みにくい	計		χ^2値	p値
a 高齢者サポート	充実している	96.9	3.1	100.0	64人	4.180	0.0657
	充実していない	87.3	12.7	100.0	79人		
b 高齢者相談	充実している	97.6	2.4	100.0	42人	3.992	0.0637
	充実していない	86.5	13.5	100.0	96人		
c 高齢者交流	充実している	92.0	8.0	100.0	50人	0.508	0.5761
	充実していない	88.2	11.8	100.0	93人		
d 子育て相談	充実している	92.6	7.4	100.0	27人	0.511	0.7297
	充実していない	87.6	12.4	100.0	89人		
e ボランティア利用	充実している	95.8	4.2	100.0	24人	1.507	0.2974
	充実していない	87.0	13.0	100.0	92人		
f ボランティア活動	充実している	96.4	3.6	100.0	28人	2.128	0.1815
	充実していない	86.4	13.6	100.0	81人		
g イベント情報	充実している	97.3	2.7	100.0	73人	8.596	0.0031 **
	充実していない	83.3	16.7	100.0	108人		
h 相談	充実している	100.0	0.0	100.0	21人	3.515	0.073
	充実していない	85.3	14.7	100.0	109人		
i 地域見守り	充実している	96.8	3.2	100.0	63人	8.624	0.0032 **
	充実していない	81.0	19.0	100.0	100人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

（注）「わからない」は、欠損値として処理をした。

p値は正確検定の結果。

「イベント情報（＝住んでいる地域のイベントや活動の情報提供)」「地域見守り（＝地域での見守り活動)」は、住みやすさと１％水準で統計的な有意差がみられ、いずれの地域サービスについても充実していると評価している人ほど、住みやすいと感じている。「イベント情報」については、充実していると評価した人で住みやすいと感じている人は97.3%、「地域見守り」については96.8%と、10割近くの人が住みやすさを感じている。

そのほかの項目については統計的な有意差はなかったものの、「充実している」と評価している人のほうが住みやすさを感じる傾向にあり、地域サービスの充実度の評価は肯定的な居住意識の一つである住みやすさを高める方向に作用している。よって、仮説Ⅱは検証された。

②地域サービスの評価と愛着度

次に、地域サービスの評価と愛着度の関連についてみていこう。

表７－12は、地域サービスの充実度の評価と愛着度とをクロス集計しフィッシャーの正確検定を行った結果である。

表７－12　地域サービスの評価と愛着度

単位：%

		愛着がある	愛着がない	計		χ^2値	p値
a 高齢者サポート	充実している	85.9	14.1	100.0	64人	0.563	0.506
	充実していない	81.3	18.8	100.0	80人		
b 高齢者相談	充実している	95.2	95.2	100.0	42人	6.588	0.0129 *
	充実していない	77.3	22.7	100.0	97人		
c 高齢者交流	充実している	88.0	12.0	100.0	50人	1.534	0.2544
	充実していない	79.8	20.2	100.0	94人		
d 子育て相談	充実している	74.1	25.9	100.0	27人	0.016	1.000
	充実していない	75.3	24.7	100.0	89人		
e ボランティア利用	充実している	95.8	4.2	100.0	24人	5.317	0.0238 *
	充実していない	74.2	25.8	100.0	93人		
f ボランティア活動	充実している	96.4	3.6	100.0	28人	6.336	0.0124 *
	充実していない	74.4	25.6	100.0	82人		
g イベント情報	充実している	97.3	2.7	100.0	73人	21.341	<.0001 ***
	充実していない	69.7	30.3	100.0	109人		
h 相談	充実している	100.0	0.0	100.0	21人	6.493	0.007 **
	充実していない	75.5	24.6	100.0	110人		
i 地域見守り	充実している	90.5	9.5	100.0	63人	9.222	0.0032 **
	充実していない	70.3	29.7	100.0	101人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

（注）「わからない」は、欠損値として処理をした。

p値は正確検定の結果。

「高齢者相談（＝高齢者やその家族が気軽に相談できる場の提供)」「ボランティア利用（＝ボランティアを利用するための情報提供)」「ボランティア活動（＝ボランティア活動を行うための場や情報の提供)」「イベント情報（＝住んでいる地域のイベントや活動の情報提供)」「相談（＝生活で困ったことを気軽に相談できる場の提供)」「地域見守り（＝地域での見守り活動)」については、愛着度との間に統計的な有意差がみられた。なかでも、「イベント情報」は0.1%水準で統計的有意差があり、「イベント情報」への評価が高いほど地域への好感度である愛着度を高めている。

そのほか、統計的有意差はなかったものの、「子育て相談（＝気軽に子育ての相談がで

きる場の提供)」以外の項目については、地域サービスの評価が高い人ほど地域への愛着度が高い傾向がみられた。

よって、「子育て相談」を除いて、地域サービスの評価は愛着度を高める傾向があり、愛着度についても仮説Ⅱが検証された。

③地域サービスの評価と定住希望

さらに、地域サービスの評価と定住希望についてみていこう。

表７－13　地域サービスの評価と定住希望

単位：%

		住み続けたい	住み続けたくない	計		χ^2値	p値
a 高齢者サポート	充実している	92.2	7.8	100.0	64人	1.269	0.2974
	充実していない	86.3	13.8	100.0	80人		
b 高齢者相談	充実している	95.2	4.8	100.0	42人	3.579	0.0957
	充実していない	83.5	16.5	100.0	97人		
c 高齢者交流	充実している	90.0	10.0	100.0	50人	0.438	0.6036
	充実していない	86.2	13.8	100.0	94人		
d 子育て相談	充実している	88.9	11.1	100.0	27人	0.213	0.760
	充実していない	85.4	14.6	100.0	89人		
e ボランティア利用	充実している	95.8	4.2	100.0	24人	2.023	0.301
	充実していない	85.0	15.1	100.0	93人		
f ボランティア活動	充実している	96.4	3.6	100.0	28人	2.451	0.178
	充実していない	85.4	14.6	100.0	82人		
g イベント情報	充実している	94.5	5.5	100.0	73人	8.444	0.0049 **
	充実していない	78.9	21.1	100.0	109人		
h 相談	充実している	100.0	0.0	100.0	21人	3.729	0.073
	充実していない	84.6	15.5	100.0	110人		
i 地域見守り	充実している	90.5	9.5	100.0	63人	2.139	0.1762
	充実していない	82.2	17.8	100.0	101人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

（注）「わからない」は、欠損値として処理をした。

p 値は正確検定の結果。

地域サービスの評価と定住希望との関連をみるために、クロス集計しフィッシャーの正確検定を行ったところ（表７－13)、「イベント情報（＝住んでいる地域のイベントや活動の情報提供)」において 0.1%水準で統計的な有意差があった。この「イベント情報」についてみると、充実していると評価していて「住み続けたい」と感じている割合は 94.5%にのぼっており、「イベント情報」の提供に対する評価の高さは、定住希望の高さにつながっていた。

統計的有意差がみられなかったものの、定住希望についても、「子育て相談（＝気軽に子育ての相談ができる場の提供)」を除いたそのほかの地域サービスでは、地域サービスに対する評価が高い人ほど、定住希望を高める傾向にある。よって、「子育て相談」を除いたそのほかの地域サービスの評価は定住希望を高めており、仮説Ⅱは検証された。

７．６　仮説Ⅲの検証

本節では、仮説Ⅲ「近隣づきあいの緊密度が高いと居住意識を高める」を検証する。

なお、ここで用いた変数「近隣付き合いの緊密度」については第５章を参照されたい。

表７－14 は、近隣づきあいの緊密度と居住意識とをクロス集計しχ^2検定した結果である。近隣付き合いの緊密度と居住意識はいずれも 0.1%水準で統計的有意差がみられ、近

所付き合いの緊密度が高い人のほうが、住みやすさ、愛着度、定住希望、いずれの肯定的居住意識も高くなっている。近隣付き合いの緊密度は、住みやすさ、愛着度、定住希望と強い関連性があり、近隣付き合いの緊密度が高い人のほうが「住みやすい」「愛着がある」「住み続けたい」と感じる人が多い傾向があった。

表７－14　近隣付き合いの緊密度と居住意識

単位：％

		住みやすい	住みにくい	計		χ^2値	p値
近隣付き合いの緊密度	高い	94.6	5.4	100.0	168人	16.554	<.0001 ***
	低い	80.2	19.8	100.0	197人		
		愛着がある	愛着がない	計		χ^2値	p値
近隣付き合いの緊密度	高い	88.7	11.3	100.0	168人	26.611	<.0001 ***
	低い	65.7	34.3	100.0	198人		
		住み続けたい	住み続けたくない	計		χ^2値	p値
近隣付き合いの緊密度	高い	88.7	11.3	100.0	168人	11.550	0.0007 ***
	低い	74.8	25.3	100.0	198人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

以上のことから、仮説Ⅲ「近隣づきあいの緊密度が高いと居住意識を高める」は検証された。

７．７　まとめ

これまでの分析を通して、白旗台地区に住んでいる人々は86.8%と高い割合で住みやすいと感じており、愛着度に関しても76.6%の人々が愛着を感じ、81.6%の人々が定住希望をもっている。このことから白旗台地区は多くの人々が肯定的な居住意識を持っていることがわかった。

本章では、これら３つの肯定的な居住意識を規定している要因として、利便性・居住環境の評価、地域サービスの評価、および近隣付き合いの緊密度を仮定し、仮説Ⅰ～Ⅲの検証を試みた。

利便性・居住環境の評価と居住意識との関係については、住みやすさでは、「避難場所に近い」を除いた８つの利便性・居住環境の評価項目（「電車を利用するのに便利」「バスを利用するのに便利」「食料品を買うのに便利」「日用品を買うのに便利」「普段使う道路は街灯が整備されている」「普段使う歩道は車道と分かれている」「治安がいい」「近くにかかりつけの医療機関がある」）において、利便性と居住環境に対する評価が高いと、住みやすさも高くなる傾向にあった。愛着度と定住希望では、９つすべての利便性・居住環境の評価項目において、それらの評価が高いと愛着度、居住意識とも高まる傾向がみられた。

地域サービスの評価と居住意識の関係については、愛着度と定住希望において、「気軽に子育ての相談ができる場の提供」の評価との関連がみられなかったものの、その他の項目である「高齢者の日常生活をサポートするサービス」「高齢者やその家族が気軽に相談できる場の提供」「高齢者が誰でも気軽に参加できる場、交流できる場」「ボランティアを利用するための情報提供」「ボランティア活動を行うための場や情報の提供」「住んでいる地域のイベントや活動の情報提供」「生活で困ったことを気軽に相談できる場の提供」「地域での見守り活動」の８つの項目では、評価が高いと、３つの居住意識もまた高まる傾向にあった。

近隣付き合いの緊密度と居住意識との関係については、近隣付き合いの緊密度が強い人のうち、住みやすさでは 94.6%が「住みやすい」、愛着度では 88.7%が「愛着がある」、定住希望では 88.7%が「住み続けたい」と感じており、近隣付き合いの緊密度が強いと居住意識はかなり高いことがわかった。

【参考文献】

渡邉勉，2006,「地域に対する肯定観の規定因―愛着度、住みやすさ、地域イメージに関する分析―」，信州大学『地域ブランド研究』２：99-130.

国土交通省，1995,「２－１－２　豊かさ・住みやすさの要因」、『全国の市町村長及び特別区長における地域づくりに関するアンケート調査（概要)』: 15-30.
（http://www.mlit.go.jp/pri/houkoku/gaiyou/pdf/H07.03.4.pdf）

第８章　幸福感の構造分析

BOC097　宮本むつみ

８．１　問題意識

日本は、先進国の中でも幸福度の平均値が低いとされている。ここ数年、様々な研究機関から「世界幸福度ランキング」が発表されているが、アメリカの雑誌『フォーブス』によると、世論調査会社ギャラップが 2010 年に発表した調査では日本の幸福度が 81 位であった。この調査は、同社が 05～09 年にかけて世界 155 の国・地域で数千人を対象に行い、各地域住民の生活に対する満足度（1～10 点で評価）を分析し、ランキング化したものである。そのランキングで上位を独占しているのは、１位デンマーク、２位フィンランド、３位ノルウェー、４位スウェーデンといった北欧の国々である。北欧の国々は税金と社会保障を合わせた負担が大きいことで知られているが、社会福祉が充実していると、少々の税金の高さを考慮しても幸せと感じるのか、ランキングの上位を占めている。

幸福度に関する研究会『幸福度に関する研究会報告 - 幸福度指標試案 - 』によると、人々の幸福感には様々な要因が影響している（幸福度に関する研究会 2011）。特に、幸福感を判断した際に重視した項目は年齢層による差異が多くみられる。例えば、20 代後半から 50 代前半の男性では「家計」または「家族」の重要度が高いという結果が出ているが、50 代後半以降では「健康」の重要度が最も高くなっている。女性も、20 代前半から 30 代後半までは「家族」の重要度が高いが、40 代前半以降は「健康」の重要度が高くなっている（図８－１）。

性別	順位	15-19歳	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79
男性	1位	友人	友人	家計	家族	家計	家計	家計	家計	健康	健康	健康	健康	健康
	2位	自由時間	家族	家族	家計	家族	健康	健康	健康	家計	家族	家計	家族	家族
	3位	精神的ゆとり	生きがい	就業	健康	精神的ゆとり	家族	家族	家族	家族	家計	家族	家計	家計
	4位	家族	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	健康	精神的ゆとり	就業	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり
	5位	生きがい	家計	健康	就業	就業	就業	精神的ゆとり	就業	就業	就業	自由時間	自由時間	自由時間
女性	1位	友人	家族	家族	家族	家族	健康	健康	健康	健康	健康	健康	健康	健康
	2位	家族	精神的ゆとり	家計	家計	家計	家族	家族	家族	家計	家族	家族	家族	家族
	3位	精神的ゆとり	友人	友人	健康	健康	家計	家計	家計	家族	家計	家計	家計	自由時間
	4位	自由時間	健康	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	自由時間	自由時間	友人
	5位	健康	家計	健康	友人	就業	就業	就業	就業	就業	自由時間	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり

図８－１　幸福度を判断するさいに重視する項目

出典：幸福度に関する研究会 2011:8

本章では、白旗台地区に住む人々の幸福感の構造について分析する。そこで、幸福感の判断基準と考えられる 12 項目について、幸福感を判断する基準としてどのくらい重視しているのかを調べた。そして、それぞれの判断基準の重要度と幸福感との関連をみた。さ

らに、健康、経済状況などの生活の実態と幸福感の判断基準の重要度はどのように関連しているのかをみることによって、白旗台地区に住む人々の幸福感はどのような構造をもった意識なのかを分析していく。

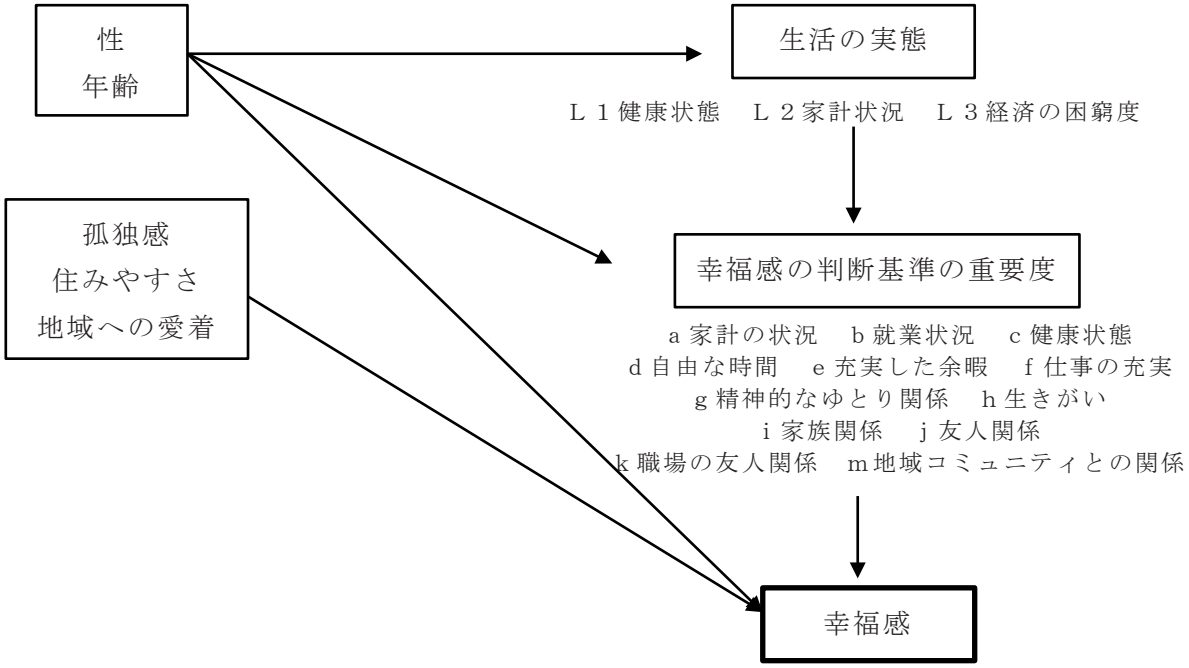

図８－２　本章の構成

８．２　仮説

Ⅰ　幸福感の判断基準の重要度は幸福感を規定する。

Ⅱ　生活の実態は幸福感の判断基準の重要度を規定する。

８．３　幸福感について

まず、幸福感を調べるために「あなたは幸せですか」という質問をし、「とても幸せ」「まあまあ幸せ」「あまり幸せでない」「まったく幸せでない」の４件法で回答を求めた。「とても幸せ」（19.7%）、「まあまあ幸せ」（73.1%）、「あまり幸せでない」（6.7%）、「まったく幸せでない」（0.5%）という結果になったため、「あまり幸せでない」と「まったく幸せでない」をカテゴリー統合し、“幸せでない”というカテゴリーをつくった。

表８－１によると、「とても幸せ」（19.7%）や「まあまあ幸せ」（73.1%）と回答した人が圧倒的に多く、９割を超える人が幸福感を感じており、白旗台地区の人々は幸福感が高いということがわかった。

性と幸福感との間に統計的に有意な関連はみられなかったが、性別でみると、男性のほうが幸せでない人がやや多く、女性のほうが幸福感を感じている人がやや多い傾向にある。

次に年代別にみると、１%水準で統計的な有意差がみられた。20 代と 30 代の対象者が少なかったため、20 代と 30 代を統合して、“20-39 歳”というカテゴリーをつくった。「20-39 歳」では「とても幸せ」という人が 38.7%もおり、どの年代よりも多い。しかし、「幸せ

でない」という人も 8.1%で、一番多い。60 代では約２割、70 代では１割５分の人が「とても幸せ」なのに対し、40 代と 50 代で「とても幸せ」という人は１割強で、40 代・50 代よりも 60 代・70 代のほうが「とても幸せ」という人がやや多い。したがって、幸福感は、中年層、高齢層、若年層の順に高い傾向があるとみることができる。

表８－１　性・年代別にみた幸福感　　単位：%

		とても幸せ	まあまあ幸せ	幸せでない	計		χ^2値	p 値
全体		19.7	73.1	6.7	100.0	371人		
性別	男	15.2	75.2	9.6	100.0	125人	3.4368	0.179
	女	22.0	72.0	6.1	100.0	246人		
年齢	20－39歳	38.7	53.2	8.1	100.0	62人	20.9726	0.007 **
	40－49歳	11.6	82.6	5.8	100.0	69人		
	50－59歳	14.3	75.0	7.1	100.0	56人		
	60－69歳	19.3	74.3	6.4	100.0	109人		
	70－79歳	16.4	78.1	5.5	100.0	73人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

表８－２は、孤独感、住みやすさ、地域への愛着度を独立変数とし、幸福感を従属変数としてクロス集計を行ったものである。χ^2検定を行ったところ、孤独感は 0.1%水準で有意差がみられ、住みやすさと地域への愛着度は有意差がみられなかった。

表８－２　孤独感・住みやすさ・地域への愛着と幸福感　　合計：%

		とても幸せ	まあまあ幸せ	幸せでない	計		χ^2値	p 値
全体		19.7	73.1	6.7	100.0	371人		
孤独感	感じる	8.2	78.1	13.7	100.0	146人	56.318	<.001 ***
	あまり感じない	18.1	78.1	3.9	100.0	155人		
	まったく感じない	47.8	50.8	1.5	100.0	67人		
住みやすさ	とても住みやすい	34.5	62.1	3.5	100.0	58人	not valid	
	まあまあ住みやすい	18.6	75.7	5.7	100.0	263人		
	あまり住みやすくない	9.8	70.7	19.5	100.0	41人		
	住みにくい	-	71.4	28.6	100.0	7人		
地域への愛着	とても愛着がある	30.8	63.5	5.8	100.0	52人	not valid	
	まあまあ愛着がある	20.4	75.7	3.9	100.0	230人		
	あまり愛着がない	10.8	74.3	14.9	100.0	74人		
	愛着がない	14.3	57.1	28.6	100.0	14人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

孤独感を感じていない人の幸福感が高いことがわかるが、孤独感を感じている人でも「とても幸せ」な人は 8.2%、「まあまあ幸せ」な人は 78.1%であった。つまり、孤独感を感じている人でも８割以上の人が幸福感を感じていた。このことから、孤独感を感じていない人のほうが幸福感は高いが、孤独感を感じている人にも幸福感はあることがわかった。

次に、住みやすさと幸福感の関連をみると、「とても住みやすい」人で「幸せでない」

人は 3.5%、「とても幸せ」な人は 34.5%であった。逆に「住みにくい」人では「幸せでない」人が 28.6%で、「とても幸せ」な人はいなかった。統計的な有意差はなかったが、住みやすさを感じている人のほうが幸福感が高い傾向にある。

地域への愛着度と幸福感の関係をみても、「とても愛着がある」人は愛着度が低い人と比べて幸福感がある傾向にある。地域への愛着度が低いほど、「幸せでない」人の割合が高くなっている（地域への愛着度が「とてもある」: 5.8%→「まあまあある」: 3.9%→「あまりない」: 14.9%→「ない」: 28.6%）。統計的有意差はなかったが、愛着のある人のほうが幸福感が高い傾向にあるといえよう。

８．４　幸福感の判断基準の重要度と幸福感

幸福感を判断するときの基準として何をどの程度重視しているのかを調べるために、表８－３にあるａ～ｍのそれぞれの項目についてその重要度を尋ねた。なお、ａ～ｍは、内閣府の「国民生活選好度調査」を参考にして 12 項目用意した。

表８－３　幸福感の判断基準の重要度の単純集計

単位：%

幸福感の判断基準の重視度	とても重視した	まあまあ重視した	あまり重視しなかった	まったく重視しなかった	重視した	重視しなかった	計	
ａ家計の状況	25.6	52.8	18.4	3.3	78.4	21.7	100.0	364人
ｂ就業状況	21.5	48.0	19.3	11.2	69.5	30.5	100.0	331人
ｃ健康状態	51.2	40.1	6.3	2.5	91.3	8.8	100.0	367人
ｄ自由な時間	24.3	49.7	22.1	3.8	74.0	25.9	100.0	366人
ｅ充実した余暇	20.7	45.7	28.9	4.8	66.4	33.7	100.0	357人
ｆ仕事の充実	13.2	44.3	24.8	17.6	57.5	42.4	100.0	318人
ｇ精神的なゆとり	30.0	51.7	14.7	3.6	81.7	18.3	100.0	360人
ｈ生きがい	12.8	45.8	29.2	12.2	58.6	41.4	100.0	360人
ｉ家族関係	52.3	38.9	5.5	3.3	91.2	8.8	100.0	365人
ｊ友人関係	24.1	49.9	18.0	8.0	74.0	26.0	100.0	361人
ｋ職場の友人関係	13.3	39.2	24.1	23.4	52.5	47.5	100.0	286人
ｍ地域コミュニティとの関係	4.2	28.3	38.5	29.1	32.5	67.6	100.0	361人

表８－３は、幸福感の判断基準と考えた 12 項目の重要度を単純集計したものである。「とても重視した」と「まあまあ重視した」を合わせてみると、重要度が最も高かったのが「健康状態」（91.3%）、その次に「家族関係」（91.2%）、さらに「精神的なゆとり」（81.7%）と続いている。一方、「地域コミュニティとの関係」は重視している人が最も少なく、32.5%だった。また、「まったく重視しなかった」人が 29.1%おり、重要度が最も低いことがわかった。

重要度の高い順に列挙すると、「健康状態」（91.3%）、「家族関係」（91.2%）、「精神的なゆとり」（81.7%）、「家計の状況」（78.4%）、「自由な時間」・「友人関係」（74.0%）、「就業状況」（69.5%）、「充実した余暇」（66.4%）、「生きがい」（58.6%）、「仕事の充実」（57.5%）、「職場の友人関係」（52.5%）で、一番重要度が低かったのは唯一過半数に達しなかった「地域コミュニティとの関係」（32.5%）であった。

表８－４～６は、本章 第１節（８．１）で述べた先行の研究では、「家計」、「健康」、「家族」の重要度が高かったので、それらの項目を性別と年齢別にクロス集計し、χ^2検定を行ったものである。幸福感の判断基準の重要度については、「とても重視した」と「まあまあ重視した」をカテゴリー統合して“重視した”とし、「あまり重視しなかった」と「まったく重視しなかった」を“重視しなかった”とした。

まず、家計の重要度についてみると（表８－４）、性別・年代ともに統計的に有意な関連はみられなかったが、女性よりも男性のほうが「家計の状況」をやや重視する傾向がある。

表８－４　性・年代別にみた家計の重要度　　単位：％

		重視した	重視しなかった	計		χ^2値	p値
性別	男性	81.3	18.7	100.0	123人	0.9866	0.3206
	女性	76.8	23.2	100.0	241人		
年齢	20-39歳	73.0	27.0	100.0	63人	5.4674	0.2426
	40-49歳	80.0	20.0	100.0	70人		
	50-59歳	69.1	30.9	100.0	55人		
	60-69歳	81.7	18.4	100.0	109人		
	70-79歳	83.1	16.9	100.0	65人		

*p<.05　**<.01　***<.001

次に、健康状態の重要度についてみると（表８－５）、年代別では５％水準で、統計的な有意差がみられた。20代・30代では健康状態を重視している人が約８割だったが、40代以上では9割を超える人が重視している。

表８－５　性・年代別にみた健康状態の重要度　　単位：％

		重視した	重視しなかった	計		χ^2値	p値
性別	男性	89.5	10.5	100.0	124人	0.72326	0.3920
	女性	92.2	7.8	100.0	243人		
年齢	20-39歳	81.0	19.1	100.0	63人	11.3109	0.0233 *
	40-49歳	94.3	5.7	100.0	70人		
	50-59歳	96.4	3.6	100.0	56人		
	60-69歳	92.7	7.3	100.0	109人		
	70-79歳	91.0	9.0	100.0	67人		

*p<.05　**<.01　***<.001

最後に家族関係の重要度では（表８－６）、性別との間に１％水準で有意な差がみられ、女性のほうが男性よりも家族関係の重要度が高い傾向にあることがわかった。

また、統計的な有意差はみられなかったが、年代別で見てみると、20代・30代と40代の比較的若い年代、および70代の高齢層において95％程の人が家族関係を重視していた。

表８－６　性・年代別にみた家族関係の重要度　　単位：%

		重視した	重視しなかった	計		χ^2値	p値	
性別	男性	84.6	15.5	100.0	123人	10.3498	0.0013	**
	女性	94.6	5.4	100.0	242人			
年齢	20-39歳	93.7	6.4	100.0	63人	3.7554	0.4401	
	40-49歳	94.3	5.7	100.0	70人			
	50-59歳	89.1	10.9	100.0	55人			
	60-69歳	88.0	12.0	100.0	108人			
	70-79歳	94.0	6.0	100.0	67人			

*p<.05　**<.01　***<.001

８．５　幸福感の判断基準の重要度と幸福感：仮説Ｉの検証

この節では、仮説Ｉの「幸福感の判断基準の重要度は幸福感を規定する」を検証するために、重要度と幸福感との関連をみていこう。

表８－７は、12 項目の判断基準の重要度の違い別に幸福感との関連をみるために、幸福感とａ～ｍの 12 項目について重視した事柄のクロス集計し、χ^2検定を行った結果である。

表８－７　幸福感の判断基準の重要度別にみた幸福感　　単位：%

		とても幸せ	まあまあ幸せ	幸せでない	計		χ^2値	p値	
a 家計の状況	重視した	18.7	73.1	8.1	100.0	283人	1.7004	0.4273	
	重視しなかった	24.1	70.9	5.1	100.0	79人			
b 就業状況	重視した	18.3	74.4	7.4	100.0	230人	1.1029	0.5761	
	重視しなかった	23.0	69.0	8.0	100.0	100人			
c 健康状態	重視した	19.8	73.9	6.3	100.0	333人	6.6469	0.036	*
	重視しなかった	15.6	65.6	18.8	100.0	32人			
d 自由な時間	重視した	19.3	74.7	6.0	100.0	269人	3.3986	0.1828	
	重視しなかった	20.0	68.4	11.6	100.0	95人			
e 充実した余暇	重視した	19.9	74.2	5.9	100.0	236人	2.0756	0.3542	
	重視しなかった	20.2	69.8	10.1	100.0	119人			
f 仕事の充実	重視した	18.6	74.9	6.6	100.0	183人	1.0528	0.5907	
	重視しなかった	17.9	72.4	9.7	100.0	134人			
g 精神的なゆとり	重視した	21.8	70.7	7.5	100.0	293人	5.4573	0.0653	
	重視しなかった	9.2	83.1	7.7	100.0	65人			
h 生きがい	重視した	19.1	74.6	6.2	100.0	209人	0.8509	0.6535	
	重視しなかった	19.5	71.8	8.7	100.0	149人			
i 家族関係	重視した	20.9	74.0	5.1	100.0	331人	30.4609	<.0001	***
	重視しなかった	6.3	62.5	31.3	100.0	32人			
j 友人関係	重視した	20.8	75.1	4.2	100.0	265人	16.5681	0.0003	***
	重視しなかった	17.0	66.0	17.0	100.0	94人			
k 職場の友人関係	重視した	17.3	76.7	6.0	100.0	150人	1.4898	0.4748	
	重視しなかった	18.5	71.9	9.6	100.0	135人			
m 地域コミュニティとの関係	重視した	19.7	74.4	6.0	100.0	117人	0.4266	0.8079	
	重視しなかった	19.8	72.3	7.9	100.0	242人			

*p<.05　**p<.01　***p<.001

クロス集計にあたって、前述のように、重視度については、「とても重視した」と「まあまあ重視した」を“重視した”に、「あまり重視しなかった」と「まったく重視しなかった」を“重視しなかった”にカテゴリー統合した。また、幸福感においても「あまり幸せでない」と「まったく幸せでない」を統合し、“幸せでない”というカテゴリーを作った。χ^2検定の結果「家族関係」と「友人関係」では0.1%水準、「健康状態」では５%水準で有意な差がみられた。

0.1%水準で有意な差がみられた「家族関係」と「友人関係」については、重視している人のほうが幸福感が高い傾向がみられた。「健康状態」についても、同様に重視している人のほうが幸福感を感じている人が多い傾向がみられた。

統計的な有意な差はみられなかったが、「家計の状況」に関しては、12 項目のなかで唯一、重視しなかった人よりも重視した人のほうが「幸せでない」という割合がやや高かった。「家計の状況」の重要度は幸福感を高める方向に作用するとは限らないのかもしれない。

よって、仮説Ｉの「幸福感の判断基準の重視度は幸福感を規定する」については、統計的に有意な差がみられた「健康状態」、「家族関係」、「友人関係」の３項目では、これらの判断基準の重要度は幸福感を高めているおり、仮説Ｉは検証された。

８．６　生活の実態と幸福感の判断基準の重要度との関係：仮説Ⅱの検証

仮説Ⅱの「生活の実態は幸福感の判断基準の重要度を規定する」を検証するために、生活の実態の主観的評価を聞いた。（１）健康状態（「あなたは自分の健康状態をどのように感じていますか」）、（２）経済状況（「世間一般と比べて、あなたのご家庭の収入はどれくらいですか」「現在のあなたのご家庭の経済状態はどうですか」）を取り上げ、関連をみていきたい。

（１）健康状態

表８－８は、健康状態の評価と健康状態の重要度とをクロス集計した結果である。健康状態の評価については、「とても良い」と「まあまあ良い」をカテゴリー統合して“良い”に、「あまり良くない」と「まったく良くない」を“悪い”とした。

χ^2検定をしたところ、0.1%水準で有意な差がみられた。健康状態が「悪い」人より「良い」人のほうが、幸福感の判断基準として「健康状態」を重視している傾向にある。

表８－８　健康状態と重要度　　単位：%

	重視する	重視しない	計		χ^2値	p値
良い	93.9	6.1	100.0	278人	11.6161	0.0007 ***
悪い	81.3	18.7	100.0	75人		

*p<.05　**p<.01　***p<.001

（２）経済状況

表８－９は、家庭収入の評価と家計の状況の重要度とをクロス集計した結果である。収入の実態については、「平均よりかなり多い」と「平均より多い」をカテゴリー統合して“平均より多い”に、「どちらかといえば平均より少ない」と「平均より少ない」と「平均よりかなり少ない」をカテゴリー統合し“平均より少ない”にした。

χ^2検定を行った結果、0.1％水準で有意な差がみられた。家庭の収入が多い人ほど、幸福感を判断する際に家計の状況を重視する傾向にある。

表８－９　家庭収入の実態と家計の状況の重要度　　単位：％

	重視する	重視しない	計		χ^2値	p値	
平均より多い	92.6	7.4	100.0	81人			
ほぼ平均	84.4	15.6	100.0	141人	30.5438	<.0001	***
平均より少ない	63.0	37.0	100.0	127人			

*p<.05　**p<.01 ***p<.001

表８－10は、経済状態の困窮度と家計の状況の重要度とをクロス集計したものである。χ^2検定を行った結果、５％水準で有意な差がみられた。「困っている」、「少し困っている」という困窮度が高い人は約７割が「家計の状況」を重視しているのに対して、「あまり困っていない」と「困っている」という困窮度の低い人は８割以上の人が「家計の状況」を幸福感の判断基準として重視していることから、家庭の経済状況に困っていない人のほうが判断基準としての家計の状況の重要度が高い傾向にある。

表８－10　家庭経済の困窮度と家計の状況の重要度　　単位：％

	重視する	重視しない	計		χ^2値	p値	
困っている	70.6	29.4	100.0	17人			
少し困っている	68.7	31.3	100.0	99人	9.2387	0.0263	*
あまり困っていない	82.1	17.9	100.0	140人			
困っていない	84.0	16.0	100.0	106人			

*p<.05　**p<.01 ***p<.001

以上、生活の実態と幸福感の判断基準の重要度の関連をみたところ、今回取り上げた「健康状態」と「経済状況」の両方で、良好である人のほうが「健康状態」や「家計の状況」を幸福感の判断基準として重視する傾向にあることがわかった。

よって、「健康状態」と「経済状況」の実態に限っては、仮説Ⅱの「生活の実態は幸福感の判断基準の重要度を規定する」が検証された。

８．７　まとめ

白旗台地区では、９割を超える人が幸福感を感じており、非常に幸福感が高かった。とはいえ、幸福感を感じている人のなかにも孤独感を感じている人がいることや、幸福感を判断するさいの基準の重要度は一様ではないことがわかった。

その幸福感の判断基準の重要度だが、「健康状態」、「家族関係」、「友人関係」の３項目では、重要度が高い人のほうが幸福感を感じており、これらの判断基準を重視する人ほど幸福感が高いことがわかった。

さらに、「健康状態」と「経済状況」に関する生活の実態と、幸福感の判断基準の重要度との関連についても分析を行い、「健康状態」や「経済状況」に関する生活の実態が、幸福感を判断する際の基準の重要度を規定していることが検証された。

【参考文献】

幸福度に関する研究会（内田由紀子・大竹文雄・駒村康平・平井良典・牧野好洋・宮本みち子・山内直人・山田昌弘），2011,『幸福度に関する研究調査報告書－幸福度指標試案－』.
（http://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/pdf/koufukudosian_sono1.pdf）

内閣府，2011,「平成 22 年度国民生活選好度調査票」
（http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/h22/22senkou_04.pdf#page=1）

あとがき

淑徳大学は平成 22 年に新学部「コミュニティ政策学部」を立ち上げた。本報告書は、そうしたコミュニティ政策学部の学生による、初めての調査報告書となる。

本科目「社会調査実習」の前身となる総合福祉学部人間社会学科の専門科目「フィールドワークⅠ・Ⅱ」は、「淑徳大学社会調査士資格」を取得するための科目として平成 15 年度に開講された。その後、同年 11 月に設立された「社会調査士認定機構」（平成 20 年 12 月に「一般社団法人 社会調査協会」に改組）による「社会調査士資格」の認定が始まり、「フィールドワークⅠ・Ⅱ」という科目は、「社会調査士資格」の認定に必要な科目としても位置づけられるようになった。

この「社会調査士資格」という資格を取得するためには、「はしがき」（本書 i 頁）にもあるとおり、社会調査の基本的事項に関する科目（「社会調査論」）・調査設計と実施方法に関する科目（「社会調査法」）・基本的な資料とデータの分析に関する科目（「統計解析法」・「社会統計学」）・社会調査に必要な統計学に関する科目（「量的解析法」）の計５科目の単位を取得した上で、社会調査の実習を中心とする本科目「社会調査実習」を履修しなければならない。

この「社会調査の実習を中心とする科目」は、半期（授業回数 15 回）でおこなわれる他５科目とは異なり、年間 30 回の授業を必要とする。昨年度まで開講していた人間社会学科の「フィールドワーク」は、前期 15 回・後期 15 回という、通年開講の形をとっていたのに対し、「社会調査実習」は、コミュニティ政策学部のカリキュラム編成上、前期に週２コマ、計 30 回という形をとることとなった。

社会調査の実習科目では、その開講期間の違いは大きい。というのも、（これも「はしがき」にあるが）調査実習の授業では、研究テーマの設定から仮説の検討、調査の方法的枠組みと分析方法の検討、調査対象の選定と調査票の作成、実査、データの集計、結果の解析、そして報告書による成果の公表と、やらなくてはいけないことが山積みとなっているからだ。とくに、本科目のように一般市民を対象とした調査では、調査対象者の選定は住民基本台帳を用いておこなうのが通常であるが、そのためには、調査票を完成させた上で区役所に住民基本台帳閲覧の申請手続きを行い、申請許可がおりるのを待って閲覧に行く、という過程を踏まなくてはならず、しかも多くの市町村では、1ヶ月の閲覧可能回数が 2 日以内と決められているため、1000 人以上の対象者を抽出するには、閲覧だけでも 2ヶ月かかり、申請のための準備期間も含めると最低でも 3ヶ月以上の期間が必要となる。

そのため、本調査では、時間的な制限から、住民基本台帳を用いた対象者の選定を行うことはできず、「フィールドワーク」が開講して以来初めてとなる、エリア・サンプリングの方法をとることとなった。

エリア・サンプリングは、ここ数年で以前よりはよく見かけるようになったものの、日本の学術調査のなかではまだそれほど一般的なサンプリング方法とはいえず、教員・助手にとっても初めての経験となった。

前年までの「フィールドワーク」に比べ、何をするにも圧倒的に時間が足りず、スタッフ側でさえも不慣れなサンプリングを行うしかないというこうした状況の中で、学生たちは本当によくがんばってくれた。

調査票を作成するまでの試行錯誤の過程、炎天下での調査票のポスティング作業、前期中では終えられなかった報告書の作成など、学生には授業内だけではなく、課外でも、他の授業では考えられないほどの多大な時間と作業を要求したと思う。それに文句も言わず、一生懸命に取り組んでくれた学生たちの姿には、本当に頭が下がる思いである。

学生たちのそうした努力が形となったこの報告書が、白旗台地区の人びとにとって少しでも役に立つことができたならば幸いである。

平成 25 年 3 月

社会調査助手　佐藤麻衣

単　純　集　計　表

Ａ１　あなたは、あなたのお住まいの地域（歩いて 15 分くらいの範囲）について、どのように感じていますか。

a　電車を利用するのに便利

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	141	37.0	38.5	38.5
	どちらかといえばあてはまる	124	32.5	33.9	72.4
	どちらかといえばあてはまらない	42	11.0	11.5	83.9
	あてはまらない	59	15.5	16.1	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

b　バスを利用するのに便利

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	182	47.8	49.7	49.7
	どちらかといえばあてはまる	120	31.5	32.8	82.5
	どちらかといえばあてはまらない	45	11.8	12.3	94.8
	あてはまらない	19	5.0	5.2	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

c　食料品を買うのに便利

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	143	37.5	39.1	39.1
	どちらかといえばあてはまる	119	31.2	32.5	71.6
	どちらかといえばあてはまらない	68	17.8	18.6	90.2
	あてはまらない	36	9.4	9.8	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

d　日用品を買うのに便利

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	138	36.2	37.9	37.9
	どちらかといえばあてはまる	109	28.6	29.9	67.9
	どちらかといえばあてはまらない	77	20.2	21.2	89.0
	あてはまらない	40	10.5	11.0	100.0
	合計	364	95.5	100.0	
欠損値	99	17	4.5		
合計		381	100.0		

e　普段使う道路は街灯が整備されている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	144	37.8	39.5	39.5
	どちらかといえばあてはまる	145	38.1	39.7	79.2
	どちらかといえばあてはまらない	60	15.7	16.4	95.6
	あてはまらない	16	4.2	4.4	100.0
	合計	365	95.8	100.0	
欠損値	99	16	4.2		
合計		381	100.0		

f　普段使う歩道は車道と分かれている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	75	19.7	20.7	20.7
	どちらかといえばあてはまる	92	24.1	25.3	46.0
	どちらかといえばあてはまらない	96	25.2	26.4	72.5
	あてはまらない	100	26.2	27.5	100.0
	合計	363	95.3	100.0	
欠損値	99	18	4.7		
合計		381	100.0		

g　治安がいい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	51	13.4	14.0	14.0
	どちらかといえばあてはまる	192	50.4	52.7	66.8
	どちらかといえばあてはまらない	105	27.6	28.8	95.6
	あてはまらない	16	4.2	4.4	100.0
	合計	364	95.5	100.0	
欠損値	99	17	4.5		
合計		381	100.0		

h　近くにかかりつけの医療機関がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	130	34.1	35.7	35.7
	どちらかといえばあてはまる	123	32.3	33.8	69.5
	どちらかといえばあてはまらない	57	15.0	15.7	85.2
	あてはまらない	54	14.2	14.8	100.0
	合計	364	95.5	100.0	
欠損値	99	17	4.5		
合計		381	100.0		

i　災害が起きた時の避難場所が近くにある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	151	39.6	41.1	41.1
	どちらかといえばあてはまる	154	40.4	42.0	83.1
	どちらかといえばあてはまらない	46	12.1	12.5	95.6
	あてはまらない	16	4.2	4.4	100.0
	合計	367	96.3	100.0	
欠損値	99	14	3.7		
合計		381	100.0		

Ａ２　あなたがふだんよく利用する電車の駅は、あなたのお住まいから徒歩でどれくらいかかりますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1～5分	13	3.4	3.5	3.5
	6～10分	64	16.8	17.3	20.9
	11～15分	92	24.1	24.9	45.8
	16～30分	126	33.1	34.1	79.9
	30分以上	31	8.1	8.4	88.3
	普段利用しない	43	11.3	11.7	100.0
	合計	369	96.9	100.0	
欠損値	99	12	3.1		
合計		381	100.0		

Ａ３　あなたがふだんよく利用しているバスや電車はどれくらいの間隔で運行していますか。
ａ．電車、ｂ．バスのそれぞれについて、下記の１～６のうちから<u>あてはまるもの１つ</u>を選んで、その番号に〇をつけてください。なお、ふだん利用する路線が複数ある場合は、もっともよく使う路線についてお答えください。

運行間隔ーバス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1～5分	3	.8	.8	.8
	6～10分	15	3.9	4.2	5.0
	11～15分	44	11.5	12.3	17.3
	16～30分	98	25.7	27.4	44.7
	30分以上	61	16.0	17.0	61.7
	ふだんバスは利用しない	137	36.0	38.3	100.0
	合計	358	94.0	100.0	
欠損値	99	23	6.0		
合計		381	100.0		

運行間隔－電車

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1～5分	6	1.6	1.6	1.6
	6～10分	94	24.7	25.7	27.3
	11～15分	75	19.7	20.5	47.8
	16～30分	83	21.8	22.7	70.5
	30分以上	9	2.4	2.5	73.0
	ふだん電車は利用しない	99	26.0	27.0	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

Ａ４　あなたがふだん利用しているバス、電車の、平日の最終便は何時台ですか。

最終便の時間－バス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	夜8時より前	6	1.6	1.7	1.7
	夜8時台	17	4.5	4.7	6.4
	夜9時台	93	24.4	25.8	32.2
	夜10時台	31	8.1	8.6	40.8
	夜11時以降	13	3.4	3.6	44.4
	わからない／ふだんバスは利用しない	200	52.5	55.6	100.0
	合計	360	94.5	100.0	
欠損値	99	21	5.5		
合計		381	100.0		

最終便の時間－電車

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	夜8時より前	7	1.8	1.9	1.9
	夜8時台	1	.3	.3	2.2
	夜9時台	6	1.6	1.6	3.8
	夜10時台	86	22.6	23.5	27.3
	夜11時以降	114	29.9	31.1	58.5
	わからない／ふだん電車は利用しない	152	39.9	41.5	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

Ａ５　あなたがふだん利用している路線が遅延や運休した場合、その代わりとなる路線はありますか。

代替路線の有無－バス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	92	24.1	25.8	25.8
	ない	91	23.9	25.5	51.3
	ふだんバスは利用しない	174	45.7	48.7	100.0
	合計	357	93.7	100.0	
欠損値	99	24	6.3		
合計		381	100.0		

代替路線の有無－電車

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	159	41.7	43.8	43.8
	ない	82	21.5	22.6	66.4
	ふだん電車は利用しない	122	32.0	33.6	100.0
	合計	363	95.3	100.0	
欠損値	99	18	4.7		
合計		381	100.0		

Ａ６　あなたの世帯は、町内会や自治会に加入していますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	加入している	309	81.1	82.8	82.8
	加入していない	64	16.8	17.2	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

Ａ７　あなたはこの１年間に、次のａ～ｅのような地域の活動に、どの程度参加しましたか。

ａ　婦人会・老人会・子ども会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	半月に1回以上	9	2.4	2.5	2.5
	1ヶ月に1回程度	7	1.8	2.0	4.5
	2～3ヶ月に1回程度	10	2.6	2.8	7.3
	半年に1回程度	8	2.1	2.2	9.6
	1年に1回程度	22	5.8	6.2	15.7
	参加しなかった	300	78.7	84.3	100.0
	合計	356	93.4	100.0	
欠損値	99	25	6.6		
合計		381	100.0		

ｂ　防犯・防災・交通安全

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	半月に1回以上	9	2.4	2.5	2.5
	1ヶ月に1回程度	7	1.8	1.9	4.4
	2～3ヶ月に1回程度	10	2.6	2.8	7.2
	半年に1回程度	23	6.0	6.4	13.6
	1年に1回程度	38	10.0	10.6	24.2
	参加しなかった	273	71.7	75.8	100.0
	合計	360	94.5	100.0	
欠損値	99	21	5.5		
合計		381	100.0		

ｃ　趣味・娯楽・スポーツ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	半月に1回以上	37	9.7	10.2	10.2
	1ヶ月に1回程度	25	6.6	6.9	17.2
	2～3ヶ月に1回程度	10	2.6	2.8	19.9
	半年に1回程度	16	4.2	4.4	24.4
	1年に1回程度	23	6.0	6.4	30.7
	参加しなかった	250	65.6	69.3	100.0
	合計	361	94.8	100.0	
欠損値	99	20	5.2		
合計		381	100.0		

ｄ　生涯学習

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	半月に1回以上	14	3.7	4.0	4.0
	1ヶ月に1回程度	4	1.0	1.1	5.1
	2～3ヶ月に1回程度	4	1.0	1.1	6.2
	半年に1回程度	5	1.3	1.4	7.6
	1年に1回程度	2	.5	.6	8.2
	参加しなかった	325	85.3	91.8	100.0
	合計	354	92.9	100.0	
欠損値	99	27	7.1		
合計		381	100.0		

ｅ　高齢者・子ども・障害者福祉

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	半月に1回以上	10	2.6	2.8	2.8
	1ヶ月に1回程度	7	1.8	2.0	4.8
	2～3ヶ月に1回程度	6	1.6	1.7	6.5
	半年に1回程度	4	1.0	1.1	7.6
	1年に1回程度	14	3.7	4.0	11.6
	参加しなかった	313	82.2	88.4	100.0
	合計	354	92.9	100.0	
欠損値	99	27	7.1		
合計		381	100.0		

Ａ８　下記のａ～ｆについて、あなたがお住まいのところで行われている地域サービスのなかで知っているもの、実際に参加したり利用したりしたものはありますか。

ａ　ふれあいいきいきサロン

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	参加または利用したことがある	18	4.7	4.9	4.9
	知っているが参加や利用はしたことがない	127	33.3	34.8	39.7
	知らない	220	57.7	60.3	100.0
	合計	365	95.8	100.0	
欠損値	99	16	4.2		
合計		381	100.0		

ｂ　ふれあい子育てサロン

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	参加または利用したことがある	21	5.5	5.8	5.8
	知っているが参加や利用はしたことがない	115	30.2	31.7	37.5
	知らない	227	59.6	62.5	100.0
	合計	363	95.3	100.0	
欠損値	99	18	4.7		
合計		381	100.0		

ｃ　ふれあい食事サービス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	参加または利用したことがある	10	2.6	2.7	2.7
	知っているが参加や利用はしたことがない	80	21.0	22.0	24.7
	知らない	274	71.9	75.3	100.0
	合計	364	95.5	100.0	
欠損値	99	17	4.5		
合計		381	100.0		

ｄ　ふれあい散歩クラブ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	参加または利用したことがある	8	2.1	2.2	2.2
	知っているが参加や利用はしたことがない	66	17.3	18.2	20.4
	知らない	289	75.9	79.6	100.0
	合計	363	95.3	100.0	
欠損値	99	18	4.7		
合計		381	100.0		

ｅ　ボランティア講座

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	参加または利用したことがある	15	3.9	4.1	4.1
	知っているが参加や利用はしたことがない	96	25.2	26.2	30.3
	知らない	255	66.9	69.7	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

ｆ　子ども110番の家

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	参加または利用したことがある	16	4.2	4.4	4.4
	知っているが参加や利用はしたことがない	203	53.3	55.8	60.2
	知らない	145	38.1	39.8	100.0
	合計	364	95.5	100.0	
欠損値	99	17	4.5		
合計		381	100.0		

Ａ９　あなたがお住まいの地域では、以下のａ～ｉのようなサービスがどの程度充実していると思いますか。

ａ　高齢者の日常生活をサポートするサービス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実している	9	2.4	2.4	2.4
	まあ充実している	55	14.4	14.9	17.3
	あまり充実していない	52	13.6	14.1	31.4
	充実していない	28	7.3	7.6	38.9
	わからない	226	59.3	61.1	100.0
	合計	370	97.1	100.0	
欠損値	99	11	2.9		
合計		381	100.0		

ｂ　高齢者やその家族が気軽に相談できる場の提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実している	3	.8	.8	.8
	まあ充実している	39	10.2	10.6	11.4
	あまり充実していない	53	13.9	14.4	25.7
	充実していない	44	11.5	11.9	37.7
	わからない	230	60.4	62.3	100.0
	合計	369	96.9	100.0	
欠損値	99	12	3.1		
合計		381	100.0		

ｃ　高齢者が誰でも気軽に参加できる場、交流できる場

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実している	7	1.8	1.9	1.9
	まあ充実している	43	11.3	11.7	13.6
	あまり充実していない	58	15.2	15.7	29.3
	充実していない	36	9.4	9.8	39.0
	わからない	225	59.1	61.0	100.0
	合計	369	96.9	100.0	
欠損値	99	12	3.1		
合計		381	100.0		

ｄ　気軽に子育ての相談ができる場の提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実している	8	2.1	2.2	2.2
	まあ充実している	27	7.1	7.4	9.6
	あまり充実していない	53	13.9	14.5	24.0
	充実していない	36	9.4	9.8	33.9
	わからない	242	63.5	66.1	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

ｅ　ボランティアを利用するための情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実している	3	.8	.8	.8
	まあ充実している	24	6.3	6.6	7.4
	あまり充実していない	50	13.1	13.7	21.0
	充実していない	43	11.3	11.7	32.8
	わからない	246	64.6	67.2	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

ｆ　ボランティア活動をするための場や情報の提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実している	3	.8	.8	.8
	まあ充実している	28	7.3	7.8	8.6
	あまり充実していない	45	11.8	12.5	21.2
	充実していない	37	9.7	10.3	31.5
	わからない	246	64.6	68.5	100.0
	合計	359	94.2	100.0	
欠損値	99	22	5.8		
合計		381	100.0		

g　住んでいる地域のイベントや活動の情報提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実している	9	2.4	2.4	2.4
	まあ充実している	73	19.2	19.8	22.3
	あまり充実していない	75	19.7	20.4	42.7
	充実していない	34	8.9	9.2	51.9
	わからない	177	46.5	48.1	100.0
	合計	368	96.6	100.0	
欠損値	99	13	3.4		
合計		381	100.0		

h　生活で困ったことを気軽に相談できる場の提供

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実している	1	.3	.3	.3
	まあ充実している	21	5.5	5.7	6.0
	あまり充実していない	50	13.1	13.6	19.6
	充実していない	60	15.7	16.3	36.0
	わからない	235	61.7	64.0	100.0
	合計	367	96.3	100.0	
欠損値	99	14	3.7		
合計		381	100.0		

i　地域での見守り活動

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	充実している	10	2.6	2.7	2.7
	まあ充実している	63	16.5	17.2	19.9
	あまり充実していない	60	15.7	16.3	36.2
	充実していない	41	10.8	11.2	47.4
	わからない	193	50.7	52.6	100.0
	合計	367	96.3	100.0	
欠損値	99	14	3.7		
合計		381	100.0		

A10　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、専門家やサービス機関（行政・金融機関・ヘルパーなど）をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。

a　専門機関－落ち込んだり混乱した時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	10	2.6	2.7	2.7
	ある程度頼りにする	75	19.7	20.4	23.2
	あまり頼りにしない	140	36.7	38.1	61.3
	まったく頼りにしない	142	37.3	38.7	100.0
	合計	367	96.3	100.0	
欠損値	99	14	3.7		
合計		381	100.0		

b　専門機関－お金が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	9	2.4	2.5	2.5
	ある程度頼りにする	47	12.3	12.9	15.3
	あまり頼りにしない	112	29.4	30.7	46.0
	まったく頼りにしない	197	51.7	54.0	100.0
	合計	365	95.8	100.0	
欠損値	99	16	4.2		
合計		381	100.0		

c　専門機関－病気や事故で人手が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	35	9.2	9.5	9.5
	ある程度頼りにする	155	40.7	42.1	51.6
	あまり頼りにしない	97	25.5	26.4	78.0
	まったく頼りにしない	81	21.3	22.0	100.0
	合計	368	96.6	100.0	
欠損値	99	13	3.4		
合計		381	100.0		

d　専門機関－育児や介護の助けが必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	40	10.5	11.0	11.0
	ある程度頼りにする	148	38.8	40.5	51.5
	あまり頼りにしない	98	25.7	26.8	78.4
	まったく頼りにしない	79	20.7	21.6	100.0
	合計	365	95.8	100.0	
欠損値	99	16	4.2		
合計		381	100.0		

Ｂ１　あなたは、隣近所に次のａ～ｆような方がいますか。

a　挨拶程度の付き合いをする人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんいる	146	38.3	38.8	38.8
	数人いる	175	45.9	46.5	85.4
	一人二人いる	41	10.8	10.9	96.3
	まったくいない	14	3.7	3.7	100.0
	合計	376	98.7	100.0	
欠損値	99	5	1.3		
合計		381	100.0		

b　庭先や道端でよく立ち話をする人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんいる	36	9.4	9.7	9.7
	数人いる	157	41.2	42.2	51.9
	一人二人いる	104	27.3	28.0	79.8
	まったくいない	75	19.7	20.2	100.0
	合計	372	97.6	100.0	
欠損値	99	9	2.4		
合計		381	100.0		

c　家をよく訪問する人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんいる	12	3.1	3.2	3.2
	数人いる	70	18.4	18.8	22.0
	一人二人いる	124	32.5	33.2	55.2
	まったくいない	167	43.8	44.8	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

d　よくお裾分けをし合う人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんいる	24	6.3	6.4	6.4
	数人いる	91	23.9	24.2	30.6
	一人二人いる	129	33.9	34.3	64.9
	まったくいない	132	34.6	35.1	100.0
	合計	376	98.7	100.0	
欠損値	99	5	1.3		
合計		381	100.0		

e　家族ぐるみの付き合いをしている人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんいる	9	2.4	2.4	2.4
	数人いる	44	11.5	11.8	14.2
	一人二人いる	115	30.2	30.8	45.0
	まったくいない	205	53.8	55.0	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

f　よく一緒に外出するような関係の人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんいる	11	2.9	2.9	2.9
	数人いる	57	15.0	15.3	18.2
	一人二人いる	84	22.0	22.5	40.8
	まったくいない	221	58.0	59.2	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

Ｂ２　あなたの隣近所との付き合いは、10 年前と比べてどう変わりましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	親密になった	12	3.1	3.2	3.2
	やや親密になった	39	10.2	10.3	13.5
	変わらない	160	42.0	42.3	55.8
	やや疎遠になった	29	7.6	7.7	63.5
	疎遠になった	20	5.2	5.3	68.8
	10年前はここに住んでいなかった	118	31.0	31.2	100.0
	合計	378	99.2	100.0	
欠損値	99	3	.8		
合計		381	100.0		

Ｂ３　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、近所や地域の人をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。

a　地域－落ち込んだり混乱した時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	11	2.9	3.0	3.0
	ある程度頼りにする	60	15.7	16.2	19.2
	あまり頼りにしない	126	33.1	34.1	53.2
	まったく頼りにしない	173	45.4	46.8	100.0
	合計	370	97.1	100.0	
欠損値	99	11	2.9		
合計		381	100.0		

b　地域－お金が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	2	.5	.5	.5
	ある程度頼りにする	8	2.1	2.2	2.7
	あまり頼りにしない	74	19.4	20.1	22.8
	まったく頼りにしない	285	74.8	77.2	100.0
	合計	369	96.9	100.0	
欠損値	99	12	3.1		
合計		381	100.0		

c　地域－病気や事故で人手が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	23	6.0	6.2	6.2
	ある程度頼りにする	102	26.8	27.3	33.5
	あまり頼りにしない	126	33.1	33.8	67.3
	まったく頼りにしない	122	32.0	32.7	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

d　地域－育児や介護の助けが必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	9	2.4	2.5	2.5
	ある程度頼りにする	90	23.6	24.5	27.0
	あまり頼りにしない	125	32.8	34.1	61.0
	まったく頼りにしない	143	37.5	39.0	100.0
	合計	367	96.3	100.0	
欠損値	99	14	3.7		
合計		381	100.0		

Ｃ１　あなたは、この１年間に、家族（同居していない家族も含む）と「話らしい話」をどれくらいしましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ほぼ毎日	209	54.9	55.7	55.7
	週に4～5回	40	10.5	10.7	66.4
	週に2～3回	39	10.2	10.4	76.8
	週に1回	23	6.0	6.1	82.9
	月に1～2回	34	8.9	9.1	92.0
	年に数回	14	3.7	3.7	95.7
	年に1回程度	3	.8	.8	96.5
	話をしていない	2	.5	.5	97.1
	家族はいない	11	2.9	2.9	100.0
	合計	375	98.4	100.0	
欠損値	99	6	1.6		
合計		381	100.0		

Ｃ２　あなたは、ふだん、家族（同居していない家族も含む）とどれくらいいっしょに出かけることがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ほぼ毎日	31	8.1	8.3	8.3
	週に4～5回	18	4.7	4.8	13.1
	週に2～3回	87	22.8	23.3	36.5
	週に1回	76	19.9	20.4	56.8
	月に2～3回	60	15.7	16.1	72.9
	月に1回	34	8.9	9.1	82.0
	年に数回	39	10.2	10.5	92.5
	年に1回程度	8	2.1	2.1	94.6
	数年に1回程度	2	.5	.5	95.2
	一緒に出かけることはない	7	1.8	1.9	97.1
	家族はいない	11	2.9	2.9	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

Ｃ３　あなたは、家族（同居していない家族も含む）が自分のことを気にかけてくれていると感じますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とてもそう思う	178	46.7	47.3	47.3
	まあまあそう思う	162	42.5	43.1	90.4
	あまりそう思わない	22	5.8	5.9	96.3
	まったくそう思わない	3	.8	.8	97.1
	家族はいない	11	2.9	2.9	100.0
	合計	376	98.7	100.0	
欠損値	99	5	1.3		
合計		381	100.0		

Ｃ４　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、家族（同居していない家族も含む）をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。

ａ　家族ー落ち込んだり混乱した時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	150	39.4	41.8	41.8
	ある程度頼りにする	141	37.0	39.3	81.1
	あまり頼りにしない	45	11.8	12.5	93.6
	まったく頼りにしない	23	6.0	6.4	100.0
	合計	359	94.2	100.0	
欠損値	99	22	5.8		
合計		381	100.0		

b　家族－お金が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	123	32.3	34.3	34.3
	ある程度頼りにする	106	27.8	29.5	63.8
	あまり頼りにしない	71	18.6	19.8	83.6
	まったく頼りにしない	59	15.5	16.4	100.0
	合計	359	94.2	100.0	
欠損値	99	22	5.8		
合計		381	100.0		

c　家族－病気や事故で人手が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	191	50.1	52.5	52.5
	ある程度頼りにする	119	31.2	32.7	85.2
	あまり頼りにしない	36	9.4	9.9	95.1
	まったく頼りにしない	18	4.7	4.9	100.0
	合計	364	95.5	100.0	
欠損値	99	17	4.5		
合計		381	100.0		

d　家族－育児や介護の助けが必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	169	44.4	47.3	47.3
	ある程度頼りにする	120	31.5	33.6	81.0
	あまり頼りにしない	44	11.5	12.3	93.3
	まったく頼りにしない	24	6.3	6.7	100.0
	合計	357	93.7	100.0	
欠損値	99	24	6.3		
合計		381	100.0		

Ｄ１　あなたは、ふだん、親せきや親類とどれくらい交流をしていますか。（電話やメールも含む）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	月1回以上	141	37.0	38.1	38.1
	年に数回	159	41.7	43.0	81.1
	年に1回程度	37	9.7	10.0	91.1
	数年に1回程度	18	4.7	4.9	95.9
	まったく交流がない	11	2.9	3.0	98.9
	親戚はいない	4	1.0	1.1	100.0
	合計	370	97.1	100.0	
欠損値	99	11	2.9		
合計		381	100.0		

Ｄ２　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、親せきや親類をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。

a　親戚－落ち込んだり混乱した時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	41	10.8	11.3	11.3
	ある程度頼りにする	113	29.7	31.0	42.3
	あまり頼りにしない	125	32.8	34.3	76.6
	まったく頼りにしない	85	22.3	23.4	100.0
	合計	364	95.5	100.0	
欠損値	99	17	4.5		
合計		381	100.0		

b　親戚－お金が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	24	6.3	6.6	6.6
	ある程度頼りにする	67	17.6	18.5	25.1
	あまり頼りにしない	114	29.9	31.5	56.6
	まったく頼りにしない	157	41.2	43.4	100.0
	合計	362	95.0	100.0	
欠損値	99	19	5.0		
合計		381	100.0		

c　親戚－病気や事故で人手が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	54	14.2	14.8	14.8
	ある程度頼りにする	115	30.2	31.5	46.3
	あまり頼りにしない	106	27.8	29.0	75.3
	まったく頼りにしない	90	23.6	24.7	100.0
	合計	365	95.8	100.0	
欠損値	99	16	4.2		
合計		381	100.0		

d　親戚－育児や介護の助けが必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	46	12.1	12.7	12.7
	ある程度頼りにする	102	26.8	28.2	40.9
	あまり頼りにしない	119	31.2	32.9	73.8
	まったく頼りにしない	95	24.9	26.2	100.0
	合計	362	95.0	100.0	
欠損値	99	19	5.0		
合計		381	100.0		

Ｅ１～Ｅ４の質問は、お仕事をされている方のみ。（学生でアルバイトをしている方は除く）

Ｅ１　あなたは、この１週間に、職場の人と雑談程度の会話をしましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	頻繁にした	123	32.3	70.7	70.7
	ときどきした	48	12.6	27.6	98.3
	ほとんどしなかった	3	.8	1.7	100.0
	合計	174	45.7	100.0	
欠損値	仕事をしていない	199	52.2		
	99	8	2.1		
	合計	207	54.3		
合計		381	100.0		

Ｅ２　あなたはふだん、職場の人と仕事以外で時間を共有することはどれくらいありますか。
（ただし、接待など、仕事と関わりのある時間は除く）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	週1回以上	26	6.8	14.9	14.9
	月に2～3回	26	6.8	14.9	29.9
	月に1回	28	7.3	16.1	46.0
	年に数回	46	12.1	26.4	72.4
	年に1回程度	18	4.7	10.3	82.8
	数年に1回程度	1	.3	.6	83.3
	交流はない	29	7.6	16.7	100.0
	合計	174	45.7	100.0	
欠損値	仕事をしていない	199	52.2		
	99	8	2.1		
	合計	207	54.3		
合計		381	100.0		

Ｅ３　あなたが、日ごろ、職場で食事をとるときの状況はどのようなものですか。下記の１～４のうちからその状況にもっとも近いもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	職場の人と会話しながら	112	29.4	65.1	65.1
	同じ場所で一人で	26	6.8	15.1	80.2
	異なる場所で一人で	16	4.2	9.3	89.5
	その他	2	.5	1.2	90.7
	自宅でとる	6	1.6	3.5	94.2
	勤務時間上、食事をとらない	5	1.3	2.9	97.1
	勤務形態上、一人で	5	1.3	2.9	100.0
	合計	172	45.1	100.0	
欠損値	仕事をしていない	199	52.2		
	99	10	2.6		
	合計	209	54.9		
合計		381	100.0		

Ｅ４　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、職場の人をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。

ａ　職場ー落ち込んだり混乱した時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	9	2.4	5.2	5.2
	ある程度頼りにする	63	16.5	36.2	41.4
	あまり頼りにしない	52	13.6	29.9	71.3
	まったく頼りにしない	50	13.1	28.7	100.0
	合計	174	45.7	100.0	
欠損値	仕事をしていない	199	52.2		
	99	8	2.1		
	合計	207	54.3		
合計		381	100.0		

ｂ　職場ーお金が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	1	.3	.6	.6
	ある程度頼りにする	13	3.4	7.5	8.0
	あまり頼りにしない	33	8.7	19.0	27.0
	まったく頼りにしない	127	33.3	73.0	100.0
	合計	174	45.7	100.0	
欠損値	仕事をしていない	199	52.2		
	99	8	2.1		
	合計	207	54.3		
合計		381	100.0		

ｃ　職場ー病気や事故で人手が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	6	1.6	3.4	3.4
	ある程度頼りにする	36	9.4	20.7	24.1
	あまり頼りにしない	51	13.4	29.3	53.4
	まったく頼りにしない	81	21.3	46.6	100.0
	合計	174	45.7	100.0	
欠損値	仕事をしていない	199	52.2		
	99	8	2.1		
	合計	207	54.3		
合計		381	100.0		

ｄ　職場ー育児や介護の助けが必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	2	.5	1.1	1.1
	ある程度頼りにする	21	5.5	12.1	13.2
	あまり頼りにしない	52	13.6	29.9	43.1
	まったく頼りにしない	99	26.0	56.9	100.0
	合計	174	45.7	100.0	
欠損値	仕事をしていない	199	52.2		
	99	8	2.1		
	合計	207	54.3		
合計		381	100.0		

Ｆ１　あなたには、「たわいのない話」をする友人や知人（職場の友人等は除く）がどれくらいいますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんいる	64	16.8	17.3	17.3
	まあまあいる	246	64.6	66.5	83.8
	ほとんどいない	45	11.8	12.2	95.9
	まったくいない	15	3.9	4.1	100.0
	合計	370	97.1	100.0	
欠損値	99	11	2.9		
合計		381	100.0		

Ｆ２　あなたは、ふだん、友人や知人（職場の友人等は除く）と、どれくらいいっしょに出かけることがありますか。（仕事帰りや学校帰りの時間も含む）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	週1回以上	43	11.3	11.7	11.7
	月に2～3回	69	18.1	18.8	30.5
	月に1回	68	17.8	18.5	49.0
	年に数回	104	27.3	28.3	77.4
	年に1回程度	26	6.8	7.1	84.5
	数年に1回程度	10	2.6	2.7	87.2
	交流はない	47	12.3	12.8	100.0
	合計	367	96.3	100.0	
欠損値	99	14	3.7		
合計		381	100.0		

Ｆ３　あなたには、一緒にいるとほっとする友人や知人（職場の友人等は除く）が何人くらいいますか。思い浮んだ人の人数を［　］内にお書きください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0人	55	14.4	15.0	15.0
	1人	25	6.6	6.8	21.9
	2～3人	137	36.0	37.4	59.3
	4～5人	86	22.6	23.5	82.8
	6～10人	49	12.9	13.4	96.2
	11人以上	14	3.7	3.8	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

最小値：0、最大値：100
（※ ただし「100 人」と回答したものは１名。除外した場合、最大値は 30）
平均値：3.99、中央値：3.0、最頻値：3.0、標準偏差：4.13
（※「100 人」という回答を除いたもの）

Ｆ４　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、友人や知人（職場の友人等は除く）をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしていますか。

ａ　友人－落ち込んだり混乱した時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	49	12.9	13.4	13.4
	ある程度頼りにする	152	39.9	41.4	54.8
	あまり頼りにしない	91	23.9	24.8	79.6
	まったく頼りにしない	75	19.7	20.4	100.0
	合計	367	96.3	100.0	
欠損値	99	14	3.7		
合計		381	100.0		

ｂ　友人－お金が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	4	1.0	1.1	1.1
	ある程度頼りにする	27	7.1	7.5	8.6
	あまり頼りにしない	98	25.7	27.1	35.6
	まったく頼りにしない	233	61.2	64.4	100.0
	合計	362	95.0	100.0	
欠損値	99	19	5.0		
合計		381	100.0		

c　友人－病気や事故で人手が必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	26	6.8	7.1	7.1
	ある程度頼りにする	96	25.2	26.1	33.2
	あまり頼りにしない	133	34.9	36.1	69.3
	まったく頼りにしない	113	29.7	30.7	100.0
	合計	368	96.6	100.0	
欠損値	99	13	3.4		
合計		381	100.0		

d　友人－育児や介護の助けが必要な時

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても頼りにする	14	3.7	3.9	3.9
	ある程度頼りにする	79	20.7	22.0	25.9
	あまり頼りにしない	140	36.7	39.0	64.9
	まったく頼りにしない	126	33.1	35.1	100.0
	合計	359	94.2	100.0	
欠損値	99	22	5.8		
合計		381	100.0		

Ｇ１　あなたは、以下のａ～ｅのような人びととの関係をどの程度大切にしていますか。

a　家族

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切にしている	299	78.5	82.4	82.4
	ある程度大切にしている	56	14.7	15.4	97.8
	あまり大切にしていない	5	1.3	1.4	99.2
	まったく大切にしていない	3	.8	.8	100.0
	合計	363	95.3	100.0	
欠損値	99	18	4.7		
合計		381	100.0		

b　親戚

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切にしている	99	26.0	27.0	27.0
	ある程度大切にしている	225	59.1	61.5	88.5
	あまり大切にしていない	29	7.6	7.9	96.4
	まったく大切にしていない	13	3.4	3.6	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

c　友人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切にしている	103	27.0	28.2	28.2
	ある程度大切にしている	228	59.8	62.5	90.7
	あまり大切にしていない	22	5.8	6.0	96.7
	まったく大切にしていない	12	3.1	3.3	100.0
	合計	365	95.8	100.0	
欠損値	99	16	4.2		
合計		381	100.0		

d　職場の仲間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切にしている	36	9.4	13.5	13.5
	ある程度大切にしている	155	40.7	58.1	71.5
	あまり大切にしていない	48	12.6	18.0	89.5
	まったく大切にしていない	28	7.3	10.5	100.0
	合計	267	70.1	100.0	
欠損値	99	114	29.9		
合計		381	100.0		

e　地域の人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切にしている	31	8.1	8.5	8.5
	ある程度大切にしている	187	49.1	51.5	60.1
	あまり大切にしていない	107	28.1	29.5	89.5
	まったく大切にしていない	38	10.0	10.5	100.0
	合計	363	95.3	100.0	
欠損値	99	18	4.7		
合計		381	100.0		

Ｈ１　あなたは幸せですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても幸せ	73	19.2	19.7	19.7
	まあまあ幸せ	271	71.1	73.0	92.7
	あまり幸せでない	25	6.6	6.7	99.5
	まったく幸せでない	2	.5	.5	100.0
	合計	371	97.4	100.0	
欠損値	99	10	2.6		
合計		381	100.0		

Ｈ２　上記のＨ１において幸福感を判断したさい、あなたは次のａ～ｍような事柄をどの程度重視しましたか。

a　所得や消費など家計の状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	93	24.4	25.5	25.5
	まあまあ重視した	192	50.4	52.7	78.3
	あまり重視しなかった	67	17.6	18.4	96.7
	まったく重視しなかった	12	3.1	3.3	100.0
	合計	364	95.5	100.0	
欠損値	99	17	4.5		
合計		381	100.0		

b　仕事の有無や安定などの就業状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	71	18.6	21.5	21.5
	まあまあ重視した	159	41.7	48.0	69.5
	あまり重視しなかった	64	16.8	19.3	88.8
	まったく重視しなかった	37	9.7	11.2	100.0
	合計	331	86.9	100.0	
欠損値	99	50	13.1		
合計		381	100.0		

c　健康状態

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	188	49.3	51.2	51.2
	まあまあ重視した	147	38.6	40.1	91.3
	あまり重視しなかった	23	6.0	6.3	97.5
	まったく重視しなかった	9	2.4	2.5	100.0
	合計	367	96.3	100.0	
欠損値	99	14	3.7		
合計		381	100.0		

d　自由な時間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	89	23.4	24.3	24.3
	まあまあ重視した	182	47.8	49.7	74.0
	あまり重視しなかった	81	21.3	22.1	96.2
	まったく重視しなかった	14	3.7	3.8	100.0
	合計	366	96.1	100.0	
欠損値	99	15	3.9		
合計		381	100.0		

f　仕事の充実

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	42	11.0	13.2	13.2
	まあまあ重視した	141	37.0	44.3	57.5
	あまり重視しなかった	79	20.7	24.8	82.4
	まったく重視しなかった	56	14.7	17.6	100.0
	合計	318	83.5	100.0	
欠損値	99	63	16.5		
合計		381	100.0		

g　精神的なゆとり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	108	28.3	30.0	30.0
	まあまあ重視した	186	48.8	51.7	81.7
	あまり重視しなかった	53	13.9	14.7	96.4
	まったく重視しなかった	13	3.4	3.6	100.0
	合計	360	94.5	100.0	
欠損値	99	21	5.5		
合計		381	100.0		

h　趣味や社会貢献などの生きがい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	46	12.1	12.8	12.8
	まあまあ重視した	165	43.3	45.8	58.6
	あまり重視しなかった	105	27.6	29.2	87.8
	まったく重視しなかった	44	11.5	12.2	100.0
	合計	360	94.5	100.0	
欠損値	99	21	5.5		
合計		381	100.0		

i　家族関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	191	50.1	52.3	52.3
	まあまあ重視した	142	37.3	38.9	91.2
	あまり重視しなかった	20	5.2	5.5	96.7
	まったく重視しなかった	12	3.1	3.3	100.0
	合計	365	95.8	100.0	
欠損値	99	16	4.2		
合計		381	100.0		

j　友人関係（職場の友人等は除く）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	87	22.8	24.1	24.1
	まあまあ重視した	180	47.2	49.9	74.0
	あまり重視しなかった	65	17.1	18.0	92.0
	まったく重視しなかった	29	7.6	8.0	100.0
	合計	361	94.8	100.0	
欠損値	99	20	5.2		
合計		381	100.0		

k　職場の人間関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	38	10.0	13.3	13.3
	まあまあ重視した	112	29.4	39.2	52.4
	あまり重視しなかった	69	18.1	24.1	76.6
	まったく重視しなかった	67	17.6	23.4	100.0
	合計	286	75.1	100.0	
欠損値	99	95	24.9		
合計		381	100.0		

m　地域コミュニティとの関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても重視した	15	3.9	4.2	4.2
	まあまあ重視した	102	26.8	28.3	32.4
	あまり重視しなかった	139	36.5	38.5	70.9
	まったく重視しなかった	105	27.6	29.1	100.0
	合計	361	94.8	100.0	
欠損値	99	20	5.2		
合計		381	100.0		

Ｈ３　あなたは、日ごろ、孤独を感じることがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく感じる	21	5.5	5.7	5.7
	ときどき感じる	126	33.1	34.1	39.7
	あまり感じない	155	40.7	41.9	81.6
	まったく感じない	68	17.8	18.4	100.0
	合計	370	97.1	100.0	
欠損値	99	11	2.9		
合計		381	100.0		

Ｈ４　あなたは、この１週間以内に、誰とも会話することのなかった日が４日以上ありましたか（ただし、ここで言う「会話」は、挨拶やコンビニのお会計の際などの会話は入らないものとします）。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	23	6.0	6.2	6.2
	ない	349	91.6	93.8	100.0
	合計	372	97.6	100.0	
欠損値	99	9	2.4		
合計		381	100.0		

Ｊ１　あなたの性別（ａ）と年齢（ｂ）をお聞きします。

ａ．性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男	127	33.3	34.0	34.0
	女	247	64.8	66.0	100.0
	合計	374	98.2	100.0	
欠損値	99	7	1.8		
合計		381	100.0		

ｂ．年齢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	20～24歳	7	1.8	1.9	1.9
	25～29歳	11	2.9	3.0	4.9
	30～34歳	18	4.7	4.9	9.7
	35～39歳	27	7.1	7.3	17.0
	40～44歳	38	10.0	10.2	27.2
	45～49歳	32	8.4	8.6	35.8
	50～54歳	25	6.6	6.7	42.6
	55～59歳	31	8.1	8.4	50.9
	60～64歳	55	14.4	14.8	65.8
	65～69歳	54	14.2	14.6	80.3
	70～74歳	31	8.1	8.4	88.7
	75～79歳	42	11.0	11.3	100.0
	合計	371	97.4	100.0	
欠損値	99	10	2.6		
合計		381	100.0		

最小値：20、最大値：79

平均値：55.88、中央値：59.0、最頻値：68.0、標準偏差：14.94

Ｊ２　あなたの配偶関係についてお聞きします。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	有配偶	286	75.1	76.7	76.7
	未婚	41	10.8	11.0	87.7
	離別・死別	46	12.1	12.3	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

Ｊ３　あなたは、現在、どなたと一緒にお住まいですか。

一人暮らし

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非該当	323	84.8	86.6	86.6
	該当	50	13.1	13.4	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

配偶者

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	89	23.4	23.9	23.9
	あり	284	74.5	76.1	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

自分の親

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	341	89.5	91.4	91.4
	あり	32	8.4	8.6	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

配偶者の親

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	361	94.8	96.8	96.8
	あり	12	3.1	3.2	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

自分の子ども

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	207	54.3	55.5	55.5
	あり	166	43.6	44.5	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

自分の祖父母

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	372	97.6	99.7	99.7
	あり	1	.3	.3	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

自分の孫

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	363	95.3	97.3	97.3
	あり	10	2.6	2.7	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

自分の兄弟・姉妹

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	364	95.5	97.6	97.6
	あり	9	2.4	2.4	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

配偶者の兄弟姉妹

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	371	97.4	99.5	99.5
	あり	2	.5	.5	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	370	97.1	99.2	99.2
	あり	3	.8	.8	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

家族構成

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ひとり暮らし	50	13.1	13.4	13.4
	夫婦のみ	121	31.8	32.4	45.8
	二世代（夫婦と子・ひとり親と子）	156	40.9	41.8	87.6
	三世代	16	4.2	4.3	91.9
	その他	30	7.9	8.0	100.0
	合計	373	97.9	100.0	
欠損値	99	8	2.1		
合計		381	100.0		

Ｊ４　あなたには、以下のような年齢のお子さんがいますか。

３歳未満の子ども

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	339	89.0	94.4	94.4
	あり	20	5.2	5.6	100.0
	合計	359	94.2	100.0	
欠損値	99	22	5.8		
合計		381	100.0		

３歳～小学校入学前の子ども

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	335	87.9	93.3	93.3
	あり	24	6.3	6.7	100.0
	合計	359	94.2	100.0	
欠損値	99	22	5.8		
合計		381	100.0		

小学校１～３年生の子ども

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	336	88.2	93.6	93.6
	あり	23	6.0	6.4	100.0
	合計	359	94.2	100.0	
欠損値	99	22	5.8		
合計		381	100.0		

小学校４～６年生の子ども

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	328	86.1	91.4	91.4
	あり	31	8.1	8.6	100.0
	合計	359	94.2	100.0	
欠損値	99	22	5.8		
合計		381	100.0		

上記の年齢に当たる子どもはいない/子どもはいない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	該当しない	71	18.6	19.8	19.8
	該当する	288	75.6	80.2	100.0
	合計	359	94.2	100.0	
欠損値	99	22	5.8		
合計		381	100.0		

Ｊ５　あなたの住居形態についてお聞きします。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	一戸建て（持ち家）	247	64.8	67.7	67.7
	一戸建て（賃貸）	8	2.1	2.2	69.9
	集合住宅（持ち家）	50	13.1	13.7	83.6
	集合住宅（賃貸）	60	15.7	16.4	100.0
	合計	365	95.8	100.0	
欠損値	99	16	4.2		
合計		381	100.0		

Ｋ１　あなたの現在のご職業は次のどれにあたりますか。下記の１～10のうちからもっとも近いと考えられるもの１つを選んで、その番号に〇をつけてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	農林水産業	2	.5	.6	.6
	自営の商工業	16	4.2	4.5	5.1
	専門・自由業	33	8.7	9.3	14.3
	管理職	17	4.5	4.8	19.1
	事務系の勤め人	57	15.0	16.0	35.1
	作業系の勤め人	26	6.8	7.3	42.4
	販売・サービス	18	4.7	5.1	47.5
	その他	13	3.4	3.7	51.1
	主婦	116	30.4	32.6	83.7
	学生	4	1.0	1.1	84.8
	無職	54	14.2	15.2	100.0
	合計	356	93.4	100.0	
欠損値	99	25	6.6		
合計		381	100.0		

Ｋ２・Ｋ３はお仕事をされている方のみ。

Ｋ２　現在、働いている方にお聞きします。あなたの勤務形態は次のどれにあたりますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	正社員	89	23.4	49.2	49.2
	自営業	21	5.5	11.6	60.8
	派遣・契約社員	18	4.7	9.9	70.7
	パート・アルバイト	53	13.9	29.3	100.0
	合計	181	47.5	100.0	
欠損値	88	199	52.2		
	99	1	.3		
	合計	200	52.5		
合計		381	100.0		

Ｋ３　あなたは週に何時間くらい仕事をしていますか。残業の時間も含め、[　] 内に数字を記入してください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0～10時間	16	4.2	9.0	9.0
	11～20時間	27	7.1	15.2	24.2
	21～30時間	19	5.0	10.7	34.8
	31～40時間	53	13.9	29.8	64.6
	41～50時間	42	11.0	23.6	88.2
	51～60時間	14	3.7	7.9	96.1
	61時間以上	7	1.8	3.9	100.0
	合計	178	46.7	100.0	
欠損値	99	203	53.3		
合計		381	100.0		

最小値：2.0、最大値：75.0

平均値：36.13、中央値：40.0、最頻値：40.0、標準偏差：15.97

Ｋ４　仕事や学校、家事や身の回りの用事などにあてる以外の自由な時間は、１日に何時間くらいありますか。平日と休日のそれぞれについて、[　] 内に数字を記入してください。

平日の自由時間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1時間未満	11	2.9	3.4	3.4
	1時間以上3時間未満	83	21.8	25.5	28.9
	3時間以上5時間未満	90	23.6	27.7	56.6
	5時間以上7時間未満	71	18.6	21.8	78.5
	7時間以上10時間未満	39	10.2	12.0	90.5
	10時間以上	31	8.1	9.5	100.0
	合計	325	85.3	100.0	
欠損値	99	56	14.7		
合計		381	100.0		

最小値：0、最大値：22

平均値：4.66、中央値：4.0、最頻値：3.0、標準偏差：3.44

休日の自由時間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1時間未満	11	2.9	3.4	3.4
	1時間以上3時間未満	83	21.8	25.5	28.9
	3時間以上5時間未満	90	23.6	27.7	56.6
	5時間以上7時間未満	71	18.6	21.8	78.5
	7時間以上10時間未満	39	10.2	12.0	90.5
	10時間以上	31	8.1	9.5	100.0
	合計	325	85.3	100.0	
欠損値	99	56	14.7		
合計		381	100.0		

最小値：0、最大値：22

平均値：7.01、中央値：6.0、最頻値：5.0、標準偏差：3.97

Ｋ５　あなたは余暇を主にどのように過ごしていますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	好きなことをして楽しむ	191	50.1	56.7	56.7
	体を休める	78	20.5	23.1	79.8
	運動をして体を鍛える	14	3.7	4.2	84.0
	知識を身につける	8	2.1	2.4	86.4
	友人や知人との結びつきを深める	29	7.6	8.6	95.0
	世の中のためになる活動をする	4	1.0	1.2	96.1
	その他	10	2.6	3.0	99.1
	余暇時間がない	3	.8	.9	100.0
	合計	337	88.5	100.0	
欠損値	99	44	11.5		
合計		381	100.0		

Ｌ１　あなたは自分の健康状態をどのように感じていますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても良い	49	12.9	13.5	13.5
	まあまあ良い	235	61.7	64.6	78.0
	あまり良くない	68	17.8	18.7	96.7
	良くない	12	3.1	3.3	100.0
	合計	364	95.5	100.0	
欠損値	99	17	4.5		
合計		381	100.0		

Ｌ２　世間一般と比べて、あなたのご家庭の収入はどれくらいですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	平均よりかなり多い	6	1.6	1.7	1.7
	平均より多い	77	20.2	21.3	22.9
	どちらかといえば平均	145	38.1	40.1	63.0
	どちらかといえば平均より少ない	71	18.6	19.6	82.6
	平均より少ない	46	12.1	12.7	95.3
	平均よりかなり少ない	17	4.5	4.7	100.0
	合計	362	95.0	100.0	
欠損値	99	19	5.0		
合計		381	100.0		

Ｌ３　現在のあなたのご家庭の経済状態はどうですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	困っている	19	5.0	5.0	5.0
	少し困っている	105	27.6	27.7	32.7
	あまり困っていない	145	38.1	38.3	71.0
	困っていない	110	28.9	29.0	100.0
	合計	379	99.5	100.0	
欠損値	99	2	.5		
合計		381	100.0		

Ｍ１　あなたは現在お住いの地域に何年住んでいますか。[　] 内に数字をご記入ください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	10年未満	135	35.4	35.9	35.9
	10年以上20年未満	62	16.3	16.5	52.4
	20年以上30年未満	50	13.1	13.3	65.7
	30年以上40年未満	37	9.7	9.8	75.5
	40年以上50年未満	58	15.2	15.4	91.0
	50年以上60年未満	18	4.7	4.8	95.7
	60年以上70年未満	13	3.4	3.5	99.2
	70年以上80年未満	3	.8	.8	100.0
	合計	376	98.7	100.0	
欠損値	99	5	1.3		
合計		381	100.0		

最小値：1ヶ月未満、最大値：79年5ヶ月

平均値：268.4ヶ月（≒22年4ヶ月）、標準偏差：220.18

中央値：214ヶ月（≒17年10ヶ月）、最頻値：480ヶ月（＝40年）

Ｍ２　あなたがお住まいの地域は、どの程度住みやすいと思いますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても住みやすい	59	15.5	15.6	15.6
	まあまあ住みやすい	270	70.9	71.2	86.8
	あまり住みやすくない	43	11.3	11.3	98.2
	住みにくい	7	1.8	1.8	100.0
	合計	379	99.5	100.0	
欠損値	99	2	.5		
合計		381	100.0		

Ｍ３　あなたは、今お住まいの地域に、どのくらい愛着がありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても愛着がある	53	13.9	13.9	13.9
	まあまあ愛着がある	238	62.5	62.6	76.6
	あまり愛着がない	75	19.7	19.7	96.3
	愛着がない	14	3.7	3.7	100.0
	合計	380	99.7	100.0	
欠損値	99	1	.3		
合計		381	100.0		

Ｍ４　あなたは今後もこの地域に住み続けたいと思いますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	住み続けたい	119	31.2	31.3	31.3
	まあまあ住み続けたい	191	50.1	50.3	81.6
	あまり住み続けたくない	54	14.2	14.2	95.8
	住み続けたくない	16	4.2	4.2	100.0
	合計	380	99.7	100.0	
欠損値	99	1	.3		
合計		381	100.0		

調　　査　　票

地域生活に関するアンケート

アンケートのお願い

淑徳大学コミュニティ政策学部では、日頃より、地域の社会問題に対し、コミュニティの再生・形成という視点から調査研究活動を行っております。

本アンケートは、白旗台地区にお住まいのみなさまの生活の実態や、近隣の人びととのお付き合いについておうかがいするものです。近隣関係の希薄化や孤独死などが問題視されるなかで、この白旗台地区という地域が、みなさまにとって少しでも暮らしやすい地域になるよう、何かお役に立てればと考え、アンケートを企画いたしました。

質問項目のなかには、みなさまの人間関係などについておうかがいするものもございますが、お差しつかえのない範囲でご記入いただけましたら幸いです。

みなさま方のお宅は、住宅地図をもとに、白旗台地区の全住宅のなかから７軒おきの間隔で選ばせていただきました。この調査は無記名でお答えいただくことになっており、ご回答はすべて数字で処理されますので、みなさま方のお名前やご住所などの個人情報が外に出ることはありません。どうぞありのままをご記入くださいますようお願い申し上げます。また、このアンケートは、集計終了後、当大学が責任をもってすべて焼却処分いたします。

以上の趣旨をご理解いただき、何卒このアンケートにご協力くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

ご記入にあたってのご注意

このアンケートは白旗台地区在住の 20～79 歳の個人を対象とするものです。

そのため、このアンケートへのご回答は、同居しているご家族のなかで 20～79 歳の年齢に当たる方にお願いしたいと思っております。また、20～79 歳の方が複数いる場合には、アンケート配布日以降もっとも早く誕生日を迎える方にお願いいたします。

回答のしかたは、それぞれの質問によって、選択肢に「○」をつけていただくものと、直接［　］の中に数字等をご記入いただくものがあります。どの回答が正しいとか、すぐれているとかいったことはありませんので、けっして他の人と相談したりなさらずに、回答者様ご自身のありのままのお気持ちや状態をお答えください。

※　回答いただいたアンケートは、**平成 24 年 7 月 19 日（火）**までに、同封の返信用封筒にてご返送ください。

なお、このアンケート調査についてご不明な点や、ご質問がございましたら下記までお問い合わせください。

調査責任者　：　淑徳大学教授　桝潟俊子
社会調査助手　佐藤麻衣

連絡先　：　淑徳大学コミュニティ政策学部
〒260-8701　千葉市中央区大巌寺町 200
043-265-7331（内線 559）
fieldwrk@soc.shukutoku.ac.jp

まずはじめに、あなたのお住まいの地域についてお伺いします。

Ａ１　あなたは、あなたのお住まいの地域（歩いて 15 分くらいの範囲）について、どのように感じていますか。下記のａ～ｉのそれぞれについて、１～４のうちから当てはまるもの１つを選んで、その番号に〇をつけてください。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 あてはまらない
ａ．電車を利用するのに便利	1	2	3	4
ｂ．バスを利用するのに便利	1	2	3	4
ｃ．食料品を買うのに便利	1	2	3	4
ｄ．日用品を買うのに便利	1	2	3	4
ｅ．普段使う道路は街灯が整備されている	1	2	3	4
ｆ．普段使う歩道は車道と分かれている	1	2	3	4
ｇ．治安がいい	1	2	3	4
ｈ．近くにかかりつけの医療機関がある	1	2	3	4
ｉ．災害が起きた時の避難場所が近くにある	1	2	3	4

Ａ２　あなたがふだんよく利用する電車の駅は、あなたのお住まいから徒歩でどれくらいかかりますか。下記の１～６のうちから<u>あてはまるもの１つ</u>を選んで、その番号に〇をつけてください。

１．１～５分　　２．６～１０分　　３．１１～１５分

４．１６～３０分未満　　５．３０分以上　　６．ふだん電車は利用しない

Ａ３　あなたがふだんよく利用しているバスや電車はどれくらいの間隔で運行していますか。
ａ．電車、ｂ．バスのそれぞれについて、下記の１～６のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。なお、ふだん利用する路線が複数ある場合は、もっともよく使う路線についてお答えください。

a. バス　１．１～５分　２．６～１０分　３．１１～１５分
４．１６～３０分未満　５．３０分以上　６．ふだんバスは利用しない

b. 電車　１．１～５分　２．６～１０分　３．１１～１５分
４．１６～３０分未満　５．３０分以上　６．ふだん電車は利用しない

Ａ４　あなたがふだん利用しているバス、電車の、平日の最終便は何時台ですか。
ａ．電車、ｂ．バスのそれぞれについて、下記の１～６のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

a. バス　１．夜８時より前　２．夜８時台　３．夜９時台
４．夜１０時台　５．夜１１時以降
６．わからない／ふだんバスは利用しない

b. 電車　１．夜９時より前　２．夜９時台　３．夜１０時台
４．夜１１時台　５．夜１２時以降
６．わからない／ふだん電車は利用しない

Ａ５　あなたがふだん利用している路線が遅延や運休した場合、その代わりとなる路線はありますか。
ａ．電車、ｂ．バスのそれぞれについて、下記の１～３のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

a. バス　１．ある　２．ない　３．ふだんバスは利用しない

b. 電車　１．ある　２．ない　３．ふだん電車は利用しない

Ａ６　あなたの世帯は、町内会や自治会に加入していますか。下記の１・２のうちあてはまるほうに○をつけてください。

１．加入している　２．加入していない

Ａ７　あなたはこの１年間に、次のａ～ｅのような地域の活動に、どの程度参加しましたか。下記の１～６のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

	1 半月に1回程度	2 1か月に1回程度	3 2～3か月に1回程度	4 半年に1回程度	5 1年に1回程度	6 参加しなかった
ａ．婦人会・老人会・子ども会活動	1	2	3	4	5	6
ｂ．防災・防犯・交通安全活動	1	2	3	4	5	6
ｃ．趣味・娯楽・スポーツ活動	1	2	3	4	5	6
ｄ．生涯学習活動	1	2	3	4	5	6
ｅ．高齢者・子ども・障害者福祉活動	1	2	3	4	5	6

Ａ８　下記のａ～ｆについて、あなたがお住まいのところで行われている地域サービスのなかで知っているもの、実際に参加したり利用したりしたものはありますか。それぞれについて、下記の１～３のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

	1 参加または利用したことがある	2 知っているが参加や利用はしたことがない	3 知らない
ａ．ふれあいいきいきサロン	1	2	3
ｂ．ふれあい子育てサロン	1	2	3
ｃ．ふれあい食事サービス	1	2	3
ｄ．ふれあい散歩クラブ	1	2	3
ｅ．ボランティア講座	1	2	3
ｆ．子ども 110 番の家	1	2	3

Ａ９　あなたがお住まいの地域では、以下のａ～ｉのようなサービスがどの程度充実していると思いますか。下記の１～５のうちから<u>あてはまるもの１つ</u>を選んで、その番号に〇をつけてください。

	1 充実している	2 まあ充実している	3 あまり充実していない	4 充実していない	5 わからない
ａ．高齢者の日常生活をサポートするサービス	1	2	3	4	5
ｂ．高齢者やその家族が気軽に相談できる場の提供	1	2	3	4	5
ｃ．高齢者が誰でも気軽に参加できる場、交流できる場	1	2	3	4	5
ｄ．気軽に子育ての相談ができる場の提供	1	2	3	4	5
ｅ．ボランティアを利用するための情報提供	1	2	3	4	5
ｆ．ボランティア活動を行うための場や情報の提供	1	2	3	4	5
ｇ．住んでいる地域のイベントや活動の情報提供	1	2	3	4	5
ｈ．生活で困ったことを気軽に相談できる場の提供	1	2	3	4	5
ｉ．地域での見守り活動	1	2	3	4	5

Ａ10　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、<u>専門家やサービス機関（行政・金融機関・ヘルパーなど）</u>をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。下記の１～４のうちから<u>あてはまるもの１つ</u>を選んで、その番号に〇をつけてください。

	1 とても頼りにする	2 ある程度頼りにする	3 あまり頼りにしない	4 まったく頼りにしない
ａ．問題を抱えて落ち込んだり、混乱したとき	1	2	3	4
ｂ．急いでお金を借りなければならないとき	1	2	3	4
ｃ．病気や事故で人手が必要なとき	1	2	3	4
ｄ．育児や介護で助けが必要なとき	1	2	3	4

次に、あなたのご近所づきあいについておうかがいします。

Ｂ１　あなたは、隣近所に次のａ～ｆような方がいますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に〇をつけてください。

	1 たくさんいる	2 数人いる	3 一人二人いる	4 まったくいない
ａ．挨拶程度の付き合いをする人	1	2	3	4
ｂ．庭先や道端でよく立ち話をする人	1	2	3	4
ｃ．家をよく訪問する人	1	2	3	4
ｄ．よくおすそ分けをし合う人	1	2	3	4
ｅ．家族ぐるみの付き合いをしている人	1	2	3	4
ｆ．よく一緒に外出するような関係の人	1	2	3	4

Ｂ２　あなたの隣近所との付き合いは、10 年前と比べてどう変わりましたか。下記の１～６のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に〇をつけてください。

１．親密になった　　２．やや親密になった　　３．変わらない

４．やや疎遠になった　　５．疎遠になった

６．10 年前はここに住んでいなかった

Ｂ３　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、近所や地域の人をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に〇をつけてください。

	1 とても頼りにする	2 ある程度頼りにする	3 あまり頼りにしない	4 まったく頼りにしない
ａ．問題を抱えて落ち込んだり、混乱したとき	1	2	3	4
ｂ．急いでお金を借りなければならないとき	1	2	3	4
ｃ．病気や事故で人手が必要なとき	1	2	3	4
ｄ．育児や介護で助けが必要なとき	1	2	3	4

次に、ご近所の方以外のさまざまな関係の人とのお付き合いについてお伺いします。

Ｃ１　あなたは、この１年間に、家族（同居していない家族も含む）と「話らしい話」をどれくらいしましたか。下記の１～９のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．ほぼ毎日　　２．週に４～５回　　３．週に２～３回

４．週に１回　　５．月に１～２回　　６．年に数回

７．年に１回程度　　８．この１年間では「話らしい話」をしていない

９．家族に当たるような人はいない

Ｃ２　あなたは、ふだん、家族（同居していない家族も含む）とどれくらいいっしょに出かけることがありますか。下記の１～11 のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．ほぼ毎日　　２．週に４～５回　　３．週に２～３回

４．週に１回　　５．月に２～３回　　６．月に１回

７．年に数回　　８．年に１回程度　　９．数年に１回程度

10．いっしょに出かけることはない

11．家族に当たるような人はいない

Ｃ３　あなたは、家族（同居していない家族も含む）が自分のことを気にかけてくれていると感じますか。下記の１～５のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．とてもそう思う　　２．まあまあそう思う

３．あまりそう思わない　　４．まったくそう思わない

５．家族に当たるような人はいない

Ｃ４　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、家族（同居していない家族も含む）をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に〇をつけてください。

1	2	3	4
とても頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにしない	まったく頼りにしない

ａ．問題を抱えて落ち込んだり、混乱したとき　・・・・・・・・　1……2……3……4

ｂ．急いでお金を借りなければならないとき　・・・・・・・・・・　1……2……3……4

ｃ．病気や事故で人手が必要なとき　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1……2……3……4

ｄ．育児や介護で助けが必要なとき　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1……2……3……4

Ｄ１　あなたは、ふだん、親せきや親類とどれくらい交流をしていますか。（電話やメールも含む）下記の１～６のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に〇をつけてください。

１．月１回以上　　２．年に数回　　３．年に１回程度

４．数年に１回程度　　５．まったく交流がない　　６．親せきや親類はいない

Ｄ２　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、親せきや親類をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に〇をつけてください。

1	2	3	4
とても頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにしない	まったく頼りにしない

ａ．問題を抱えて落ち込んだり、混乱したとき　・・・・・・・・　1……2……3……4

ｂ．急いでお金を借りなければならないとき　・・・・・・・・・・　1……2……3……4

ｃ．病気や事故で人手が必要なとき　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1……2……3……4

ｄ．育児や介護で助けが必要なとき　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1……2……3……4

以下のＥ１～Ｅ４の質問は、お仕事をされている方にお伺いします。（ただし、学生でアルバイトをされている方は除きます）
専業主婦の方、学生の方など、お仕事をされていない方は、次ページのＦ１にお進みください。

Ｅ１　あなたは、この１週間に、職場の人と雑談程度の会話をしましたか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．頻繁にした　　２．ときどきした
３．ほとんどしなかった　　４．まったくしなかった

Ｅ２　あなたはふだん、職場の人と仕事以外で時間を共有することはどれくらいありますか。
（ただし、接待など、仕事と関わりのある時間は除きます）
下記の１～７のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．週１回以上　　２．月に２～３回　　３．月に１回
４．年に数回　　５．年に１回程度　　６．数年に１回程度
７．仕事以外で時間を共有することはない

Ｅ３　あなたが、日ごろ、職場で食事をとるときの状況はどのようなものですか。下記の１～４のうちからその状況にもっとも近いもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．職場の人と会話をしながら食事をとる
２．同じ場所に人がいながらもひとりでとる
３．異なる場所で、ひとりでとる
４．その他（具体的に：　　）

Ｅ４　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、職場の人をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

1	2	3	4
とても頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにしない	まったく頼りにしない

ａ．問題を抱えて落ち込んだり、混乱したとき　・・・・・・・・　1 …… 2 …… 3 …… 4

ｂ．急いでお金を借りなければならないとき　・・・・・・・・・・　1 …… 2 …… 3 …… 4

ｃ．病気や事故で人手が必要なとき　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1 …… 2 …… 3 …… 4

ｄ．育児や介護で助けが必要なとき　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1 …… 2 …… 3 …… 4

以下のＦ１以降は、全員にお聞きします。

Ｆ１　あなたには、「たわいのない話」をする友人や知人（職場の友人等は除く）がどれくらいいますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．たくさんいる　　２．まあまあいる

３．ほとんどいない　　４．まったくいない

Ｆ２　あなたは、ふだん、友人や知人（職場の友人等は除く）と、どれくらいいっしょに出かけることがありますか。（仕事帰りや学校帰りの時間も含みます）
下記の１～７のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．週１回以上　　２．月に２～３回　　３．月に１回

４．年に数回　　５．年に１回程度　　６．数年に１回程度

７．いっしょに出かけることはない

Ｆ３　あなたには、一緒にいるとほっとする友人や知人（職場の友人等は除く）が何人くらいいますか。思い浮んだ人の人数を［　］内にお書きください。いない場合は［　］に「0」とお書きください。

（　　）人くらい

Ｆ４　あなたは次のａ～ｄのような問題が起きたとき、友人や知人（職場の友人等は除く）をどの程度、援助や相談の相手として頼りにしていますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

1	2	3	4
とても頼りにする	ある程度頼りにする	あまり頼りにしない	まったく頼りにしない

ａ．問題を抱えて落ち込んだり、混乱したとき　……　1……2……3……4

ｂ．急いでお金を借りなければならないとき　……　1……2……3……4

ｃ．病気や事故で人手が必要なとき　……　1……2……3……4

ｄ．育児や介護で助けが必要なとき　……　1……2……3……4

Ｇ１　あなたは、以下のａ～ｅのような人びととの関係をどの程度大切にしていますか。それぞれについて、下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

1	2	3	4
とても大切にしている	ある程度大切にしている	あまり大切にしていない	まったく大切にしていない

ａ．家族　……　1……2……3……4

ｂ．親せきや親類　……　1……2……3……4

ｃ．友人や知人（職場の友人等は除く）……　1……2……3……4

ｄ．職場の仲間　……　1……2……3……4

ｅ．地域の人　……　1……2……3……4

次に、現在の生活に対するあなたご自身のお気持ちなどについてお伺いします。

Ｈ１　あなたは幸せですか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．とても幸せ　　２．まあまあ幸せ

３．あまり幸せでない　　４．まったく幸せでない

Ｈ２　上記のＨ１において幸福感を判断したさい、あなたは次のａ～ｍような事柄をどの程度重視しましたか。下記の１～４のうちからあてはまるものを１つ選んで、その番号に○をつけてください。

	1 とても重視した	2 まあまあ重視した	3 あまり重視しなかった	4 まったく重視しなかった
ａ．所得や消費など家計の状況	1	2	3	4
ｂ．仕事の有無や安定などの就業状況	1	2	3	4
ｃ．健康状態	1	2	3	4
ｄ．自由な時間	1	2	3	4
ｅ．充実した余暇	1	2	3	4
ｆ．仕事の充実	1	2	3	4
ｇ．精神的なゆとり	1	2	3	4
ｈ．趣味や社会貢献などの生きがい	1	2	3	4
ｉ．家族関係	1	2	3	4
ｊ．友人関係（職場の友人等は除く）	1	2	3	4
ｋ．職場の人間関係	1	2	3	4
ｍ．地域コミュニティとの関係	1	2	3	4

Ｈ３　あなたは、日ごろ、孤独を感じることがありますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．よく感じる　　２．ときどき感じる

３．あまり感じない　　４．まったく感じない

Ｈ４　あなたは、この１週間以内に、誰とも会話することのなかった日が４日以上ありましたか（ただし、ここで言う「会話」は、挨拶やコンビニのお会計の際などの会話は入らないものとします）。下記の１・２のうちあてはまるほうに○をつけてください。

１．ある　　２．ない

最後に、この調査の結果を分析するために必要なことを、いくつかお聞きします。少々立ち入ったこともお伺いしますが、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

Ｊ１　あなたの性別と年齢をお聞きします。

ａ．あなたの性別は　　１．男　　２．女

ｂ．あなたの年齢は　　（　　）歳

Ｊ２　あなたの配偶関係についてお聞きします。下記の１～３のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．有配偶（パートナーがいる）　　２．未婚　　３．離別・死別

Ｊ３　あなたは、現在、どなたと一緒にお住まいですか。下記の１～９のうちからあてはまるものすべてを選んで、その番号に○をつけてください。

１．１人暮らし　　２．配偶者（パートナー）　　３．あなたの親

４．配偶者(パートナー)の親　　５．あなたの子ども　　６．あなたの祖父母

７．あなたの孫　　８．あなたの兄弟・姉妹　　９．その他(　　)

Ｊ４　あなたには、以下のような年齢のお子さんがいますか。下記の１～５のうちからあてはまるものすべてを選んで、○をつけてください。

１．３歳未満の子ども　　２．３歳～小学校入学前の子ども

３．小学校１～３年生の子ども　　４．小学校４～６年生の子ども

５．上記の年齢に当たる子どもはいない／子どもはいない

Ｊ５　あなたの住居形態についてお聞きします。下記の１～５のうちからあてはまるもの１つを選んでその番号に○をつけてください。

１．　一戸建て（持ち家）　　２．　一戸建て（賃貸）

３．　集合住宅（持ち家）　　４．　集合住宅（賃貸）

５．　その他（　　）

Ｋ１　あなたの現在のご職業は次のどれにあたりますか。下記の１～10のうちからもっとも近いと考えられるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

【働いている方】

１．農林水産業　　２．自営の商工業

３．専門、自由業（教員、医者など）　　４．管理職（課長以上）

５．事務系の勤め人（ホワイトカラー）　　６．作業系の勤め人（ブルーカラー）

７．その他（　　）

【働いていない方】

８．主婦（主夫）　　９．学生　　１０．無職

８～９を選んだ方は、
次ページのＫ４にお進みください。

Ｋ２・Ｋ３は、お仕事をしている方にお伺いします。

Ｋ２　現在、働いている方にお聞きします。あなたの勤務形態は次のどれにあたりますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．正社員　　２．自営業

３．派遣・契約社員　　４．パート・アルバイト

Ｋ３　あなたは週に何時間くらい仕事をしていますか。残業の時間も含め、[　] 内に数字を記入してください。

週に　（　　）時間くらい

以下のＫ４以降は、全員にお聞きします。

Ｋ４　仕事や学校、家事や身の回りの用事などにあてる以外の自由な時間は、１日に何時間くらいありますか。平日と休日のそれぞれについて、[　] 内に数字を記入してください。

平日　（　　）時間くらい／日

休日　（　　）時間くらい／日

Ｋ５　あなたは余暇を主にどのように過ごしていますか。下記の１～７のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．好きなことを楽しむ　　２．体を休める

３．運動をして体を鍛える　　４．知識を身につける

５．友人や家族との結びつきを深める　　６．世の中のためになる活動をする

７．その他（具体的に：　　）

Ｌ１　あなたは自分の健康状態をどのように感じていますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．とても良い　　２．まあまあ良い

３．あまり良くない　　４．良くない

Ｌ２　世間一般と比べて、あなたのご家庭の収入はどれくらいですか。下記の１～６のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．平均よりかなり多い　　２．平均より多い

３．どちらかといえば平均　　４．どちらかといえば平均より少ない

５．平均より少ない　　６．平均よりかなり少ない

Ｌ３　現在のあなたのご家庭の経済状態はどうですか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．困っている　　２．少し困っている

３．あまり困っていない　　４．困っていない

Ｍ１　あなたは現在お住いの地域に何年住んでいますか。[　] 内に数字をご記入ください。１ヵ月未満の方は［０］年［１］ヵ月とお答えください。

（　　）年（　　）ヵ月

Ｍ２　あなたがお住まいの地域は、どの程度住みやすいと思いますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．とても住みやすい　　２．まあまあ住みやすい

３．あまり住みやすくない　　４．住みにくい

Ｍ３　あなたは、今お住まいの地域に、どのくらい愛着がありますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１.とても愛着がある　　２．まあまあ愛着がある

３．あまり愛着がない　　４．愛着がない

Ｍ４　あなたは今後もこの地域に住み続けたいと思いますか。下記の１～４のうちからあてはまるもの１つを選んで、その番号に○をつけてください。

１．住み続けたい　　２．まあまあ住み続けたい

３．あまり住み続けたくない　　４．住み続けたくない

以上で質問は終わりです。長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

平成 24 年度　社会調査実習報告書　第 1 号

発　行：2013 年 3 月 31 日
発行者：淑徳大学コミュニティ政策学部
〒260-8701
千葉市中央区大巌寺町 200
TEL　043－265－7331
印　刷：株式会社　正文社